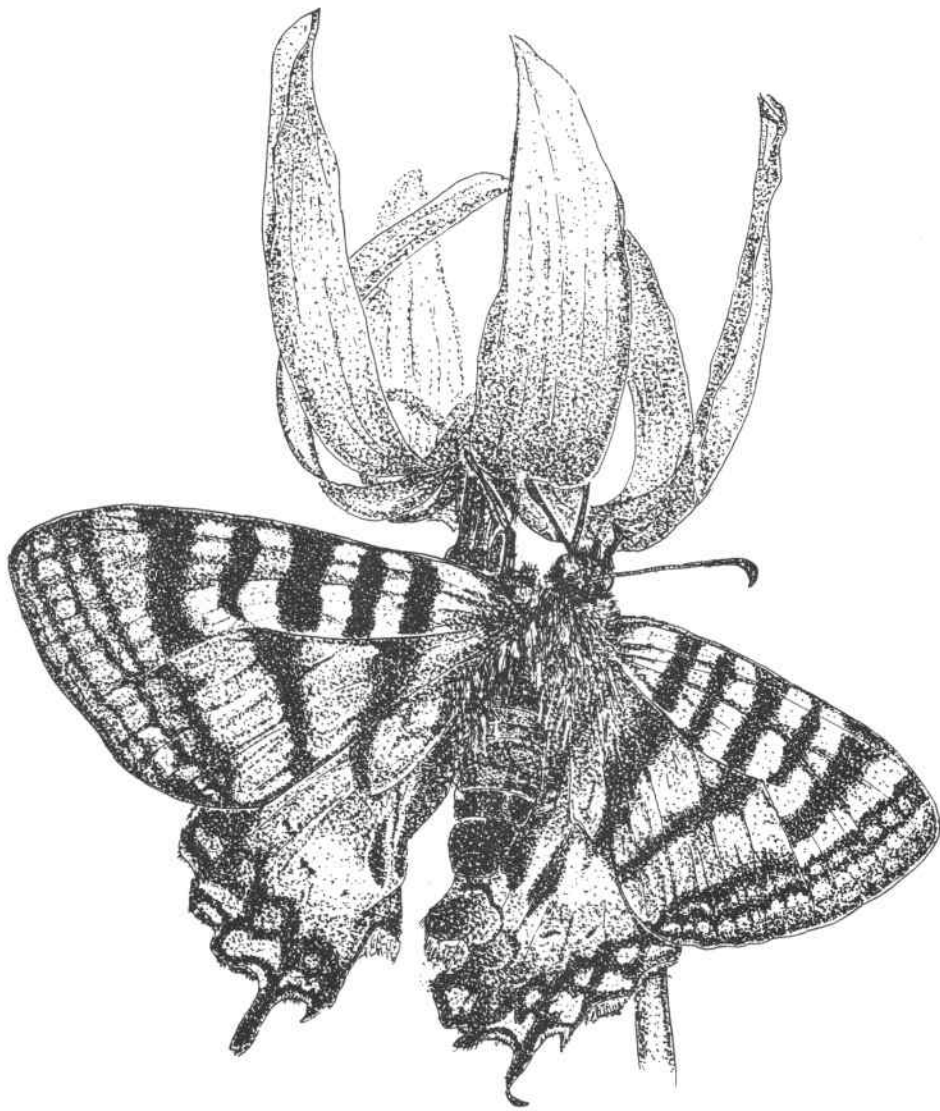


紀

要

第 15 号



〈平成 18 年度〉

茅野市八ヶ岳総合博物館

発刊に寄せて

本年度は、写真展「我がふるさと諏訪～次世代に送りたい自然と文化～」、特別展「八ヶ岳のチョウたち」を開催し、身近な風景や懐かしい光景、美しいチョウや絶滅に直面しつつあるチョウたちなど、この郷土にゆかりのあるテーマを掘り下げてまいりました。また文芸館では「矢崎虎夫・原天明展～水墨画と俳句がおりなす世界～」、つづいて「島崎藤村と木下尚江～伊東一夫博士からの伝言～」など郷土の産んだ巨匠たちが遺した数々の名作、遺品などを企画・展示致しました。これらはパンフレットや図録として残されましたが、現在開催中の「島崎藤村と木下尚江」展の図録は、ここに再掲いたしました。

また一般講座では“ふるさと講座”として『寒天の日』制定記念講座「毎日寒天!!」等、“ロビー体験コーナー”では「はたおりでランチョンマット」等々、できるだけ市民の皆さんが気軽に、より身近で親しみのもてる企画展・講座をと腐心してきたつもりであります。

本館では毎年紀要を発刊しておりますが、これもできるだけ地域に密着した生活情報や、より身近な自然事象のデーターを発掘、収集し、発信、記録しようと考えております。

今号は、一昨年11月より毎月観測している柳川の美濃戸、多留姫神社、下古田、そして上川との合流後1km下流の御座石神社東など4地点の水温・気温・pH・電気伝導度の記録をグラフにして掲載しました。電気伝導度のグラフを見て頂ければ昨年7月豪雨の影響の顕著さがわかっていただけるかと思います。しかしながら、1ヶ月後には何事も無かったかのようにその地点特有の値に戻っているのも自然や人の影響が成せる不思議な技を感じさせます。

さらに“ふるさと講座”「水環境を川虫で探る」で行った柳川・滝の湯川、子ども科学クラブで行った音無川などの水生昆虫・底生動物のデーターも添えました。

これらのデーターが市民のみなさんの自然環境を観る一つの視点になってご利用いただいたり、今後の調査の比較データーになってくれればという思いでここに掲載いたします。

来年度の紀要に、ボランティア活動で行われているチョウの観察会、植物の観察会、探鳥会、中央構造線の観察会などの記録が残されればなお一層の紀要の発展になるかと思っております。

平成19年3月20日

茅野市八ヶ岳総合博物館

茅野市八ヶ岳麓文芸館

館長 茅野 靖 夫

目 次

I 茅野市柳川の水温・伝導度・pHは季節によって どのように変化しているのでしょうか……………茅野靖夫 (1)	
II 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか。…茅野靖夫 (5) ～柳川に棲息する水生昆虫群集～	
III 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか。…茅野靖夫 (9) ～滝の湯川に棲息する水生昆虫群集～	
IV 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか。…茅野靖夫 (12) ～音無川に棲息する水生昆虫群集～	
寄贈図書目録……………宮下りよ (15)	
文芸部門	
・文芸特別展 島崎藤村と木下尚江 ー伊東一夫博士からの伝言ー ……………吉田一雄・大谷勝己 (一)	
・文芸特別展 島崎藤村と木下尚江 展示目録……………吉田一雄・大谷勝己 (十八)	
年 報	
・平成18年度事業報告…………… (25)	

表紙

「カタクリに吸蜜するヒメギフチョウ (アゲハチョウ科)」

福田勝男 原図

I 茅野市柳川の水温・伝導度・pHは季節によってどのように変化しているのでしょうか

1 はじめに

柳川は茅野市の東端、南八ヶ岳横岳に端を発して流下し、泉野・大泉山南側（多留姫神社）・小泉山北側を通して上川に注ぐ流程およそ20kmの川である。上川の支流としては、滝の湯川に次ぐ水量である。

本川の水温・伝導度・pHについて、2005年（平成17年）11月より、毎月中旬に調査した。



図1 観測地点



図2 st.1 柳川・美濃戸(2007.1.20)



図3 st.2 柳川・多留姫神社(2007.1.20)



図4 st.4 柳川・下古田(2007.1.20)



図5 st,4 上川・本町東(2007.1.20)

調査地点は本川の上流から、st.1 美濃戸、st. 多留姫神社(大泉山南側)、st.3. 下古田(小泉山側)で、上川ではst.4 本町東(御座石神社東)で調査した。その地点を図1 調査地点として示した。調査地点の景観は図2 から図5 に示した。

2 調査方法

調査は毎月中旬を目処に行なった。調査器具は次に示した。

(1)気温・水温：水銀温度計（標準温度計との差で補正）

(2)伝導度：YOKOGAWA MODEL SC82、Yokogawa Electric Corporation

(3) pH：KKK・水素イオン(pH)比色計、基準科学研究所

3 調査結果

調査結果は、調査し始めの2005年11月のみ総ての調査項目を示し、その後については、水温・気温・伝導度・pHについてグラフでのみ示した。なお、観測値のチェックと比較のため当館の

柳川定期定点観測（観測開始の日のみ）

2005.11.16

地点名	st.1 美濃戸	st.2 多留姫神社	st.3 下古田	st.4 上川・本町東	博物館水道水
標高 m	1500	1000	900	800	
時間	10:45	11:16	11:50	12:05	10:40
天気	快晴	快晴	快晴	快晴	
気温℃	0.7	5.1	4.8	9.9	17.4 (室温)
水温℃	2.9	7.2	7.4	8.5	16.6
pH	6.9	7.3	7.3	7.2	7.1
伝導度 $\mu\text{S}/\text{cm}$	90.6	116.8	123.2	114.3	43.1
備考					11月17日測定

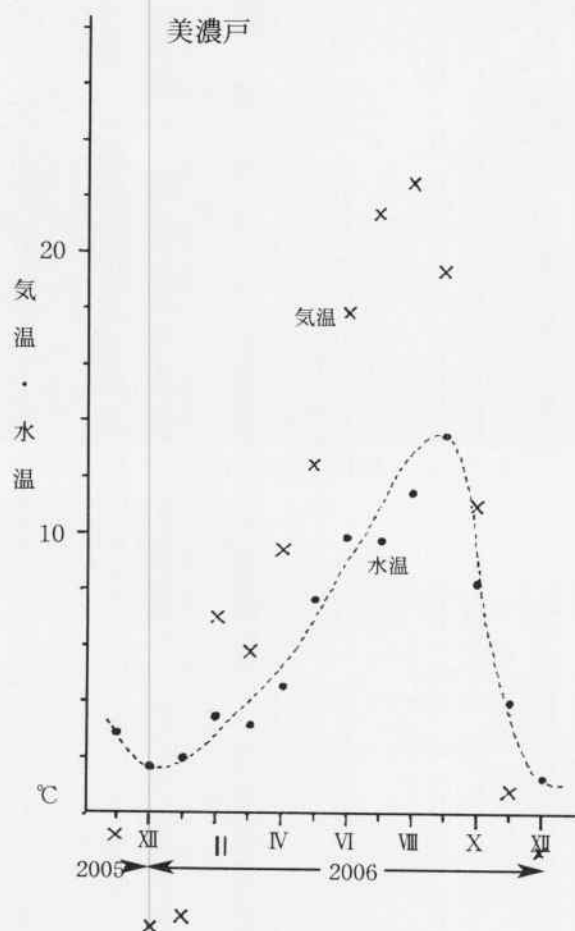


図6 st.1 美濃戸

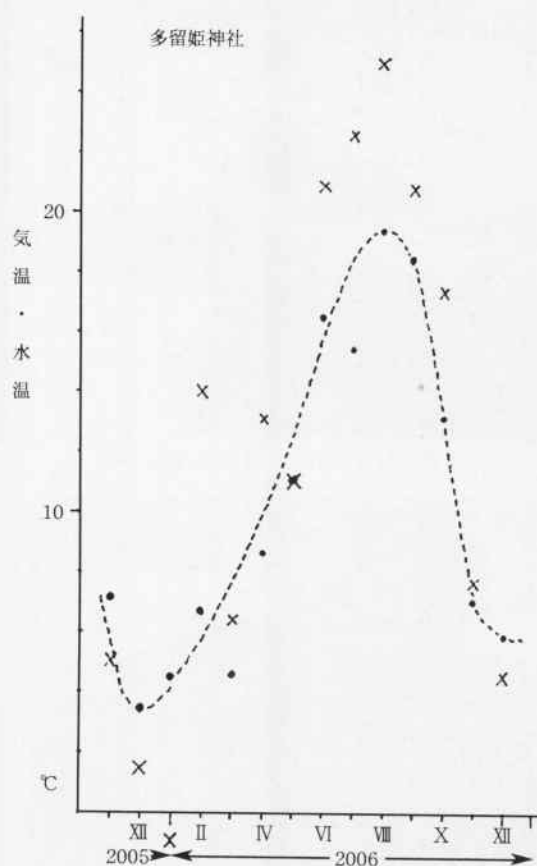


図7 st.2 多留姫神社

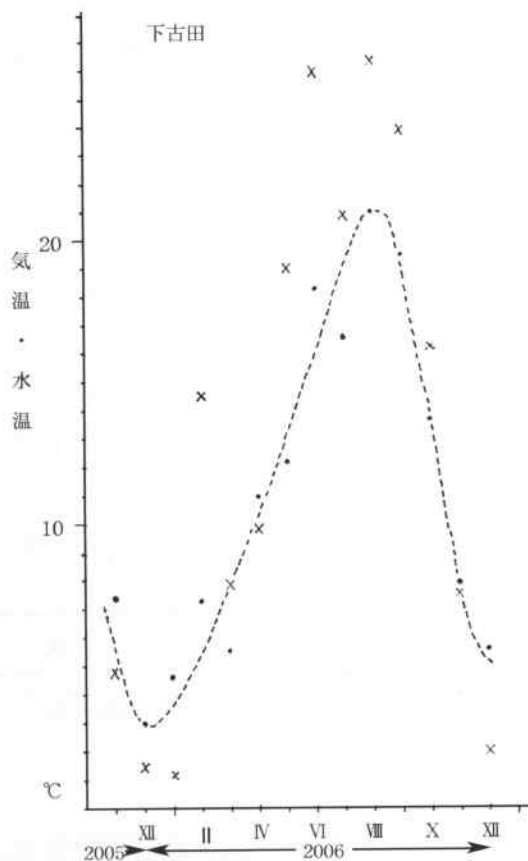


図8 st.3 下古田

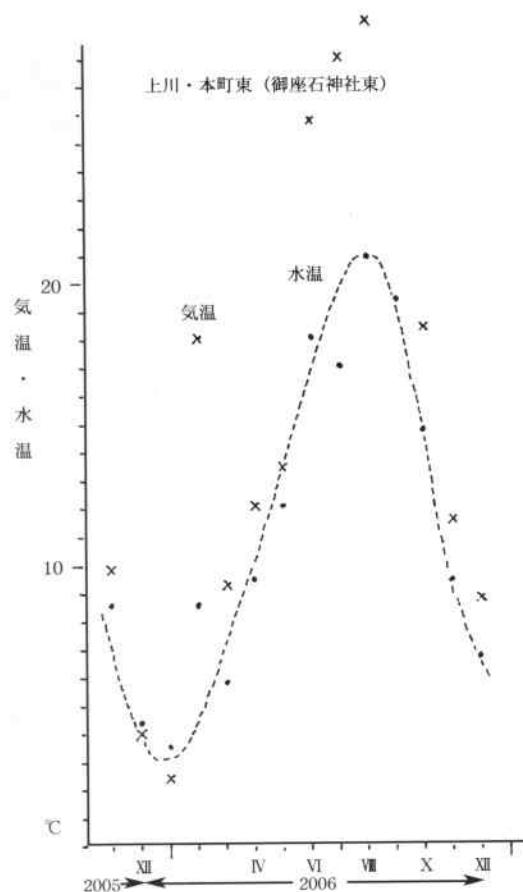


図9 st.4 上川・本町東

水道水も測定しておいた。

(1) 水温

水温の変化の様子は図6から図10に示した。

まず、st.1美濃戸では最低水温が1月で1.7℃まで下がり、最高水温は9月で13.5℃まであがっていく。春から夏に向けてゆるやかに上昇し、8月を過ぎると急激に下がっていく。

次に、st.2の多留姫神社では、美濃戸に比べ標高差が500m低いことから、年間を通じてかなり高くなっている。最低水温は2005年12月に3.4℃を示し、最高水温は2006年8月に19.5℃を示した。

st.3下古田でもほぼ同様の傾向を示した。すなわち、最低水温は2005年12月に3.0℃を示し、最高水温は8月の21.0℃であった。

st.4上川・本町東。最低水温は2005年12月の3.4℃であった。最高水温は2006年8月の7.2℃であり、ほぼst.3柳川・下古田の変動と同様であった。

チェックと比較のため測定しておいた博物館水道水は、9.6℃から21.7℃の間で緩やかに変化している。

(2) 伝導度、pH

伝導度とpHの変化の様子は図11から図15に示した。共通しての特徴は、どの地点でも7月に値が大きく落ち込んでいる点である。これは、岡谷方面に大被害をもたらした平成18年7月

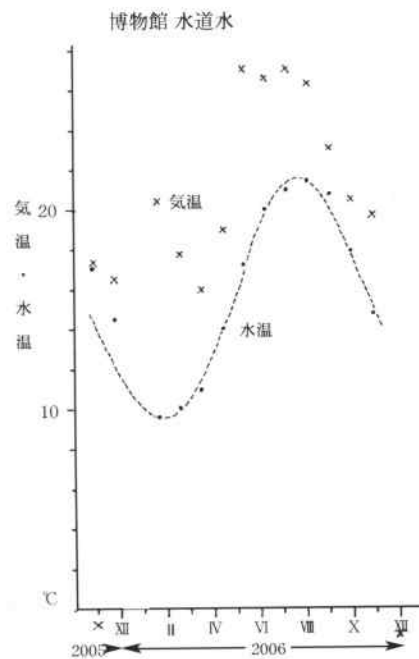


図10 博物館・水道水

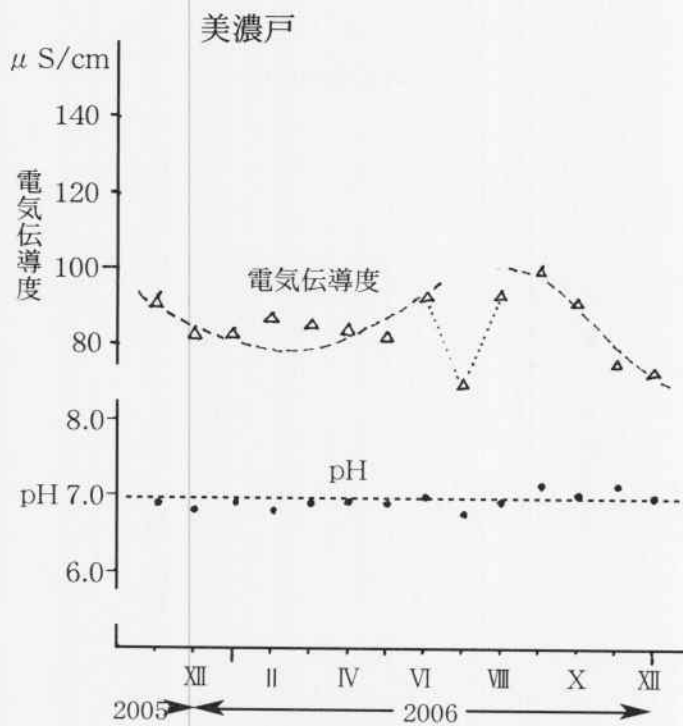


図 11 st.1 美濃戸

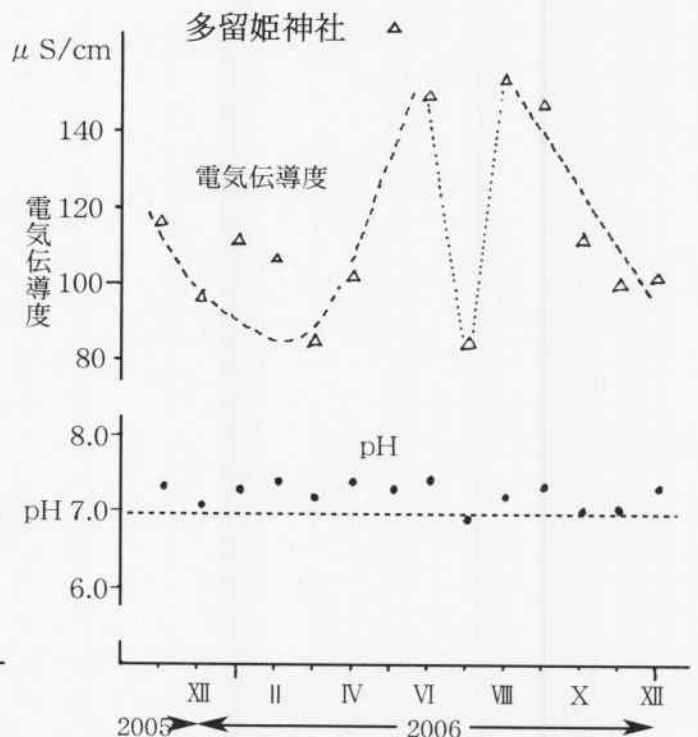


図 12 st.2 多留姫神社

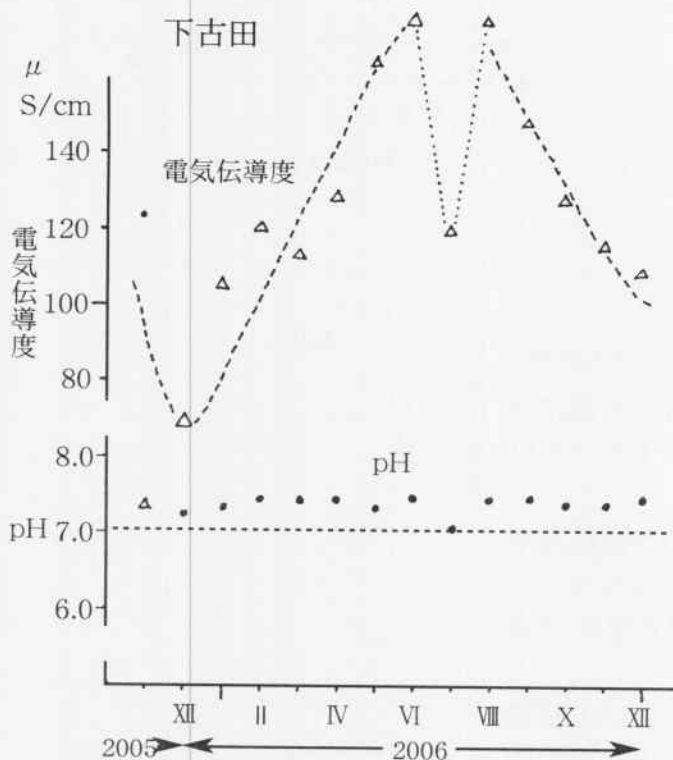


図 13 st.3 下古田

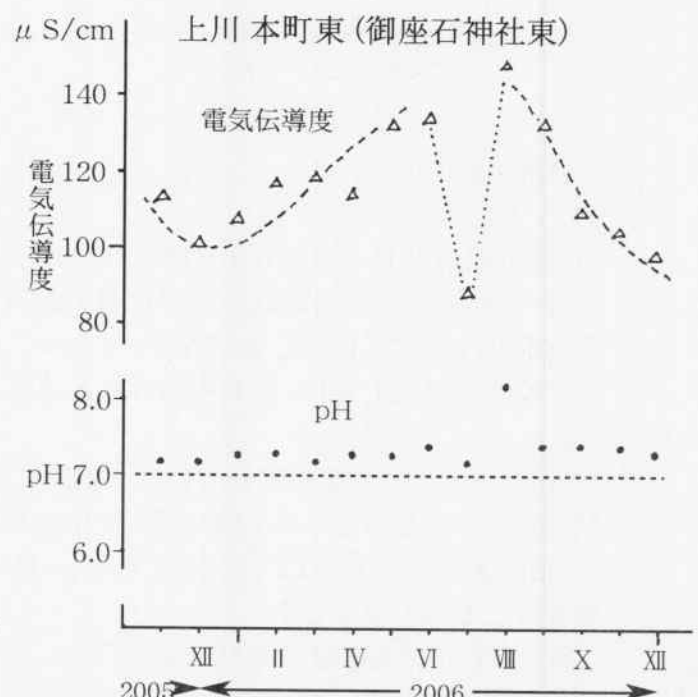


図 14 st.4 本町東

豪雨によるものである。2006 年 7 月 24 日まで続いた雨で、川は増水し観測は 7 月 26 日まで行えなかった。水量は平常通りに戻っているかに見えたが、伝導度は図のように大幅に落ち込み、雨水の影響が大であったことがわかる。

どの地点でも伝導度の値は冬に低く夏に高くなっている。夏は水温が上がり川底や周囲からしみ出す塩類が多くなるからであろう。

まず、st.1 美濃戸は 7 月を除けば 82.3 から 99.1 μ S/cm と柳川の他の地点より比較的低い値であった。しかし、八ヶ岳周辺や西山地域の他の河川の上流部がだいたい 30 ~ 50 μ S/cm 以内

であるのに較べるとかなり高い値である。pHは年間を通じて中性である。

次に、st.2 多留姫神社では7月を除けば85.4～155.4 $\mu\text{S}/\text{cm}$ とかなり高い値であったが、st. 1以降田畑から流れ込む塩類の影響であろう。pHは7.0をやや上回るのがほぼ中性に近い。

st.3 下古田でもほぼ同様の値であったが、2006年8月には175.1 $\mu\text{S}/\text{cm}$ と高い伝導度値を示した。このくらいの伝導度値の水質になるとゲンジボタルが発生するに極めて適切な環境となる。現在も発生しているようであるが、無機質な環境（河川工事等）が変えられなかったり、毒物（農薬）が流されなければだんだんに増えていくであろうことが予測される。pHは上流とほぼ同じであった。

st.4 上川・本町東は多留姫神社とほぼ同様な値であった。支流の水質の良い滝の湯川等からの流入水によって薄められ、下古田より値は下がったものと思われる。pHはほぼ中性であったが、2006年8月に8.2を示しかなりアルカリに傾いた。多分上流でコンクリート工事が行われていたのではないかと。

博物館水道水は31.3～53.5 $\mu\text{S}/\text{cm}$ で、博物館水道水と同水源の水道水を使っている茅野市の市民はすばらしい良好な水を飲んでいると言える。

柳川全体に、水温は30℃を上回ることとはなく、水温を要因とする水生昆虫達や魚類が酸欠に襲われる心配はない。伝導度は上流でやや高いものの、下流でもゲンジボタルが十分繁殖できるほどの値であるので現状は良好な水環境を保っていると言えるであろう。pHは全地点ほぼ中性である。

Ⅱ 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか

～柳川に棲息する水生昆虫群集～

1 はじめに

当博物館では、地域河川の水環境を市民とともに調査する『水環境を川虫で探る』講座を実施している。

平成18年度は、柳川の2地点、「Ⅰ 茅野市柳川の水温・伝導度・pHの季節変化」で記述したst.1 美濃戸とst.3 下古田で行った。参加者は受講者6人、市役所関係職員3人計9人で調査、採集した。

環境要因と調査地点はⅠで記述した点と同じになるので省略する。

2 調査方法

採集は、参加者8人が魚取り用（編目5×5mm）タモ網で、また、一人は口径1mのサデ網（網目2×2mm）で川を横断的に採集した。採集した標本はホルマリンで固定し博物館に持ち帰り、研究室で実態顕微鏡で後記した参考文献を参照しながら同定した。

3 結果

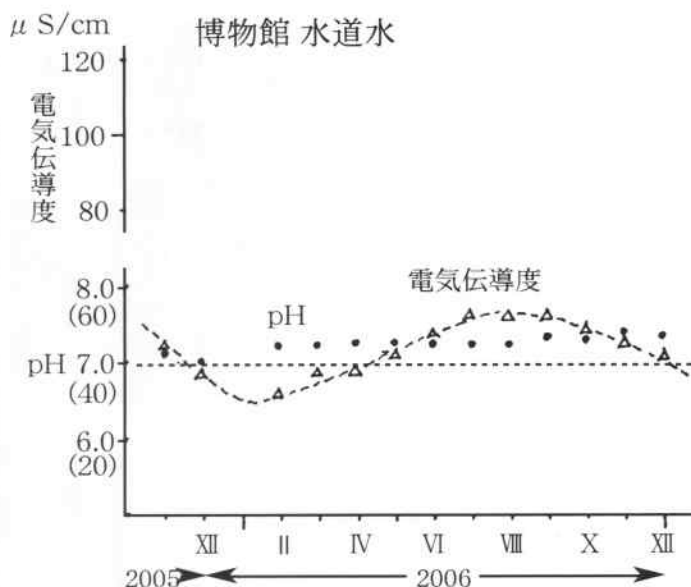


図15 博物館水道水

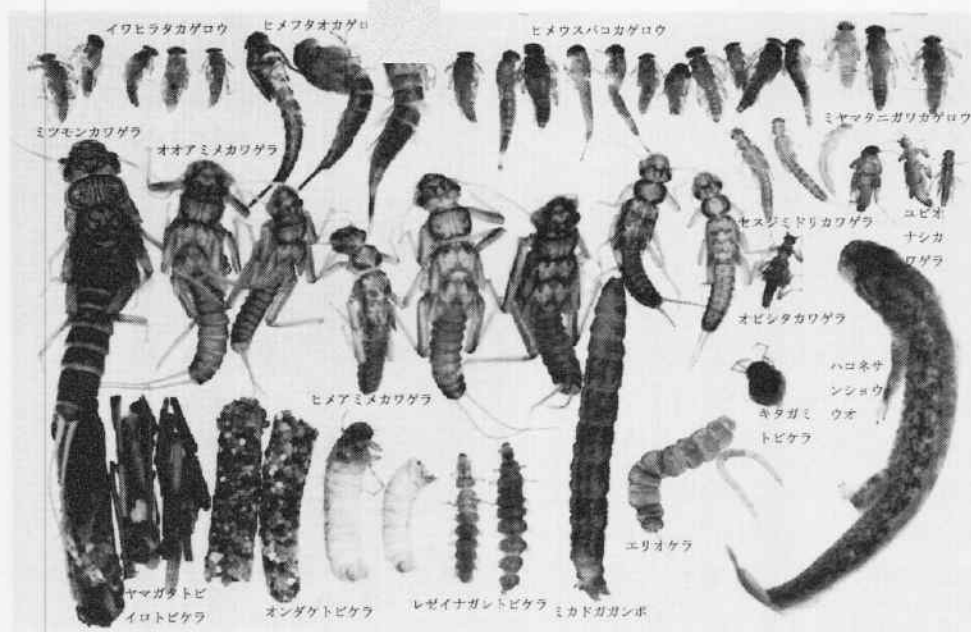


図 16 柳川 美濃戸の水生昆虫・底生動物

採集した水生昆虫は、図 16 と図 17 に写真で示した。採集同定した結果は表 2 に示した。

(1) 美濃戸の水生昆虫

まず、美濃戸ではカゲロウはヒメフタオカゲロウやイワヒラタカゲロウなど、極めて急流を好んで生活するような種ばかりであった。ヒメフタオカゲロウは頭部から腹部にかけて紡錘形をしており、川石の側面部や川底に生活している。イワヒラタカゲロウやミヤマタニガワカゲロウは石の表面に張り付くように体を伏せ急流をしのぎながら石の表面の藻類を食べている。結局カゲロウは4種のみであった。

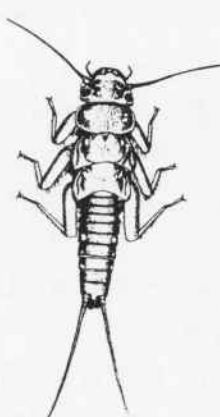
コラム

日露戦争の名将達の名前をもつカワゲラ

まだ草の芽も出ない春早い3月、川の上流で枯れ草をかき分けると、羽化したばかりのアミメカワゲラの成虫が寒さを防ぐように体を丸めて潜んでいる。捕まえて手のひらに包むように置くと、人の体温で温まり動き始める。天気の良い日なら9時過ぎ頃から、あちらこちらの枯れ草のやぶから飛び立つ。丹念に木の枝、川岸の岩肌などを探すと交尾をしている成虫がたくさん見られる。

実はカワゲラの仲間は、その前から羽化している。スキー場のゲレンデなどにいる体長5~6mmの真っ黒い雪虫とかセッケイ虫とよばれている虫もカワゲラの仲間である。3~4月と暖くなるにしたがって大型のカワゲラが羽化してくる。そのほとんどが石や岩に登ってきて羽化する。英語でストーンフライ（石虫）と呼ばれる理由である。

カワゲラの命名には面白いいきさつがある。明治時代の後期、カワゲラの研究で世界の第一人者であったチェコスロバキアのクラパレックが日本のカワゲラの調査にやってきた。ちょうどその頃日本はロシアを破って日露戦争に勝利をおさめた頃であった。チェコスロバキアはユーラシア大陸西方でロシアに虐められていた。そんな憎いロシアが小国日本に破れたことにクラパレックは大喜び、日本で採ったカワゲラの新種に次々に日本の軍人の名前をつけた。大山大将のオオヤマカワゲラ、神村中将のカミムラカワゲラなどである。それを見倣って日本のカワゲラ研究家の岡本半次郎という人までカワゲラの新種に乃木大将の名前をとってノギカワゲラとつけた。



オオヤマカワ
ゲラ幼虫

表2 柳川の水生昆虫

表2 柳川の水生昆虫			
調 査 地 点		美濃戸	下古田
調 査 月 日		2006.5.14	2006.5.14
和 名	学 名		
カゲロウ目〔蜉蝣目〕			
ヒメフタオカゲロウ	<i>Ameletus montanus</i>	4	7
ウエノヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatulus</i>		4
エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>		2
イワヒラタカゲロウ	<i>Epeorus cumulus</i>	6	
ミドリタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus viridis</i>		8
ミヤマタニガワカゲロウ属一種	<i>Cinygmula</i> sp.	16	
ヒメウスバコカゲロウ属一種	<i>Procloeon</i> sp.	8	
コカゲロウ属数種	<i>Baetis</i> spp.		4
フタマタマダラカゲロウ	<i>Drunella sachariensis</i>		19
チェルノバマダラカゲロウ	<i>Cincticostella orientalis</i>		3
アカマダラカゲロウ	<i>Uracanthella punctisetae</i>		2
トンボ目〔蜻蛉目〕			
ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i>		1
カワゲラ目〔せき翅目〕			
オビシタカワゲラ属一種	<i>Obipteryx</i> sp.	13	
ユビオナシカワゲラ属数種	<i>Protonemura</i> spp.	7	
オオアミメカワゲラ	<i>Megarcys ochracea</i>	9	
ヒメアミメカワゲラ	<i>Skwala pusilla</i>	11	
ミツモンカワゲラ	<i>Calineuria jezoensis</i>	2	
セスジミドリカワゲラ属一種	<i>Sweltsa</i> sp.	3	
トビケラ目〔毛翅目〕			
ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>		9
キタガミトビケラ	<i>Limnocentropus insolius</i>		1
レゼイナガレトビケラ	<i>Rhyacophila lezeyi</i>	2	
オンダケトビケラ属一種	<i>Pseudostenophylax</i> sp.	4	
コエグリトビケラ属一種	<i>Apatania</i> sp.	1	
ヤマガタトビイロトビケラ	<i>Nothopsyche yamagataensis</i>	3	
カクツツトビケラ属数種	<i>Lepidostoma</i> spp.		3
ハエ目〔双翅目〕			
エリオケラ属一種	<i>Eriocera</i> sp.	1	
ミカドガガンボ属	<i>Holorusia</i> sp.	1	
クロヒメガガンボ族一種	<i>Pilaria</i> sp.	1	
その他			
ミヤマウズムシ	<i>Phagocata vivida</i>		2
ナミイシビル	<i>Erpobdella octoculata</i>		2
シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>		2
ミズムシ	<i>Asellus hilgendorffii</i>		16
ハコネサンショウウオ	<i>Onychodactylus japonicus</i>	2	
種 類 数 計			
		18	16
生物指数 (Beck-Tsuda)			
		36	29



図17 柳川 下古田水生昆虫・底生動物

カワゲラ目では大型のオオアミメカワゲラ、中型のヒメアミメカワゲラが採れた。オオアミメカワゲラは本州中部以北、北海道に産し棲息する地点では個体数多く産する。諏訪の中で最も個体数の多いのは本地点である。卵期間は水温8℃で280日にも達する。6月に羽化した成虫はすぐ交尾し産卵する。産卵された卵は、ほぼ1年間は卵の状態で過ごし、2～3月にかけて孵化する。孵化した幼虫はそのまま成長し、翌年6月頃羽化する。すなわち1世代は3年である。ヒメアミメカワゲラは、長峰中学校の生徒が発見したミスジアミメカワゲラと同属のSkwara属である。ミスジアミメカワゲラと同様本種の1世代は1年である。しかし、同一地点に棲息することはほとんどない（富士見町立場川キャンプ場にはSkwara 2種が棲息する）。ミスジアミメカワゲラが西山方面に多数棲息するに比し、本種はそちらには棲息しない。不思議な分布である。ミツモンカワゲラは長野県に広く個体数多く棲息する。

トビケラで目立ったものは採れなかった。5年ほど前までは、県のレッドデータブックで準絶滅危惧種に指定されているオオナガラトビケラが個体数多く棲息していたが、今回採集されなかった。本種は年間通して前年産卵された代と前々年産卵された代がいるはずであるし、以前は5月に採集できた。どうして採れないのか探る必要を感じる。

その他でハコネサンショウウオが2個体得られた。清冽な水域のみに棲息する両生類である。

全種数は18種、Beck-Tsudaによる生物指数は36であった。

極めて清冽な水の流れる水域であると言える。

(2) 下古田の水生昆虫

次に、下古田では、カゲロウ目が8種得られた。ヒラタカゲロウとマダラカゲロウの仲間が増えている。特にフタマタマダラカゲロウは19個体得られた。

カワゲラは1個体も得られなかった。水が汚れてもカワゲラの棲めるような環境ではないことを物語っている。伝導度は5月で164.1 μ S/cmを示した。ゲンジボタルが棲息するに適した値である。

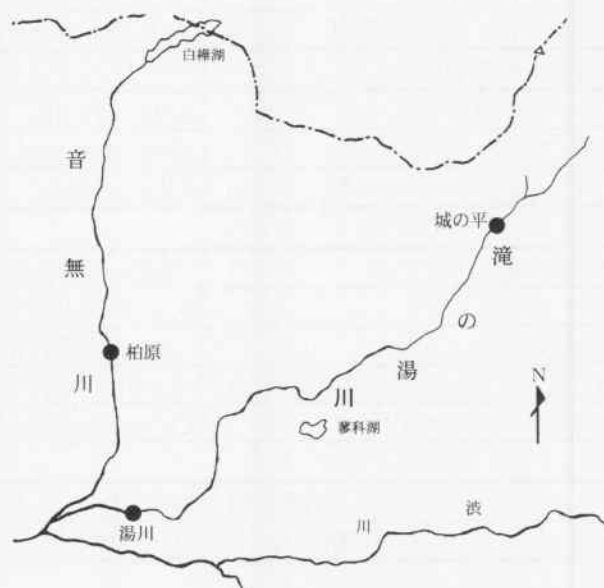


図18 滝の湯川・音無川採集地点

トビケラでは、現在天竜川でザザムシとして捕っているヒゲナガカワトビケラが9個体得られた。その他では、ミヤマウズムシが採れたが水のきれいな部分に棲んでいたのが捕まえたのであろう。あとはヒルとミズムシだけであった。

全種数は16、生物指数は29であった。やや汚れている水の流れる水域であるとである。

Ⅲ 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか ～滝の湯川に棲息する水生昆虫群集～

1 はじめに

Ⅱで述べた「茅野市を流れる河川の水生昆虫群集 ～柳川の水生昆虫群集～」と同じように『水環境を川虫で探る』講座の第2回は滝の湯川で平成18年8月6日に行われた。その結果について記録しておきたい。

調査地点は、8ページ図18に示した。また調査地点の景観は図19、図21に示した。

2 調査結果

(1) 環境要因

環境要因の測定結果は表3に示した。夏の真っ盛りであるが水温は比較的低かった。pHは中性であった。伝導度は城の平では極めて低い値を示し北八ヶ岳一帯の湧水と同じ程度であったが、湯川公民館横では大きな値を示した。しかしそれでも平成18年7月豪雨の後なのでかなり低い値である。それ以前は $200 \mu S/cm$ を越す値であった。

(2) 結 果

採集した水生昆虫・底生動物は図20、22に示

表3 滝の湯川環境要因

調査月日 2006.8.6

地点名	城の平	湯川公民館横
標高 m	1500	950
時間	11:15	10:00
天気	晴	晴
気温 $^{\circ}C$	21.8	28.2
水温 $^{\circ}C$	8.5	15.5
pH	7.1	7.2
電導度 $\mu S/cm$	23.3	144.5

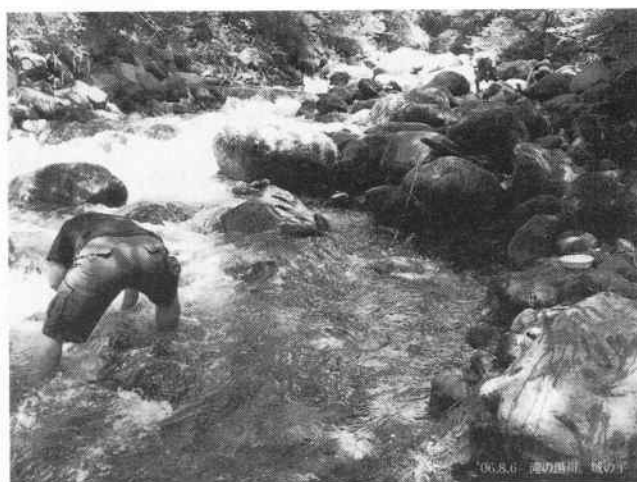


図19 滝の湯川 城の平

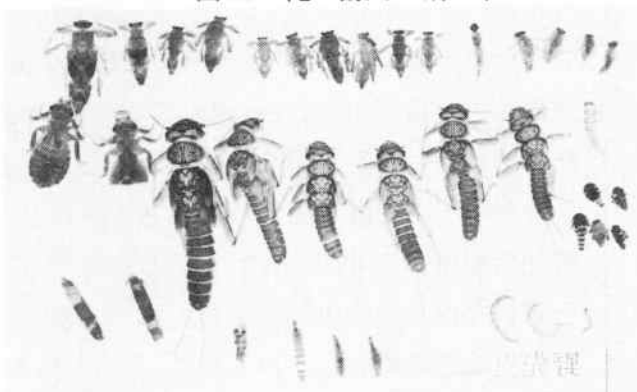


図20 城の平の水生昆虫・底生動物



図21 湯川公民館横

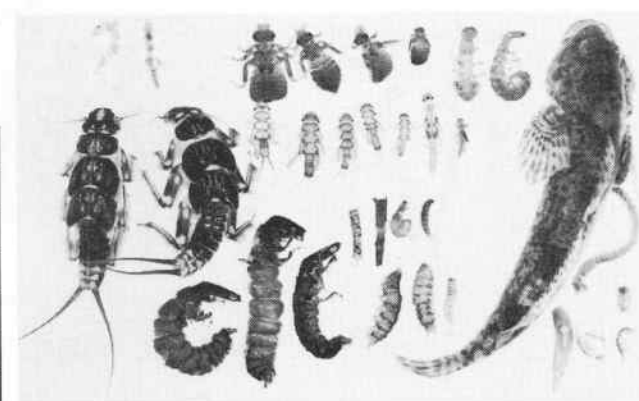


図22 湯川公民館横 水生昆虫・底生動物

コラム

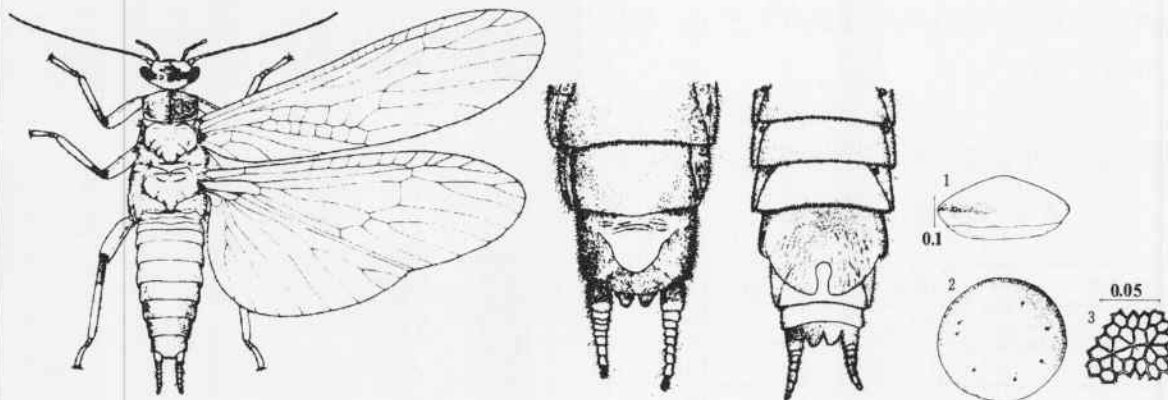
ミヤマノギカワゲラの成虫雌と幼虫の発見

ミヤマノギカワゲラは1929年、京都大学教授 故上野益三博士によって雄のみが記載された。

私（茅野）が水生昆虫の研究に取り組み始めて10年くらい経た1975年7月27日のことである。蓼科山の南側斜面、滝の湯川竜源橋付近で水生昆虫を採集していた。お昼になったのでダムサイトで昼食をとり始めた時のことである。上流の方からたくさんの昆虫の成虫が飛んでくるのが見えた。近づくにつれて、それがカワゲラの飛び方であることが認識された。そこで弁当は放り投げて、あわてて捕虫網を取り出し振り回して夢中でそれらを捕った。ノギカワゲラの仲間は胸部が大きくてずんぐりしている。それでヒロムネカワゲラ科とよばれているが、そんな特徴のある姿なので網の中をのぞくとノギカワゲラ属であることは一目でわかった。この仲間の成虫の標本は、それまであまり持っていなかったものでわくわくしながら大量にとった。あとで数えてみると雄13頭、雌61頭であった。

持ち帰って文献と照らし合わせてみるとどうもミヤマノギカワゲラであるようだが、上野先生が雌として記載されているのはどうみても雄である。何回も文献を読み直し、記述と重ねながら双眼実態顕微鏡で調べてみても確かに雄である。段々分かってきたのは、上野先生は雄の標本しか得られず、そのため雄の腹部腹面が雌の亜生殖板のように見えるので雌とされたらしいのである。その後雌の腹から得た卵と未記載幼虫の腹から取った卵形が一致したのでこの幼虫も判明した。

雌成虫を訂正し、正しい雌成虫と幼虫を記載し、学会誌に発表するのに、英語の苦手な私は3年かかった。しかし、この一件で私は大きな自信を得た。それは、それまで上野先生のような、私にとって雲の上のような存在だった先生でもこんな間違いをすることがあるということを知ったからである。「間違いを恐れずやろう」と心に決意を抱いて水生昆虫の研究を続けた。



ミヤマノギカワゲラ

左から、成虫、♂腹部腹面、♀腹部腹面（亜生殖板）、卵 1:側面図 2:上面図 3:表面模様

し、同定結果は表4に示した。

① 城の平の水生昆虫

カゲロウ類は7種に及んだ。ヒラタカゲロウが2種、マダラカゲロウが3種であった。個体数の多いのはフタマタマダラカゲロウで13頭得られた。カワゲラは3種であった。8ページ図20の右端黒っぽい5頭のミヤマノギカワゲラがかなり成長していた。本種は上野益三博士によって成虫雌が記載され命名されていたが、1975年茅野によって(Chino 1978)本川源流の竜源橋で多数の成虫雌雄が採れ、上野博士が記載した雌は実は雄であることがわかった。それで新たに雌が記載され、成虫雌の腹の中の卵と未記載幼虫雌の腹の中のそれが一致したので本種の幼虫も判明した。このような経過のあるカワゲラであり、滝の湯川とは縁の深い種である。ミツモンカワゲラも25頭採れた。トビケラではレゼイナガレトビケラが比較的個体数多かった。

種数は15種と少なめであった。生物指数は30であった。種構成、生物指数から言っても清冽な水の流れる水域である。

② 湯川公民館横

カゲロウは一種のみであった。しかも、砂地に潜って生活するフタスジモンカゲロウであった。トンボはダビドサナエが個体数多く採れた。カワゲラは普通種のクロヒゲカミムラカワゲラと大型のスズキクラカケカワゲラが個体数多く得られた。図22でもっとも大きく写っているのが当種である。またカジカも得られた。本地点は7月初旬に下見にきた折には、カワゲラは採れず、ミズムシやヒルばかりであった。それが平成18年7月豪雨でこのように様変わりしていた。上流から流されてきた水生昆虫や・底生動物達が棲みついたのであろう。水質がまた元に戻れば、やがて棲めなくなり死んでいってしまうに違いない。

種数は17種、生物指数は31で上流域の平より大きい値を示したが、サカマキガイやミズムシも得られた。豪雨で流されなかった種が捕獲されたものと思われる。

2006年の滝の湯川調査結果は、城の平はともかく、湯川公民館横はヒラタカゲロウやマダラカゲロウが全く採れず、逆にカワゲラが4種も得られた点などから本来的な水生昆虫層を示してはいないと考えられる。平成18年7月豪雨のためそれまでに堆積していた有機物は流され、栄養塩

表4 滝の湯川の水生昆虫・底生動物

調査地点		城の平	湯川公民館横
調査月日		2006.8.6	2006.8.6
和名	学名		
カゲロウ目〔蜉蝣目〕			
マエグロヒメフタオカゲロウ	Ameletus costalis	1	
キイロヒラタカゲロウ	Epeorus aesculus	4	
ウエノヒラタカゲロウ	Epeorus uenoi	3	
コカゲロウ属一種	Baetis sp.	1	
オオマダラカゲロウ	Drunella basalis	2	
フタマタマダラカゲロウ	Drunella bifurcata	13	
ミツトゲマダラカゲロウ	Drunella trispina	1	
フタスジモンカゲロウ	Ephemera japonica		2
トンボ目〔蜻蛉目〕			
ダビドサナエ	Davidius nanus		10
クロサナエ	Davidius fujiana	2	
カワゲラ目〔せき翅目〕			
フサオナシカワゲラ属一種	Amphinemura sp.		1
ミヤマノギカワゲラ	Yoraperla uenoi	6	
オオアメカワゲラ	Megarcys ochracea	1	
クロヒゲカミムラカワゲラ	Kamimuria quadrata		5
スズキクラカケカワゲラ	Paragnetina suzukii		7
ミツモンカワゲラ	Calineuria jezoensis	25	
ナガカワゲラ属一種	Kiotina sp.		1
アミメカゲロウ目〔広翅目〕			
ヘビトンボ	Protohermes grandis		4
トビケラ目〔毛翅目〕			
ヒゲナガカワトビケラ	Stenopsyche marmorata		3
ウルマーシマトビケラ	Hydropsyche orientalis		1
レゼイナガレトビケラ	Rhyacophila lezei	4	
コエグリトビケラ属一種	Apatania sp.	1	
カクツツトビケラ属数種	Lepidostoma sp.		1
グマガトビケラ属一種	Gumaga sp.		1
ハエ目〔双翅目〕			
アントカ属一種	Antocha sp.	1	
アルプスケユキユスリカ	Diamesa alpina	2	
ハマダラナガレアブ	Atherix ibis		3
その他			
ミヤマウズムシ	Phagocata vivida		1
サカマキガイ	Physa acuta		1
ナガミミズ目一種	Haplotaxida sp.		1
ミズムシ	Asellus hilgendorffii		2
カジカ			2
種 類 数 計		15	17
生物指数(Beck-Tsuda)		30	31

類も流されきれいな水の流れる水域となった。そこへ上流から流下してきた水生昆虫やカジカが清冽になった水に生きていられるようになった、という訳ではないだろうか。

Ⅳ 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか

～音無川に棲息する水生昆虫群集～

1 はじめに

博物館で主催する茅野市子ども科学クラブの8月の学習活動は、音無川柏原地点の水生昆虫調査であった。調査は2006年8月17日に行われた。採集地点は8ページ図18に示した。

参加したクラブ員は6人、保護者の方も1人加わり、博物館職員1人の計8人で採集した。採集器具はⅡⅢと同じように、クラブ員と保護者は魚とりタモ網、館職員はさで網で行った。採集したサンプルはホルマリンで固定し、博物館に持ち帰って双眼実態顕微鏡下で同定した。

表5 音無川の環境要因

調査月日 2006.8.17

地点名	柏原
標高 m	1,100
時 間	9:53
天 気	晴
気温℃	25.9
水温℃	18.3
pH	7.4
電気伝導度 $\mu\text{S}/\text{cm}$	52.1

2 環境要因

環境要因は表5のようであった。水温は18.3℃と盛夏としては低い方であった。pHは比較的高かった。伝導度は52.1 $\mu\text{S}/\text{cm}$ であった。白樺湖浄水施設が無かった頃には常に100 $\mu\text{S}/\text{cm}$ を越えていたことと比較すると格段の水質改善がなされていることになる。

3 結 果

採集の様子は図23に、採集した水生昆虫・底生動物は図24に示した。また同定結果は表6に示した。

カゲロウは6種に及んだ。特にユミモンヒラタカゲロウ、エルモンヒラタカゲロウの個体数が多かった。カワゲラは3種が得られた。十分成長し羽化直前のオオクラカケカワゲラ3頭、幼虫期2年目と思われるオオヤマカワゲラが2頭採集された。伝導度が低いことや清流を好むカワゲラが3種採れたことから清冽な水の流れる水域であると判断される。トビケラは7種採れた。汚れた水を好む種はいない。1個体ではあるが、シマイシビルが採れたことから多少の栄養塩水の混入が推測できる。しかし、種数は20種に及び、生物指数は39であった点など総合すると清冽な水の流



図23 音無川柏原で調査する子ども科学クラブ

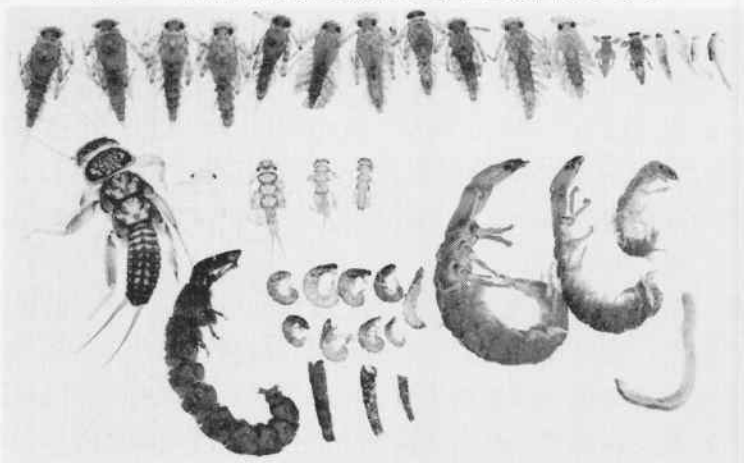


図24 音無川柏原の水生昆虫・底生動物

れる水域と言える。

子どもたちはカゲロウ・カワゲラ・トビケラの3目がきれいにそろった水生昆虫達を採集でき、典型的な清冽な水の流れる水域の特徴をとらえることができた。

よいクラブ活動が展開できた。

参考文献

(アイウエオ順)

石田勝義 (1996) 日本産トンボ目幼虫検索図説、北海道大学図書刊行会
奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸宏・水野信彦・矢島稔・山岸哲 (1996) 川の生物図典、財団法人リバーフロント整備センター
川合禎次編 (1985) 日本産水生昆虫検索図説、東海大学出版会

川合禎次・谷田一三共編 (2005) 日本産水生昆虫、東海大学出版会
河田 薫 (1973) 幼虫図鑑、図鑑の北隆館
茅野靖夫 (1985) 弓振川の水生昆虫、原村誌上 巻
茅野靖夫・共著 (1990) 中央アルプスと伊那谷の自然、信濃毎日新聞 社
茅野靖夫・共著 (1997) 信州の希少生物と絶滅危惧種、信濃毎日新聞社
茅野靖夫 (2002) 上田市の水生昆虫、上田市誌、上田市
茅野靖夫 (2004) 白田町の水生昆虫、白田町誌、白田町
茅野靖夫・共著 (2004) 水生昆虫、長野県レッドデータブック動物編、長野県
茅野靖夫 (2007) 南相木の自然－南相木村の水生昆虫－、南相木村誌、南相木村
津田松苗 (1962) 水生昆虫学、北隆館
津田松苗 (1968) 汚水生物学、北隆館
津田松苗 (1972) 水質汚濁の生態学、公害対策技術同友会
丸山博紀・高井幹夫 (2000) 原色川虫図鑑、全国農村教育協会
Yasuo Chino (1978) The Female of *Nogiperla Uenoi* (Kohno) (Plecoptera) New Entomol., 27 (4)

表6 音無川の水生昆虫・底生動物

調査地点		音無川, 柏原
調査月日		2006.8.17
和名	学名	
カゲロウ目〔蜉蝣目〕		
ユミモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus nipponicus</i>	27
ウエノヒラタカゲロウ	<i>Epeorus curvatulus</i>	3
エルモンヒラタカゲロウ	<i>Epeorus latifolium</i>	17
シロタニガワカゲロウ	<i>Ecdyonurus yosidae</i>	1
コカゲロウ属一種	<i>Baetis</i> sp.	6
ヨシノマダラカゲロウ	<i>Drunella ishiyamana</i>	3
カワゲラ目〔せき翅目〕		
クロヒゲカミムラカワゲラ	<i>Kamimuria quadrata</i>	1
オオクラカケカワゲラ	<i>Paragnetina tinctipennis</i>	3
オオヤマカワゲラ	<i>Oyamia lugubris</i>	2
アミメカゲロウ目〔広翅目〕		
ヘビトンボ	<i>Protohermes grandis</i>	5
トビケラ目〔毛翅目〕		
ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marmorata</i>	1
ウルマーシマトビケラ	<i>Hydropsyche orientalis</i>	5
セリシマトビケラ	<i>Hydropsyche selysi</i>	1
イカリシマトビケラ	<i>Hydropsyche ancorapunctata</i>	1
ヒロアタマナガレトビケラ	<i>Rhyacophila brevicephala</i>	1
コエグリトビケラ属一種	<i>Apatania</i> sp.	2
カクツツトビケラ属一種	<i>Lepidostoma</i> sp.	1
ハエ目〔双翅目〕		
ユスリカ亜科一種	<i>Chironominae</i> sp.	1
ハマダラナガレアブ	<i>Atherix ibis</i>	1
その他		
シマイシビル	<i>Erpobdella lineata</i>	1
種 類 数 計		20
生物指数(Beck-Tsuda法)		39

平成19年3月

茅 野 靖 夫

寄贈図書目録 1996年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1996-001	長野県立歴史館たより 冬号 Vol.5	会館一周年を迎えた歴史館	長野県立歴史館
1996-002	山と博物館 第40巻 第12号	髭が白くなったって	大町山岳博物館
1996-003	ハーモニー No.12	熱帯林	兵庫県立人と自然の博物館
1996-004	自然史博物館だより No.20	河原の石を調べよう	倉敷市立自然史博物館
1996-005	あなたと博物館 No.85	新春の伝統行事“あめ市(初市)”	松本市立博物館
1996-006	地域文化 No.35	「火の山」礼賛 浅間山	(財)八十二文化財団
1996-007	森のしんぶん No.71		牛久自然観察の森
1996-008	しぜんっこ No.20		牛久自然観察の森
1996-009	雑木林のおとしぶみ Vol.30	地球の健康と私の健康	牛久自然観察の森 雑木林の会
1996-010	Museum Data No.31	ミュージアムとマーケティング	榊丹青研究所
1996-011	時衆の美術と文芸	遊行聖の世界	時衆の美術と文芸展実行委員会
1996-012	相模原市立博物館ニュース 創刊号		相模原市立博物館
1996-013	アサラスコープ No.339	宮沢賢治と科学	名古屋科学館
1996-014	山と博物館 第41巻 第1号	子年雑感	大町山岳博物館
1996-015	千葉県立中央博物館年報 7	平成6年度版	千葉県立中央博物館
1996-016	千葉県立中央博物館要覧	平成7年度	千葉県立中央博物館
1996-017	中央博物館だより No.25	養老川流域の自然	千葉県立中央博物館
1996-018	中央博物館だより No.26	伊豆・小笠原・マリアナ島弧の自然	千葉県立中央博物館
1996-019	中央博物館だより No.27	千葉のケモノたち	千葉県立中央博物館
1996-020	展示学事典		日本展示学会「展示学事典」編集委員会
1996-021	雑兵たちの戦場	中世傭兵と奴隷狩り	藤木久志
1996-022	伊那谷の自然 第63号	伊那谷の活断層と地震6	伊那谷自然友の会
1996-023	東京の文化財 第67号		東京都教育庁生涯学習部文化課
1996-024	博物館研究 Vol.31 No.1		(財)日本博物館協会
1996-025	瑞浪市化石博物館報告 22		瑞浪市化石博物館
1996-026	北方民族博物館だより 第20号	桶	北海道立北方民俗博物館
1996-027	Northern Peoples	北方民族を知るためのガイド	北海道立北方民族博物館
1996-028	月刊むし No.300		藤田宏
1996-029	木の手帖	江戸博物画と用例による樹木歳時記	大場秀章
1996-030	藤村記念館だより第78号		佐々木禪了
1996-031	山と博物館 第41巻 第2号		大町山岳博物館
1996-032	ユネスコ世界遺産 1995		三好正人
1996-033	三郷文化 第55号		三郷村教育委員会
1996-034	環境のなかの毒	アオコの毒とダイオキシン	彼谷邦光
1996-036	生物の目でみる 自然環境の保全		遠山 益
1996-037	星座神話クラブ	カラー・ガイド・ブック	脇屋奈々代
1996-038	雑誌解体新書編集部	モノのしくみ 技術のふしぎ編①	日刊工業新聞社
1996-039	雑誌解体新書編集部	モノのしくみ 技術のふしぎ編②	日刊工業新聞社
1996-040	ハーモニー No.13	身近な自然	兵庫県立人と自然の博物館
1996-041	人と自然 第5号		兵庫県立人と自然の博物館
1996-042	人と自然 第6号		兵庫県立人と自然の博物館
1996-043	美博だより Vol.32	網掛山に想う	飯田市美術博物館
1996-044	山と博物館 第41巻 第3号	飼育カモシカの血統更新の必要性	大町山岳博物館
1996-045	野尻湖博物館だよりNo.38	裏の畑で発見!	信濃町立野尻湖博物館
1996-046	野尻湖博物館研究報告 第3号		信濃町立野尻湖博物館
1996-047	野尻湖博物館研究報告 第4号		信濃町立野尻湖博物館
1996-048	自然博物館だより Vol.14 No.1	野尻湖の発掘 7	和歌山県立自然博物館
1996-049	生きもの発見	展示解説書第13集	和歌山県立自然博物館
1996-050	THE LONGMONT ALBUM	History and Folklore of the St. Vrain Valley	Betty Ann Newby
1996-051	Museum Data No.32	95年版全国博物館園調査レポート	榊丹青研究所情報開発研究部
1996-052	石川れきはく No.39	加賀藩の甲冑	石川県立歴史博物館
1996-053	堀ノ内遺跡発掘調査報告書	堀ノ内特定土地区画整理事業に伴う発掘調査	春日井市教育委員会
1996-054	地域文化 No.36	ヒト、チョウに会う	(財)八十二文化財団
1996-055	国立博物館ニュース 第588号	婚礼調度類	東京国立博物館
1996-056	神奈川県立自然保護センター報告 第13号		神奈川県立自然保護センター
1996-057	地下鉄7号線白金台・東六本木間遺跡発掘調査報告書		地下鉄7号線白金台・東六本木間遺跡調査会
1996-058	富樫流旗本坪内家一統系図並由緒(四)	各務原市資料調査報告書第20号	各務原市歴史民俗資料館
1996-059	国立民族学博物館国内資料調査委員会調査報告集	資料一覧(第9集～第15集)	国立民族学博物館情報管理施設
1996-060	あなたと博物館 No.86	伝統工芸新作展	松本市立博物館・日本民俗資料館
1996-061	信州 山里の幸	キノコ・山菜・樹木・加工品ガイド	長野県特産林産協会
1996-062	ウィークエンド野遊び春編		おくやまひさし
1996-063	ウィークエンド野遊び夏編		おくやまひさし
1996-064	フォッサマグナ		山下 昇
1996-065	下総国分寺	いま見つめなおす下総の天平文化	市立市川考古博物館
1996-066	年報 1995		日本民俗資料館・松本市立博物館
1996-067	農具のうつりかわり	収蔵資料図録	松本市立博物館

寄贈図書目録 1996年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1996-068	松本城鉄砲蔵		松本市教育委員会
1996-069	博物館実習報告 第11号		お茶の水女子大学学芸員課程委員会
1996-070	伊予の水軍		愛媛県歴史文化博物館
1996-071	いま博物館で 第4号	諏訪市博物館ニュース第4号	諏訪市博物館
1996-073	石川れきはく No.38	海に生きる	石川県立歴史博物館
1996-074	歴博 第75号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1996-075	自然の学校	BE-PAL OUTING MOOK	(株)小学館
1996-076	花の百名山 13	針ノ木岳 双六岳 槍ヶ岳 瀬沢岳 燕岳	(株)山と溪谷社
1996-077	花の百名山 15	霧ヶ峰 入笠山 宝剣岳 三ノ沢岳 空木岳	(株)山と溪谷社
1996-078	日本の古代遺跡50 長野		桐原健 樋口昇一
1996-079	史料でたどる日本史事典		佐藤和彦 長岡篤 樋口州夫
1996-080	神社辞典		白井永二 土岐昌訓
1996-081	諏訪のむかし話		竹村良信
1996-082	諏訪盆地の民話	信濃の民話10	牛丸仁
1996-083	ザ・科学	いつも科学はおもしろい	太田次郎 奈須紀幸 飯田睦治郎 小森長生 萩原祥宏 後藤道夫
1996-084	和歌植物表現辞典		平田喜信 身崎 壽
1996-085	時宗の美術と文芸	中世の遊行聖と藤沢	藤沢市教育委員会 博物館建設準備担当
1996-086	国立の遺跡	最近の発掘調査とその成果	くにたち郷土文化館
1996-087	世田谷区立郷土資料館 資料館だより No.24	喜多見の遺跡	世田谷区立郷土資料館
1996-088	喜多見の遺跡	多摩川北岸立川段丘面上の遺跡群	世田谷区立郷土資料館
1996-089	山口県博物館協会 会報 第19号 第20号		山口県博物館協会
1996-090	博物館研究 Vol.31 No.2		(財)日本博物館協会
1996-091	森山美術館 VOL.6	場所愛	(財)森山美術館
1996-092	長野市立博物館だより 第35号	小正月とモノヅクリ	長野市立博物館
1996-093	資料館だよりNo.94	茅ヶ崎における低地遺跡の調査	茅ヶ崎市文化資料館
1996-094	山梨県立考古博物館だより No.34	縄文人のくらし	山梨県立考古博物館
1996-095	山梨県立考古博物館だより No.35	黄金の都シカン発掘展	山梨県立考古博物館
1996-096	山梨県立考古博物館だより No.36	黄金の都シカン発掘展	山梨県立考古博物館
1996-097	富士見町博物館だより 第2号	縄文時代後期のイヤリング	富士見町教育委員会
1996-098	博物館ノート No.41	いぼたろうの話	財団法人日本のあかり博物館
1996-099	地質化石館だより No.26	化石まつり'95	戸隠村地質化石館
1996-100	大津歴博だより No.25	時宗の美術と文芸	大津市歴史博物館
1996-101	葵 No.23	熊毛植黒糸威具足	徳川美術館広報部
1996-102	相模原市立博物館ニュース VOL.2		相模原市立博物館
1996-103	資料館だより 第14号	破魔矢祭	各務原市歴史民俗資料館
1996-104	文化財信濃 第19巻 第3号		(社)長野県文化財保護協会
1996-105	「木」の語る中世	歴史を読みなおす11	廣田 一
1996-106	千葉県船橋市本郷台遺跡	第6次発掘調査	山武考古学研究所
1996-107	博物館研究 Vol.31 No.3	徳川義寛会長ご逝去	(財)日本博物館協会
1996-108	伊那谷の自然 第64号	伊那谷の段丘崖は生態的回廊1	伊那谷自然友の会
1996-109	Report 13		大磯町郷土資料館
1996-110	Report 12		大磯町郷土資料館
1996-111	藤沢市文化財調査報告書 第31集		藤沢市教育委員会
1996-112	中央博物館だより No.28	東京湾海苔の文化史	千葉県立中央博物館
1996-113	世田谷区史料叢書 第11巻		世田谷区立郷土資料館
1996-114	山と博物館 第41巻 第4号	安曇節	大町山岳博物館
1996-116	神奈川県立博物館資料目録(自然科学)第9号	隕石目録	神奈川県立生命の星・地球博物館
1996-117	美博だより Vol.33	荘川桜一人の世の一	飯田市美術博物館
1996-118	一宮市博物館博物館だより No.21	宮沢賢治生誕百年記念	一宮市博物館
1996-119	小田原市郷土文化館研究報告 No.32	自然科学 No.16	小田原市郷土文化館
1996-120	博物館研究 Vol.31 No.4		(財)日本博物館協会
1996-121	歴史博物館準備だより Vol.3		香川県教育委員会事務局 歴史博物館建設事務局 香川県教育委員会事務局 歴史博物館建設事務局
1996-122	香川県歴史博物館(仮称)新収蔵資料展		藤森 明
1996-123	水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水	語りつぐ天竜川 43	佐々木渾了
1996-124	藤村記念館だより 第79号		北海道立北方民族博物館
1996-125	北方民族博物館だより 第21号	骨ゲーム, けん玉, うなり板, イヌイ	須坂市立博物館
1996-126	花	開館30周年記念	東京国立博物館
1996-127	国立博物館ニュース 第587号	紅縮緬地菊文鶏模襦袢紗	各務原市戦時記録編集委員会
1996-128	各務原市民の戦時体験		佐本正治
1996-129	戦国大名武田氏の信濃支配		三郷村教育委員会
1996-130	赤つち道	務台理作のうたと随筆	「ふるさと三郷編集委員会」
1996-131	浦幌町郷土博物館報告 第45号		浦幌町郷土博物館
1996-132	戸倉町★さらしなの里古代体験パーク歴史資料館総合案内 展示概説		さらしなの里歴史資料館
1996-133	東京都高尾自然科学博物館研究報告 第17号		東京都高尾自然科学博物館
1996-134	東京都の自然 第22号		東京都高尾自然科学博物館
1996-135	信濃の風土と歴史 2	原始時代の信濃	長野県立歴史館

寄贈図書目録 1996年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1996-136	文化資料館調査研究報告4		茅ヶ崎市文化資料館
1996-138	自然と文化 No.19		平塚市博物館
1996-139	平塚市博物館年報 No.19	平成6年度	平塚市博物館
1996-140	集論 高島秋帆		板橋区立郷土資料館 小西雅徳
1996-141	板橋区立郷土資料館紀要 第11号	1996	板橋区立郷土資料館 小西雅徳
1996-142	板橋区立郷土資料館年報 第8号	平成6年度版	板橋区立郷土資料館
1996-143	歴博 第76号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1996-144	資料館だよりNo.95	柳島エンコロ節	茅ヶ崎市文化資料館
1996-145	長野県立歴史館たより 春号 Vol.6		長野県立歴史館
1996-146	市立市川考古博物館年報 第23号		市立市川考古博物館
1996-147	平塚の道祖神	平塚市博物館資料No.45	平塚市博物館
1996-148	天理参考館 資料を語る		天理大学付属天理参考館
1996-149	三郷文化 第56号	まつり	三郷村教育委員会
1996-150	民俗資料選集 24	南奥羽の水祝儀	文化庁文化財保護部
1996-151	下関市立考古博物館年報 1	平成7年度	下関市立考古博物館
1996-152	下関市立考古博物館常設展示図録		下関市立考古博物館
1996-153	綾羅木遺跡の歴史展		下関市立考古博物館
1996-154	長野県天然記念物居谷里湿原保存調査報告書		大町市教育委員会
1996-155	大町市の文化財	大町市指定文化財調査書 第2版	大町市教育委員会
1996-156	港区立港郷土資料館だより 第29号	芝金杉の漁撈習俗調査と特別展	港区立港郷土資料館
1996-157	港区立港郷土資料館だより 第30号	町場の生活誌	港区立港郷土資料館
1996-158	平成7年度港区指定文化財	1995.9.26指定	港区教育委員会社会教育課文化財係
1996-159	港区文化財調査集録 第3集	1996	港区教育委員会
1996-160	港区立港郷土資料館所蔵文書目録		港区教育委員会
1996-161	富士吉田市歴史民俗博物館だより No.6	ホウトウ教室開催	富士吉田市歴史民俗博物館
1996-162	富士山の絵札	牛玉と御影を中心に	富士吉田市歴史民俗博物館
1996-163	相模原の昆虫	身近にいる小さな仲間たち	相模原市立博物館
1996-164	三匹獅子舞の諸相	獅子舞調査報告書第六集	相模原市立博物館
1996-165	早稲田大学 東伏見総合グラウンド遺跡B地区調査報告書	体育教室棟建設に伴うグリーンハウス跡地の調査	早稲田大学校地埋蔵文化財調査室
1996-166	愛媛県歴史文化博物館研究紀要 第1号		愛媛県歴史文化博物館
1996-167	愛媛県歴史文化博物館だより 第6号	博物館学習講座案内	愛媛県歴史文化博物館
1996-168	所蔵文書目録(稿)一		松本市立博物館
1996-169	あなたと博物館 No.87	鈴木鎮一記念館オープン	松本市立博物館・日本民俗資料館
1996-170	美術館だより 第4号	中川紀元	辰野美術館
1996-171	博物館研究 Vol.31 No.6		(財)日本博物館協会
1996-172	特別展「英山」図録		日本浮世絵学会
1996-173	中国・南越王の至宝	前漢時代 広州の王朝文化	毎日新聞社
1996-174	決定版 ベットボトル・ロケット		別府護郎
1996-175	国立博物館ニュース 第591号	銀製耳杯	東京国立博物館
1996-176	森のしんぶん No.78		牛久自然観察の森
1996-177	雑木林のおとしぶみ No.37		牛久自然観察の森
1996-178	しぜんっこ No.27		牛久自然観察の森
1996-181	長野県立歴史館たより 夏号 Vol.7	縄文人の一生	長野県立歴史館
1996-182	伊予八幡の大名	大名文化の世界	愛媛県歴史文化博物館
1996-183	くにたち郷土文化館 研究紀要 第1号	博物館を取り巻く環境	くにたち郷土文化館
1996-184	天然記念物平松のウツクシマツ自生地保護増殖事業報告書	平成7年度	甲西町教育委員会
1996-185	千葉県立中央博物館要覧	平成8年度	千葉県立中央博物館
1996-186	中央博物館だより No.29	植物群落のRDB	千葉県立中央博物館
1996-187	Museum Data No.33	文化財の展示と地震	神奈川県研究所情報開発研究部
1996-188	郷土資料展示室だより No.23		厚木市教育委員会博物館準備係
1996-189	郷土資料展示室だより No.24		厚木市教育委員会博物館準備係
1996-190	郷土資料展示室だより No.25		厚木市教育委員会博物館準備係
1996-191	郷土資料展示室だより No.26		厚木市教育委員会博物館準備係
1996-192	厚木の植物1996	博物館収蔵資料展5	厚木市教育委員会博物館準備係
1996-193	植物に魅せられた人たち	相模、厚木の富士信仰	厚木市教育委員会生涯学習課文化財保護係
1996-194	広重の富士三十六景	厚木市博物館資料 No.4	厚木市地形地質調査団
1996-195	鐘ヶ嶽東方の七沢石	厚木市博物館資料集 No.7	丹沢動物調査団
1996-196	厚木市荻野の動物Ⅱ	厚木市博物館資料集 No.8	丹沢植物調査団
1996-197	厚木市荻野の植物Ⅱ		跡見学園女子大学花咲記念資料館・学芸員課程
1996-198	にいくら No.1	梅雨間の空	大町山岳博物館
1996-199	山と博物館 第41巻 第7号	伊那谷の段丘崖は生態的回廊3	伊那谷自然友の会
1996-200	大昔のけものたち	信州のほ乳類化石	長野市立博物館
1996-201	藤村記念館だより 第80号		佐々木渾了
1996-202	冷たい海にすむ貝	現生と化石の貝について	信州新町化石博物館
1996-203	歴史館だより 第4号	全国的にも珍しい古墳時代の短甲	中野市教育委員会
1996-204	NKH(長岡市立博物館報) No.68	生物研究発表特集号	長岡市立科学博物館
1996-205	NKH(長岡市立博物館報) No.69	平成7年度収集の歴史資料	長岡市立科学博物館

寄贈図書目録 1996年

受付№	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1996-206	長岡市立科学博物館研究報告 第31号	長岡市悠久山の総合調査	長岡市立科学博物館
1996-207	歴博 第77号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1996-208	地質化石館だより No.27	三保の松原よりオットセイ来る	戸隠村地質化石館
1996-209	国立民族学博物館国内資料調査委員調査報告集	16	国立民族学博物館情報管理施設
1996-210	館報 第4号	1996.3	春日部市郷土資料館
1996-211	消えた名利	小淵 不動院の歴史	春日部市郷土資料館
1996-212	港北ニュータウン地域の暮らし		横浜市歴史博物館
1996-213	横浜市歴史博物館資料集第2集	神奈川県農会報 第15号	横浜市歴史博物館
1996-214	石川れきはく No.40	祝博	(財)横浜市ふるさと歴史財団
1996-218	富山県「立山博物館」研究紀要 第3号		石川県立歴史博物館
1996-219	愛媛県歴史文化博物館だより 第6号	伊予の水軍	富山県「立山博物館」
1996-220	信州の蝶		愛媛県歴史文化博物館
1996-221	松本市史 第二巻歴史編 I	原始・古代・中世	浜栄一 栗田貞多男 田下昌志
1996-223	かがくを感じるあそび事典	したいさせたいビククリ実験100集	松本市
1996-224	長野県文化財分布図		山田卓三 トミタ・イチロー
1996-225	飯田市美術博物館研究紀要 第6号	1996.3	長野県教育委員会
1996-226	博物館研究 Vol.31 No.7		飯田市美術博物館
1996-227	歴史の道調査報告書XXXXV	三才山道	(財)日本博物館協会
1996-228	歴史の道調査報告書XXXXVI	法華道	長野県教育委員会
1996-229	歴史の道調査報告書XXXXVII	春日街道	長野県教育委員会
1996-230	歴史の道調査報告書XXXXVIII	下條道(駒場道)	長野県教育委員会
1996-231	豊科近代美術館館報 第3号	平成6年度	豊科近代美術館
1996-232	豊科近代美術館館報 第4号	平成7年度	豊科近代美術館
1996-233	弥生人のくらしと祈り	信濃への広まり	上田市立信濃国分寺資料館
1996-234	伊那谷の自然 第65号	伊那谷の段丘崖は生態学的回廊2	伊那谷自然友の会
1996-235	山と博物館 第41巻 第5号	山鳴らし	大町山岳博物館
1996-236	国立博物館ニュース 第589号	黒漆塗ジョッキ	東京国立博物館
1996-237	博物館研究 Vol.31 No.5		(財)日本博物館協会
1996-238	和歌山県の水草		和歌山県立自然博物館
1996-239	縄文人の一生	北村遺跡に生きた人びと	長野県立歴史館
1996-240	日向市文化資料館報 第11号	平成6年度 ～資料館活動10年のあゆみ～	日向市文化資料館
1996-241	なすな原遺跡-No.2地区調査		なすな原遺跡調査団
1996-242	野尻湖博物館だよりNo.39	野尻湖でボーリング調査	信濃町立野尻湖博物館
1996-243	野尻湖博物館だよりNo.40	野尻湖文化石器等管理移管	信濃町立野尻湖博物館
1996-244	松戸市立博物館紀要 第2号		松戸市立博物館
1996-245	松戸市立博物館紀要 第3号		松戸市立博物館
1996-246	三郷文化 第57号	今昔すなっぷ	三郷村教育委員会
1996-247	日本大学獣医学部資料館 資料館報 No.4		日本大学獣医学部資料館
1996-248	神奈川自然誌資料 第17号		神奈川県立生命の星・地球博物館
1996-249	神奈川県立博物館研究報告(自然科学)25号		神奈川県立生命の星・地球博物館
1996-250	日本最古の霊長類中津層出土のサル化石	250万年前の神奈川の生きものたち	神奈川県立生命の星・地球博物館

寄贈図書目録 1997年

受付№	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-001	国史大辞典 15 上	補遺、索引、史料・地名	国史大辞典編集委員会
1997-002	国史大辞典 15 中	索引、人名	国史大辞典編集委員会
1997-003	国史大辞典 15 下	索引、事項	国史大辞典編集委員会
1997-004	新訂図解実験観察大事典 化学		長倉三郎 武田一美
1997-005	新訂図解実験観察大事典 物理		近角聰信 豊田博慈
1997-006	秩父武甲山総合調査報告書	全3巻 別編3冊	武甲山総合調査会
1997-007	高島藩邸と諏訪氏一族		浅川清栄
1997-008	高部の文化財		高部歴史編纂委員会
1997-009	鳳来寺山の自然誌		愛知県南設楽郡鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
1997-010	わが心の赤彦童謡		藤田郁子
1997-011	万葉植物事典	万葉植物を読む	山田卓三 中嶋信太郎
1997-012	美しき大湫谷 一億年の旅	大断層・中央構造線の謎を追う	横山良哲
1997-013	日本民具辞典		日本民具学会
1997-014	花びら染め		箕輪直子
1997-015	世田谷区資料叢書 第十二巻		世田谷区立郷土資料館
1997-016	いのちを感じるあそび事典	したいさせたいおもしろ実験200集	山田卓三 トミタ・イチロー
1997-017	やってみようなんでも実験Vol.1	自由研究のヒントがいっぱい	井上譲
1997-018	やってみようなんでも実験Vol.2	自由研究のヒントがいっぱい	井上譲
1997-019	武甲山の信仰とくらし	第14回特別展	横瀬町歴史民俗資料館
1997-020	災害と消防	第13回特別展	横瀬町歴史民俗資料館
1997-021	横瀬町の文化財		横瀬町教育委員会 横瀬町文化財保護審議会
1997-022	横瀬町歴史民俗資料館展示案内		横瀬町歴史民俗資料館
1997-023	中部高地をとりまく中期の土偶		土偶とその情報研究会
1997-024	博物館学総論		加藤有次
1997-025	民俗資料選集 25	焼畑習俗	文化庁文化財保護部
1997-026	地域文化 No.37	安曇野の金字塔常年岳	(財)八十二文化財団
1997-027	地域文化 No.38	そして歌は流れゆく 中山晋平	(財)八十二文化財団
1997-028	地域文化 No.39	運ぶ、味わう、生きる一暮らしの中の塩を問う。	(財)八十二文化財団
1997-029	地域文化 No.40	谷を越えて峠の向こうへー信州の鉄道	(財)八十二文化財団
1997-030	地域文化 No.41	ワンダーランド諏訪湖	(財)八十二文化財団
1997-031	長野県の郷土と文化	1996年第2回調査報告	(財)八十二文化財団
1997-032	山と博物館 第41巻 第6号	安曇野を見下ろす	大町山岳博物館
1997-033	山と博物館 第41巻 第8号	野生の心ー日本ザルと共にー戸谷和郎写真展	大町山岳博物館
1997-034	山と博物館 第41巻 第9号	黒部湖スライ谷河口	大町山岳博物館
1997-035	山と博物館 第41巻 第10号	リンゴと鹿島槍	大町山岳博物館
1997-036	山と博物館 第41巻 第11号	初霜	大町山岳博物館
1997-037	山と博物館 第41巻 第12号	年中行事	大町山岳博物館
1997-038	山と博物館 第42巻 第1号	冬の中編	大町山岳博物館
1997-039	山と博物館 第42巻 第2号	アルプスナンバーワン	大町山岳博物館
1997-040	山と博物館 第42巻 第3号	西條八束・西條紀子二人展	大町山岳博物館
1997-041	山と博物館 第42巻 第4号	パレットの中の野鳥たち	大町山岳博物館
1997-042	山と博物館 第42巻 第5号	標高三千メートルの世界を描く	大町山岳博物館
1997-043	山と博物館 第42巻 第6号	遭難慰霊に思う	大町山岳博物館
1997-044	山と博物館 第42巻 第7号	パノラマを描く	大町山岳博物館
1997-045	児童生徒理科研究録 第42集(平成4年度)	小・中学校篇	諏訪教育会理科研究録委員会
1997-046	児童生徒理科研究録 第44集(平成6年度)	小・中学校篇	諏訪教育会理科研究録委員会
1997-047	児童生徒理科研究録 第45集(平成7年度)	小・中学校篇	諏訪教育会理科研究録委員会
1997-048	児童生徒理科研究録 第46集(平成8年度)	小・中学校篇	諏訪教育会理科研究録委員会
1997-049	身近な科学レポート		
1997-049	自然研究紀要 第十九集	昭和58年度	児平敏郎
1997-050	自然研究紀要 第二十集	昭和59年度	児平敏郎
1997-051	自然研究紀要 第二十八集	平成4年度	藤原健一
1997-052	自然研究紀要 第二十九集	平成5年度	両角徹郎
1997-053	自然研究紀要 第三十集	平成6年度	川口實
1997-054	自然研究紀要 第三十一集	平成7年度	北沢和男
1997-055	自然研究紀要 第三十二集	平成8年度	花岡孝次
1997-056	博物館研究 Vol.31 No.8		(財)日本博物館協会
1997-057	博物館研究 Vol.31 No.9		(財)日本博物館協会
1997-058	博物館研究 Vol.31 No.10		(財)日本博物館協会
1997-059	博物館研究 Vol.31 No.11		(財)日本博物館協会
1997-060	博物館研究 Vol.31 No.12		(財)日本博物館協会
1997-061	博物館研究 Vol.32 No.1		(財)日本博物館協会
1997-062	博物館研究 Vol.32 No.2		(財)日本博物館協会
1997-063	博物館研究 Vol.32 No.3		(財)日本博物館協会
1997-064	博物館研究 Vol.32 No.4		(財)日本博物館協会
1997-065	博物館研究 Vol.32 No.5		(財)日本博物館協会
1997-066	博物館研究 Vol.32 No.6		(財)日本博物館協会
1997-067	博物館研究 Vol.32 No.7		(財)日本博物館協会

寄贈図書目録 1997年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-068	博物館におけるマルチメディアの活用に関する調査研究報告書	平成7年度	(財)日本博物館協会
1997-069	博物館におけるマルチメディアの活用に関する調査研究報告書(Ⅱ)	平成8年度	(財)日本博物館協会
1997-070	博物館の防災方策に関する調査研究報告書	平成8年度	(財)日本博物館協会
1997-071	博物館指導者研究協議会報告書	平成8年度	(財)日本博物館協会
1997-072	第44回全国博物館大会報告書—平成8年度 今、博物館に求められているもの	博物館相互の連携 特に相互信頼の醸成について	(財)日本博物館協会
1997-073	中央博物館だより No.30	恐竜の足跡と謎の先カンブリア生物	千葉県立中央博物館
1997-074	中央博物館だより No.31	現代の動物画・植物画	千葉県立中央博物館
1997-075	中央博物館だより No.32	カムチャッカ半島1996夏	千葉県立中央博物館
1997-076	中央博物館だより No.33	植物画の技法	千葉県立中央博物館
1997-077	千葉県立中央博物館年報8	平成7年度版	千葉県立中央博物館
1997-078	美博だより VOL.37	春想	飯田市美術博物館
1997-079	神々の訪れ	天竜川流域の芸能の面	飯田市美術博物館
1997-080	伊那谷の地形芝居[文書目録編]	飯田市美術博物館調査報告書2	飯田市美術博物館
1997-081	天理参考館報 第9号	1995年度	天理大学付属天理参考館
1997-082	桧野照武氏旧蔵資料目録1	福島県いわき市出土品	天理大学付属天理参考館
1997-083	動く映像とミュージアム NO.19	ニューズレター	「動く映像とミュージアム」編集委員会
1997-084	長野市立博物館だより第37号	豊かな実りを祈る	長野市立博物館
1997-085	豊かな実りを祈る	小正月の行事	長野市立博物館
1997-086	岡谷蚕糸博物館紀要 1		市立岡谷蚕糸博物館
1997-087	野尻湖ナウマンゾウ博物館だより No.41	野尻湖博物館からナウマンゾウ博物館に!	野尻湖ナウマンゾウ博物館
1997-088	野尻湖ナウマンゾウ博物館だより No.42	全国からの見学者でにぎわった'96年夏	野尻湖ナウマンゾウ博物館
1997-089	野尻湖ナウマンゾウ博物館だより No.44	野尻湖で4万年前の尖頭器が出土!	野尻湖ナウマンゾウ博物館
1997-090	Museum Data No.34	1995年度開設博物館情報	榊丹青研究所
1997-091	Museum Data No.35	博物館と学校教育	榊丹青研究所
1997-092	弥生墓制の系譜	平成8年度企画展	秦野市立桜土手古墳展示館
1997-093	弥生墓制の系譜	平成8年度企画展	秦野市立桜土手古墳展示館
1997-094	北方民族博物館だより 第23号	カーディアン	北海道立北方民族博物館
1997-095	北方民族博物館だより 第24号	能取岬西岸遺跡	北海道立北方民族博物館
1997-096	たばこと民族文化	たばこが北方に伝わるまで	北海道立北方民族博物館
1997-097	南都六大寺展	仏教美術の源流	信越放送 長野県信濃美術館
1997-098	ルイス・ニシザワ展		長野県信濃美術館
1997-099	草間彌生展		長野県信濃美術館
1997-100	ヨーロッパに学んだ画家たち	ブリヂストン美術館所蔵作品を中心にして	長野県信濃美術館
1997-101	日本の近代彫刻展		長野県信濃美術館
1997-102	フィンランド美術の歩み	大気 水 土	フィンランド美術展実行委員会
1997-103	小山敬三展		長野県信濃美術館
1997-104	池田満寿夫版画展		長野県信濃美術館
1997-105	池田満寿夫展	黒田コレクションを中心に、初期から最新作まで	長野県信濃美術館
1997-106	花のシンポジオン(饗宴), 信州	信州の風景画シリーズ18	長野県信濃美術館
1997-107	鈴木芙蓉展		長野県信濃美術館 伊那文化会館
1997-108	沖縄の工芸美術		長野県信濃美術館
1997-109	近代の歴史画展	江崎孝坪と武者絵の系譜	長野県信濃美術館
1997-110	戦後50年 疎開作家と信州	長野県に疎開した美術家の足跡	長野県信濃美術館
1997-111	長野県信濃美術館美術調査 第5号		長野県信濃美術館
1997-112	わが町下諏訪 歴史編	生涯学習ガイドブック1	下諏訪町社会教育委員会
1997-113	わが町下諏訪 文芸・文化編	生涯学習ガイドブック2	下諏訪町社会教育委員会
1997-114	桜井コレクションの魅力	偉大なアマチュア自然科学者の軌跡	神奈川県立生命の星・地球博物館
1997-115	神奈川自然誌資料 第18号		神奈川県立生命の星・地球博物館
1997-116	神奈川県立博物館研究報告(自然科学) 26号		神奈川県立生命の星・地球博物館
1997-117	神奈川県立博物館資料目録(自然科学) 第10号	桜井欽一コレクション標本目録第1集化石	神奈川県立生命の星・地球博物館
1997-118	追われる生きものたち	神奈川県レッドデータが語るもの	神奈川県立生命の星・地球博物館
1997-119	国立歴史民俗博物館要覧	1996	国立歴史民俗博物館
1997-120	国立歴史民俗博物館要覧	1997	国立歴史民俗博物館
1997-121	歴博 第78号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-122	歴博 第79号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-123	歴博 第80号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-124	歴博 第81号	現代社会と歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-125	歴博 第82号	くらしの歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-126	歴博 第83号	くらしの歴史学	国立歴史民俗博物館
1997-127	大島町貝資料館「ばれ・らめーる」貝類展示標本目録		大島町貝資料館「ばれ・らめーる」
1997-128	郷土出身の画家 岩井弥一郎		春日部市郷土資料館
1997-129	人生儀礼の諸相	誕生・結婚・葬送をめぐる人々	くにたち郷土文化館
1997-130	奥三河の滝 10万年の旅	美しい滝はどうしてできたのか	横山良哲
1997-131	奥三河 1600万年の旅	設楽盆地の自然と人びとの暮らし	横山良哲
1997-132	鳳来寺山自然科学博物館 館報 第26号		鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館
1997-133	東三河の自然と人を語る	館報 18号 創立25周年特集号	鳳来町立鳳来寺山自然科学博物館

寄贈図書目録 1997年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-134	おやこ自然観察	日ようびの地学	鳥居孝一
1997-135	あしもとに学ぶ郷土の自然	館報 19号	鳳来寺山自然科学博物館
1997-136	長野県立歴史館たより 冬号 Vol.9		長野県立歴史館
1997-137	長野県立歴史館たより 春号 Vol.10		長野県立歴史館
1997-138	長野県立歴史館たより 夏号 Vol.11		長野県立歴史館
1997-139	信濃の風土と歴史 3	更埴市森將軍塚古墳館開館 殖産興業と万国博覧会 中世の信濃	長野県立歴史館
1997-140	長野県立歴史館研究紀要 第3号		長野県立歴史館
1997-141	鹿児島県歴史資料センター黎明館常設展示図録		鹿児島県歴史資料センター黎明館
1997-142	黎明 Vol.14 No.3	常設展示改装記念特集号	鹿児島県歴史資料センター黎明館
1997-143	鹿児島県歴史資料センター黎明館年報	平成5年度	鹿児島県歴史資料センター黎明館
1997-144	近松研究所紀要 第五号		園田学園女子大学 近松研究所
1997-145	都市と医療	病に立ち会った人々	港区教育委員会(港区立港郷土資料館)
1997-146	港区立港郷土資料館だより 第31号	人も資料もー震災と博物館ー	港区立港郷土資料館
1997-147	港区立港郷土資料館だより 第32号	港区指定文化財	港区立港郷土資料館
1997-148	港区立港郷土資料館だより 第33号	人間国宝 中臺瑞真作品展	港区立港郷土資料館
1997-149	研究紀要 4	平成8年	港区教育委員会(港区立港郷土資料館)
1997-150	港郷土資料館館報 No.14	平成7年度	港区立港郷土資料館
1997-151	人間国宝(木工芸)「中臺瑞真作品展」	港区政50周年名誉区民顕彰記念	港区立港郷土資料館
1997-152	平成8年度港区指定文化財		港区教育委員会
1997-153	三河臺町遺跡発掘調査報告書	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告 22	港区教育委員会
1997-154	芝田町四丁目町屋跡遺跡発掘調査報告書	港区内近世都市江戸関連遺跡発掘調査報告 23	港区遺跡調査事務局
1997-155	飯田市美術博物館飯田市上郷考古博物館年報 第5号	平成6年度	飯田市美術博物館
1997-156	伊那谷の民俗	向山雅重写真集	向山資料保存会
1997-157	国立博物館ニュース 第590号	菩薩頭部	東京国立博物館
1997-158	国立博物館ニュース 第592号	秋山遊猿図	東京国立博物館
1997-159	国立博物館ニュース 第593号	四騎獅子狩文綿	東京国立博物館
1997-160	国立博物館ニュース 第594号	聖徳太子像	東京国立博物館
1997-161	国立博物館ニュース 第595号	染付獅子香炉	東京国立博物館
1997-162	国立博物館ニュース 第596号	興福寺国宝展	東京国立博物館
1997-163	国立博物館ニュース 第597号	興福寺国宝展	東京国立博物館
1997-164	国立博物館ニュース 第598号	白鳥組地羽織	東京国立博物館
1997-165	国立博物館ニュース 第599号	雪中群鶴	東京国立博物館
1997-166	国立博物館ニュース 第600号	金製動物闘争紋帯飾板	東京国立博物館
1997-167	国立博物館ニュース 第601号	銅鐸	東京国立博物館
1997-168	国立博物館ニュース 第602号	春	東京国立博物館
1997-169	国立博物館ニュース 第603号	愛染明王坐像	東京国立博物館
1997-170	印判状の世界	特別展	小田原市郷土文化館
1997-171	歴史研究 第424号	後南朝一族の謎	吉成勇
1997-172	森山美術館報 第17号	喜多武四郎「横坐婦」について	財団法人森山美術館
1997-173	自然史博物館だより No.21	フィールドマップ	倉敷市立自然史博物館
1997-174	自然史博物館だより No.22	種松山の自然	倉敷市立自然史博物館
1997-175	倉敷市立自然史博物館報 6	平成5～6年度	倉敷市立自然史博物館
1997-176	種松山の自然	第12回特別展解説	倉敷市立自然史博物館
1997-177	倉敷市立自然史博物館研究報告 第11号	1996	倉敷市立自然史博物館
1997-178	宇野確雄植物コレクション(5)	サクラソウ科～ハナシノブ科	倉敷市立自然史博物館
1997-179	研究紀要 創刊号		東京学芸大学教育学部生涯教育研究室
1997-180	研究紀要 第18号		埼玉県立歴史資料館
1997-181	川崎市青少年科学館年報	平成8年度	川崎市青少年科学館
1997-182	川崎市青少年科学館紀要 第7号		川崎市青少年科学館
1997-183	研究紀要 第2号		東京学芸大学生涯教育研究室
1997-184	火焰土器研究の新視点	縄文人の技と心に迫る	十日町市博物館
1997-185	野首遺跡発掘調査概要報告書	十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書第9集	十日町市教育委員会
1997-186	NKH(長岡市立科学博物館報) No.70	生物研究発表・少年少女青空科学教室特集号	長岡市立科学博物館
1997-187	NKH(長岡市立科学博物館報) No.71	鋸山山頂の昆虫	長岡市立科学博物館
1997-188	長岡市立科学博物館研究報告 第32号		長岡市立科学博物館
1997-189	ユネスコ世界遺産 1996		三好正人
1997-190	田村一男展		松本市教育委員会 文化課
1997-191	にいくら No.2		跡見学園女子大学花咲記念資料館・学芸員課程
1997-192	シルクロードとガンダーラ	開館5周年記念特別展	松戸市立博物館
1997-193	市橋北野遺跡発掘調査報告書		美濃加茂市教育委員会文化課
1997-194	大涌谷自然科学館 第13号		大涌谷自然科学館
1997-195	厚木の里山を歩く	博物館収蔵資料展7	厚木市教育委員会
1997-196	神領遺跡発掘調査概要報告書	春日井神領土地区画整理事業に伴う発掘調査	春日井市教育委員会
1997-197	千葉県船橋市 夏見台遺跡	第10次発掘調査報告書	船橋市遺跡調査会
1997-198	日本大学農獣医学部資料館報 第5号	1995	日本大学農獣医学部資料館
1997-199	くにとち郷土文化館年報 創刊号	平成6・7年度	くにとち郷土文化館
1997-200	研究紀要 第1号	1997	下関市立考古博物館

寄贈図書目録 1997年

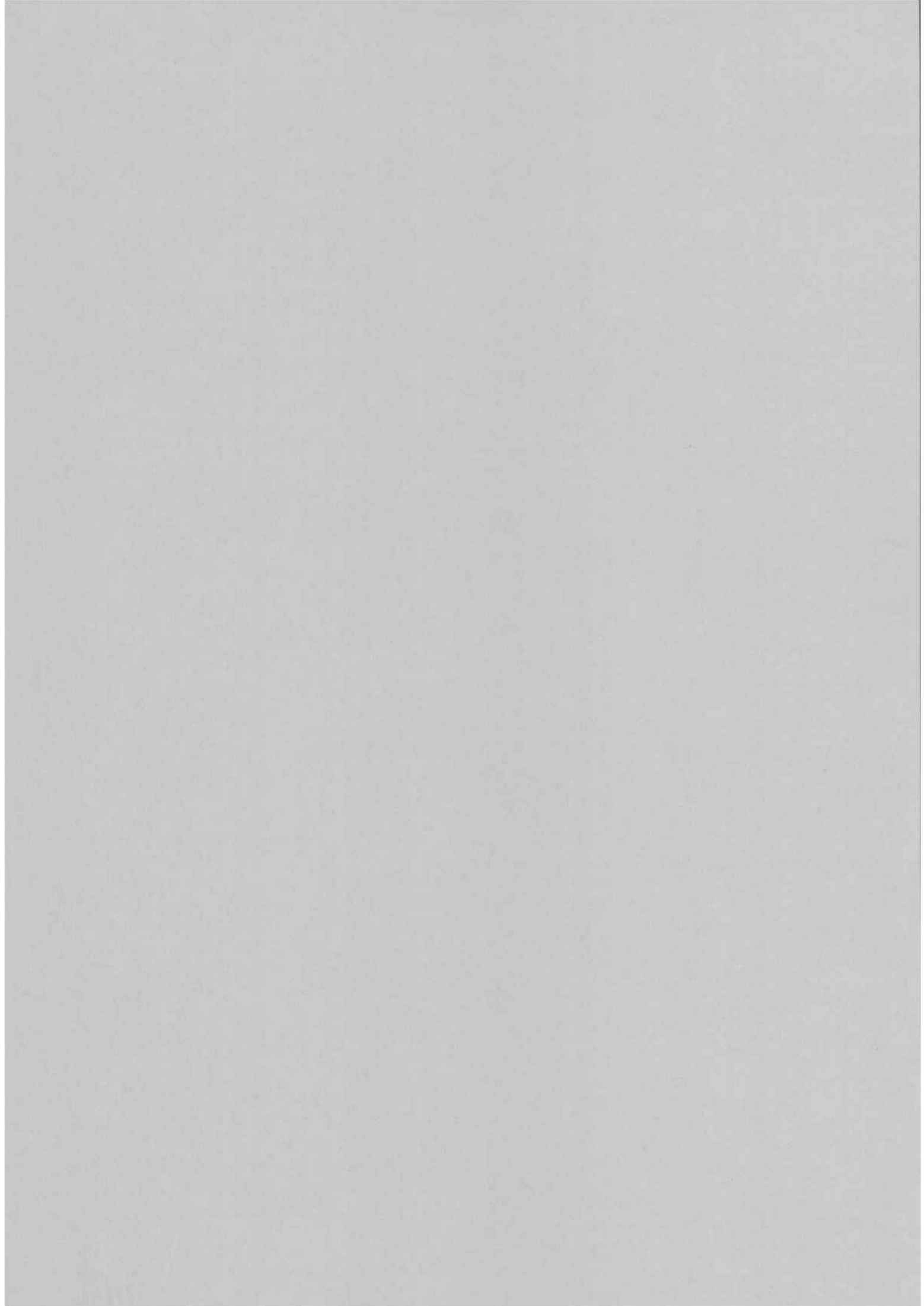
受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-201	下関市立考古博物館年報 2	平成8年度	下関市立考古博物館
1997-202	古代・中世人の祈り	善光寺信仰と北信濃	長野市立博物館
1997-203	小田原市郷土文化館研究報告 No.33	人文科学No.17	小田原市郷土文化館
1997-204	自然と文化 No.20	平塚市博物館研究報告	平塚市博物館
1997-205	平塚市博物館年報 第20号	平成7年度	平塚市博物館
1997-206	三郷文化 第58号		三郷村教育委員会
1997-207	三郷文化 第59号		三郷村教育委員会
1997-208	三郷文化 第60号		三郷村教育委員会
1997-209	天然記念物平松のウツクシマツ自生地保護増殖事業報告書	平成8年度	甲西町教育委員会
1997-210	篠原昭登自選展	その50年の歩み	篠原昭登
1997-211	あかり	国指定重要有形民俗文化財灯火具資料図録	財団法人日本のあかり博物館
1997-212	神戸市立博物館年報 No.11	平成5年度	神戸市立博物館
1997-213	神戸市立博物館研究紀要 No.11		神戸市立博物館
1997-214	神戸市立博物館研究紀要 No.12		神戸市立博物館
1997-215	静岡県漁場図解説書	沼津市史叢書一	沼津市史編集委員会
1997-216	沼津市史だより 第2号	帯笑園之図	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-217	沼津市史だより 第3号	沼津城絵図	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-218	沼津市史だより 第4号	大平村下絵図	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-219	沼津市史だより 第5号	御城下三町老紙鹿絵図	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-220	沼津市史だより 第6号	原宿助郷絵図	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-221	沼津市史だより 第7号	山王霊験記	沼津市教育委員会社会教育課市史編さん係
1997-222	板橋区立郷土資料館年報 第9号	平成7年度	板橋区立郷土資料館
1997-223	田遊び	農耕文化と芸能の世界	板橋区立郷土資料館
1997-224	長崎唐人貿易と煎茶道	中国風煎茶の導入とその派生	板橋区立郷土資料館
1997-225	近世信州画壇の草分け 天龍道人		諏訪市博物館
1997-226	長野県埋蔵文化財センター年報 12	1995	(財)長野県埋蔵文化財センター
1997-227	長野県埋蔵文化財センター紀要 4	1995	(財)長野県埋蔵文化財センター
1997-228	長野県埋蔵文化財発掘調査要覧 その6	平成62年度～平成元年度	長野県教育委員会文化課
1997-229	親子でウォーク ワクワ長野県の博物館		信州大学教育学部歴史研究会
1997-230	江戸の植物図譜	世田谷の本草画家斎田雲岱の世界	斎田記念館 世田谷区立郷土資料館
1997-231	民具から見た台所の歴史	博物館資料集5	浜松市博物館
1997-232	彫刻家の系譜	親子三代展	蓼科高原美術館[矢崎虎夫記念館]
1997-233	中川紀元とその後輩たち	二紀会創設50周年を迎え	辰野美術館
1997-234	おばあちゃんの針仕事	大磯町郷土資料館秋季特別展図録	大磯町郷土資料館
1997-235	年報	平成7年度	大磯町郷土資料館
1997-236	遺跡分布地図及び手引	尼崎市埋蔵文化財	尼崎市教育委員会
1997-237	尼崎市埋蔵文化財年報	平成4年度	尼崎市教育委員会文化財担当
1997-238	市誌研究ながの 第四号		長野市誌編さん委員会
1997-239	城下町松代の民俗	長野市誌民俗調査報告書 第四集	長野市誌編さん委員会民俗部会
1997-240	坂戸市関係新聞記事資料目録(一)	坂戸市郷土歴史資料 第三集	坂戸市教育委員会
1997-241	坂戸市関係新聞記事資料目録(二)	坂戸市郷土歴史資料 第四集	坂戸市教育委員会
1997-242	北海道立北方民族博物館研究紀要 第5号		北海道立北方民族博物館
1997-243	日本国憲法と議会政治の歩み特別展展示目録	日本国憲法施行五十周年記念	憲政記念館
1997-244	博物館実習報告 第12号	1996年度版	お茶の水女子大学学芸員課程委員会
1997-245	江戸幕府の天領	飯島陣屋ブックレット	村上直
1997-246	岡崎の文化財めぐり		岡崎市教育委員会
1997-247	岡崎の指定文化財目録		岡崎市教育委員会社会教育課文化財係
1997-248	あなたと博物館 No.88	90歳になりました	松本市立博物館・日本民俗資料館
1997-249	あなたと博物館 No.89	小林邦作品	松本市立博物館・日本民俗資料館
1997-250	年報 1996		松本市立博物館・日本民俗資料館
1997-251	小林邦作品	その色とかたち	松本市立博物館
1997-252	相模原市立博物館ニュース Vol.3		相模原市立博物館
1997-253	相模原市立博物館ニュース Vol.4		相模原市立博物館
1997-254	相模原市立博物館ニュース Vol.5		相模原市立博物館
1997-255	相模原市立博物館ニュース Vol.6		相模原市立博物館
1997-256	相模原市立博物館ニュース Vol.7		相模原市立博物館
1997-257	石川れきはく No.41	波濤をこえて	石川県立歴史博物館
1997-258	石川れきはく No.42	江戸時代絵図の世界	石川県立歴史博物館
1997-259	石川れきはく No.43	甲冑・鎧刀・装具	石川県立歴史博物館
1997-260	石川れきはく No.44	蓄音機	石川県立歴史博物館
1997-261	資料館だよりNo.96	ササラ盆唄	茅ヶ崎市文化資料館
1997-262	資料館だよりNo.97	衣料整理から特別展へ	茅ヶ崎市文化資料館
1997-263	資料館だよりNo.98	‘もの’へのこだわり	茅ヶ崎市文化資料館
1997-264	資料館だよりNo.99	南湖麦打唄	茅ヶ崎市文化資料館
1997-265	資料館だよりNo.100	資料館だより100号発刊によせて	茅ヶ崎市文化資料館
1997-266	文化資料館調査研究報告 5	1997	茅ヶ崎市文化資料館
1997-267	神奈川県立博物館研究報告 人文科学 第23号		神奈川県立歴史博物館

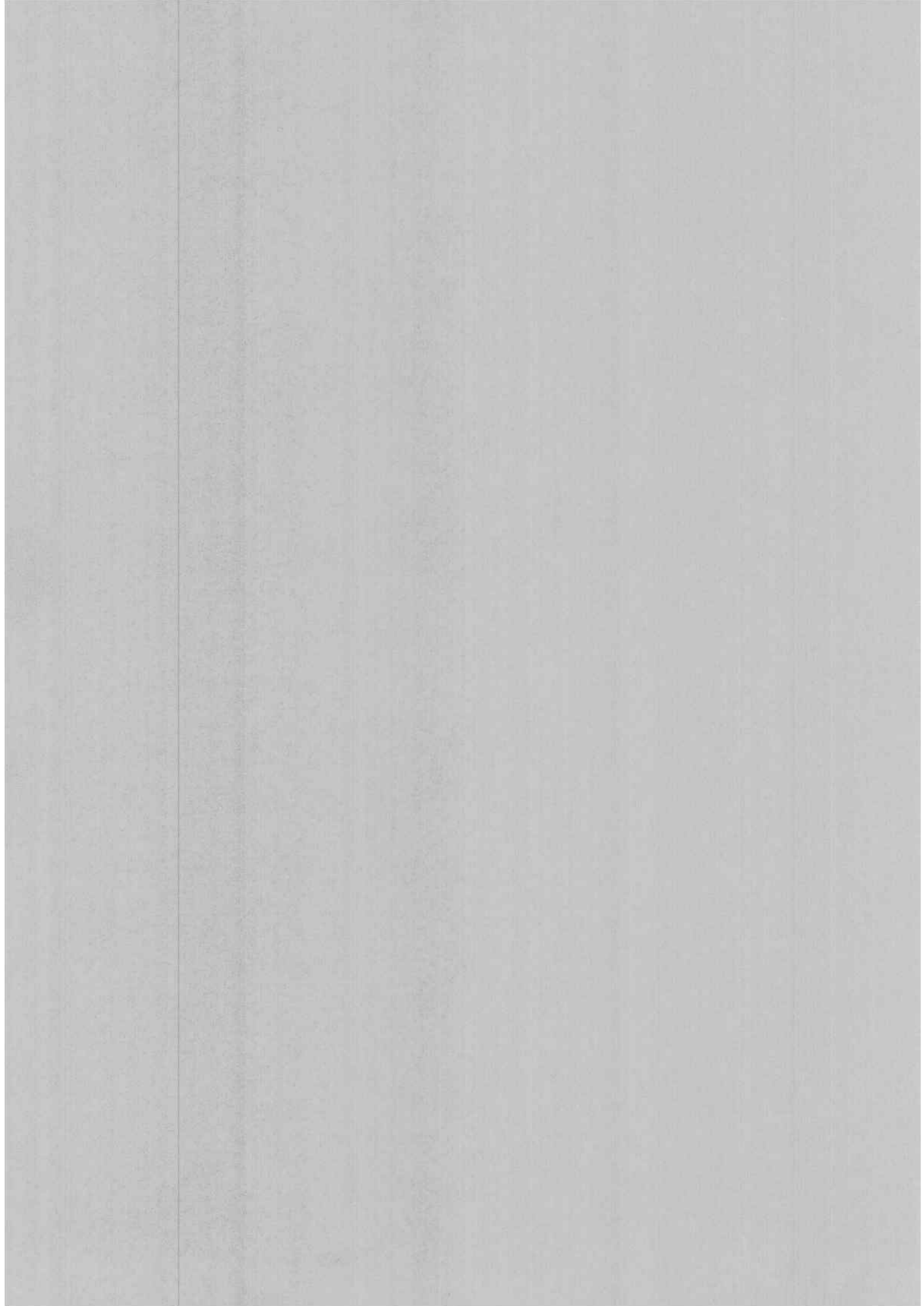
寄贈図書目録 1997年

受付No.	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-268	神奈川県立自然保護センター報告 第14号	平成9年	神奈川県立自然保護センター
1997-269	生命史20億年	ヒトのルーツをさぐる	松岡敬二
1997-270	天竜川上流の主要な鳥類		株式会社環境アセスメントセンター
1997-271	天竜川上流部の生物		株式会社総合環境研究所
1997-272	安全で快適な流域圏の創出アルプスが育む自然豊かな天竜川をめざして		建設省天竜川上流工事事務所 他5
1997-273	大津歴博だより No.26	延暦寺里坊	大津市歴史博物館
1997-274	大津歴博だより No.27	シーボルト家二百年展	大津市歴史博物館
1997-275	大津歴博だより No.28	近江の巨匠一海北友松	大津市歴史博物館
1997-276	大津歴博だより No.29	大津の仏像	大津市歴史博物館
1997-277	大津歴博だより No.30	能・狂言のふるさと近江	大津市歴史博物館
1997-278	秦野市立桜土手古墳展示館だより Vol.12	縄文後期小型土器	秦野市立桜土手古墳展示館
1997-279	秦野市立桜土手古墳展示館だより Vol.13	辻金具	秦野市立桜土手古墳展示館
1997-280	秦野の古代遺跡Ⅲ	太岳遺跡	秦野市立桜土手古墳展示館
1997-281	秦野の文化財 第32集	1996.3	秦野市教育委員会
1997-282	秦野の文化財 第33集	1997.3	秦野市教育委員会社会教育課
1997-283	いま博物館で 第5号	諏訪市博物館ニュース 第5号	諏訪市博物館
1997-284	いま博物館で 第7号	諏訪市博物館ニュース 第7号	諏訪市博物館
1997-285	左官(さかん)	民家を造る職人	世田谷区教育委員会生涯学習部管理課民家園係
1997-286	世田谷区立郷土資料館 資料館だより No.25	江戸の博物図譜	世田谷区立郷土資料館
1997-287	世田谷区立郷土資料館 資料館だより No.26	これはなんでしょう ばあと2	世田谷区立郷土資料館
1997-288	これはなんでしょう ばあと2	収蔵資料展	世田谷区立郷土資料館
1997-289	福田豊四郎日本画展	蓼科ゆかりの作家展(V)	茅野市美術館
1997-290	今森光彦写真展 里山	生命の小宇宙	滋賀県立琵琶湖博物館
1997-291	里山の水生生物	水族特別企画展示	滋賀県立琵琶湖博物館
1997-292	うみっこ	ビワコオオナマズ大研究	滋賀県立琵琶湖博物館「うみっこ」編集委員会
1997-293	うみんど[湖人] 創刊号	里山	藤岡康弘 他7
1997-294	うみんど[湖人] 第2号	ジオラマができるまで	藤岡康弘 他7
1997-295	博物館ができるまで	「つくる」は「みる」よりもっとたのしい	滋賀県立琵琶湖博物館
1997-296	琵琶湖博物館展示ガイド	湖と人間	滋賀県立琵琶湖博物館
1997-297	美術館だより 第5号	中川紀元	辰野美術館
1997-298	美術館だより 第6号	辰野小学校内美術館	辰野美術館
1997-299	美術館だより 第7号	開館の原点に立ちかえって	辰野美術館
1997-300	美術館だより 第8号	辰野美術館発足をめぐって	辰野美術館
1997-301	チェコ・リトアニア・日本の現代版画交流展		国際版画交流協会
1997-302	カイコの学習と飼育		小笠原英明
1997-303	惑星の観察		白尾元理
1997-304	天体写真の撮り方 I	カメラと三脚を使う撮影法	茨城孝雄 小関高明
1997-305	馬具		坂本美夫
1997-306	美術工芸品等の防災に関する調査研究		中野照男
1997-307	富樫庶流旗本坪内家一統系図並由緒(五)	各務原市資料調査報告書第21号	各務原市歴史民俗資料館
1997-308	カワネズミの谷	森の新聞6	北垣憲仁
1997-309	牛久自然観察の森事業実施報告	平成8年度	牛久自然観察の森
1997-310	葵 No.24	豊臣秀吉書状 おね宛	徳川美術館広報部
1997-311	葵 No.25	国宝 色絵雄香炉	徳川美術館広報部
1997-312	葵 No.26	国宝 宇治香箱	徳川美術館広報部
1997-313	葵 No.27	梶子連雀文堆朱盆	徳川美術館広報部
1997-314	葵 No.28	名古屋東照宮祭礼図巻	徳川美術館広報部
1997-315	富士見町博物館だより 第3号	ナウマンゾウの臼歯化石	富士見町教育委員会
1997-316	一宮市博物館博物館だより No.22	妙興寺霊宝祭	一宮市博物館
1997-317	グルーミング Vol.6-1	アミメキリン	(財)富山市ファミリーパーク公社
1997-318	グルーミング Vol.6-2	トウホクノウサギ	(財)富山市ファミリーパーク公社
1997-319	博物館だより 創刊号		島田市博物館
1997-320	考古学からみた壬申の乱	尾張古代史セミナー(1)	民俗考古調査室
1997-321	磐梯山噴火記念館だより VOL.3	くにたちの商店街づくり・町づくり	磐梯山噴火記念館
1997-322	まちの喫茶店		くにたち郷土文化館
1997-323	瑞浪市化石博物館研究報告 第23号		瑞浪市化石博物館
1997-324	地質化石館だより No.28	日本初の海牛化石が里帰り!	戸隠村地質化石館
1997-325	地質化石館だより No.29	化石の里の文化芸能祭	戸隠村地質化石館
1997-326	地質化石館だより No.30	土石流災害に思う	戸隠村地質化石館
1997-327	資料館だより 第15号	恵比寿祭	各務原市歴史民俗資料館
1997-328	自然博物館だより Vol.14 No.2		和歌山県立自然博物館
1997-329	自然博物館だより Vol.14 No.3		和歌山県立自然博物館
1997-330	自然博物館だより Vol.14 No.4		和歌山県立自然博物館
1997-331	自然博物館だより Vol.15 No.1		和歌山県立自然博物館
1997-332	自然博物館だより Vol.15 No.2		和歌山県立自然博物館
1997-333	和歌山県立自然博物館館報 第14号	平成7年度	和歌山県立自然博物館
1997-334	生きもの発見	ふるさとの生きものと遊ぶ	和歌山県立自然博物館

寄贈図書目録 1997年

受付№	書名・雑誌名	副題・特集	著者・編者
1997-335	藤村記念館だより第81号	創立50周年記念	佐々木渾了
1997-336	藤村記念館だより第82号		佐々木渾了
1997-337	藤村記念館だより第83号		佐々木渾了
1997-338	藤村記念館だより第84号		佐々木渾了
1997-339	森山美術館 Vol.7	開館40周年	(財)森山美術館
1997-340	諏訪市博物館ニュース第6号	いま博物館で	諏訪市博物館
1997-341	浜松市博物館報Ⅷ	年報平成6年度	浜松市博物館
1997-342	浜松市博物館報Ⅸ	年報平成7年度	浜松市博物館
1997-343	庶民の旅	第15回特別展図録	浜松市博物館
1997-344	所蔵考古資料撰	浜松市博物館資料集6	浜松市博物館
1997-345	浜松市博物館だより Vol.14 No.3	モノから見る年中行事ーお獅子ー	浜松市博物館
1997-346	浜松市博物館だより Vol.14 No.4	モノから見る年中行事ーお餅ー	浜松市博物館
1997-347	浜松市博物館だより Vol.15 No.1	青山家旧蔵御家中配列図について	浜松市博物館
1997-348	浜松市博物館だより Vol.15 No.2	江戸時代の絵図をみてみると	浜松市博物館
1997-349	浜松市博物館だより Vol.15 No.3	絵図と発掘調査	浜松市博物館
1997-350	浜松市博物館だより Vol.15 No.4	絵図から見た浜松城下の道と町並み	浜松市博物館
1997-351	浜松市博物館情報 第37号～第48号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館
1997-352	浜松市博物館情報 第49号～第60号	新しい博物館をめざして	浜松市博物館
1997-353	子ども科学館ニュース VOL.18	今年も盛況だった科学館フェスティバル	伊勢原市立子ども科学館
1997-354	野草で紙をつくる	シリーズ・親と子でつくる 19	相沢征雄
1997-355	北方民族博物館だより 第26号	仮面	北海道立北方民族博物館
1997-356	ハーモニー No.14	人と河川	兵庫県立人と自然の博物館
1997-357	ハーモニー No.17	人と里山	兵庫県立人と自然の博物館
1997-358	ハーモニー No.18	自然の恵み	兵庫県立人と自然の博物館
1997-359	人と自然 第7号		兵庫県立人と自然の博物館
1997-360	Nature and Human Activities 第1巻		兵庫県立人と自然の博物館
1997-361	別府大学付属博物館だより No.41	筑後川上流域の基礎調査	橘 昌信
1997-362	伊那谷の自然 第67号	伊那谷の段丘崖は生態学的回廊4	伊那谷自然友の会
1997-363	伊那谷の自然 第68号	伊那谷の段丘崖は生態学的回廊5	伊那谷自然友の会
1997-364	伊那谷の自然 第69号	伊那谷の段丘崖は生態学的回廊6	伊那谷自然友の会
1997-365	伊那谷の自然 第70号	伊那谷まるごと博物館めざして	伊那谷自然友の会
1997-366	伊那谷の自然 第71号	伊那谷に自然史博物館をつくらう	伊那谷自然友の会
1997-367	伊那谷の自然 第72号	風越山の景観と送電線	伊那谷自然友の会
1997-368	美博だより VOL.34	鉱物の輝き	飯田市美術博物館
1997-369	美博だより VOL.38	黄金の涼しい音	飯田市美術博物館
1997-370	宮城の貝塚	追跡! 海辺の縄文人	千葉県立加曽利貝塚博物館
1997-371	総社市埋蔵文化財調査年報 6	平成7年度	総社市教育委員会
1997-372	子ども科学館ニュース VOL.16	親子で夜の植物探検	伊勢原市立子ども科学館
1997-373	アサラスコープ No.342	バージェスのふしぎな動物たち	名古屋科学館
1997-374	アサラスコープ No.343	ヒトのあし	名古屋科学館
1997-375	黎明 Vol.15 No.2	鮫島白鶴筆七言律詩六曲屏風	鹿児島県歴史資料センター黎明館
1997-376	かがわ今昔	歴史へのいざない	香川県教育委員会事務局 歴史博物館建設事務局
1997-377	いしのきおく	平成8年度特別展図録	日向市文化資料館
1997-378	ふくいミュージアム No.31		福井県立博物館
1997-379	ふくいミュージアム No.30		福井県立博物館
1997-380	縄文時代の女性像	上代文化の女性像の東洋と西洋	茅野市教育委員会
1997-381	あやらぎ No.1	夏休み土笛作り教室	下関市立考古博物館
1997-382	板橋の遺跡	最新発掘ニュース	板橋区立郷土資料館
1997-383	愛媛県歴史文化博物館だより 第7号	伊予八幡の大名	愛媛県歴史文化博物館
1997-384	愛媛県歴史文化博物館だより 第8号	秋の講演会報告	愛媛県歴史文化博物館
1997-385	歴博だより 第10号	伊予の蘭学	愛媛県歴史文化博物館
1997-386	あなたと博物館 No.90	馬場家住宅開館!	松本市立博物館・日本民俗資料館
1997-387	あなたと博物館 No.91	どうしてこんな動きをするのかな?	松本市立博物館・日本民俗資料館
1997-388	郷土資料室だより No.28		厚木市教育委員会
1997-389	ひょうごの遺跡 21号	室町時代の経塚から法華経全八巻	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
1997-390	ひょうごの遺跡 22号	遺跡出土の木製品と保存処理	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
1997-391	ひょうごの遺跡 23号	活躍する支援職員の皆さん	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
1997-392	ひょうごの遺跡 24号	阪神・淡路大震災の復興と埋蔵文化財Ⅱ	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
1997-393	東京都江戸東京博物館研究報告 第2号		東京都江戸東京博物館都市歴史研究室
1997-394	東小倉遺跡	県道側溝工事に伴う工事立会調査報告書	三郷市教育委員会
1997-395	歴史博物館準備室だより Vol.4	歴史博物館建設工事着工!	香川県教育委員会事務局 歴史博物館建設事務局
1997-396	歴史博物館準備室だより Vol.5	かがわ今昔	香川県教育委員会事務局 歴史博物館建設事務局
1997-397	富士吉田市歴史民俗博物館だより No.7	富士山の絵札	富士吉田市歴史民俗博物館
1997-398	富士吉田市歴史民俗博物館だより No.8	登山道を掘る	富士吉田市歴史民俗博物館
1997-399	富士山明細図	富士吉田市歴史民俗博物館企画展図録	富士吉田市歴史民俗博物館
1997-400	Museum Works Vol.1	各地で盛況!「巡回展」	株式会社京都科学ミュージアムワークス編集室





平成18年度茅野市八ヶ岳総合博物館事業報告

1. 入館者数 4月1日から3月31日 まで 15,810人 (前年対比 2,063人増)

2. 企画展

- (1) 写真展「わがふるさと諏訪一次世代に送りたい自然と文化」 4月15日(土)～6月18日(日)
諏訪とは、どんなところでしょうか。美しい自然があり、精密工業や高冷地農業など様々な産業が発達しています。いろいろな祭もあります。「ふるさとの再発見」をテーマにやさしく展示しました。
ふるさとを見直す好機となったと思います。 入館者 4,458人

・講演会 「わがふるさと諏訪一次世代に送りたい自然と文化」 4月22日(土)

講師 信濃史学会委員長 武田安弘 参加者 30人

・撮影会 「ふるさとの風景を撮る」 6月4日(日) 参加者 9人

- (2) 特別展 「八ヶ岳のチョウたち」 7月26日(水)～10月1日(日)

信州にはたくさんのチョウたちがくらしています。なかでも八ヶ岳にくらすタカネヒカゲやミヤマシロチョウは、従来の天然記念物としての保護に加え、新たに長野県希少野生動植物保護条例でも保護されようとしています。このように保護の気運の高まるなか、長野県に生息しているチョウ約150種を八ヶ岳や霧ヶ峰を中心に、標本・写真やビデオフィルム・パネルなど様々な方法でその紹介をしました。 入館者 4,054人

・イベント チョウの舞う庭造り～バタフライガーデン～ 7月29日(土)

講師 田下昌志 (日本鱗翅学会理事) 参加者 33人

・講演会 八ヶ岳のチョウ 9月10日(日)

講師 浜 栄一 参加者 50人

・自然観察会 「ベニヒカゲ」 8月5日(土) 「アサギマダラ」 9月3日(日)

講師 福田勝男 (八ヶ岳蝶研友の会代表) 参加者 8/5 20人 9/3 23人

・展示解説 8月1日(火)、8月26日(土)

講師 館学芸員 大谷勝己 参加者 1日 8人 26日 8人

- (3) 研究・創意工夫展 (市内小中学校 研究・工作・絵画展) 1月20日(土)～2月15日(木)

入館者 717人 市内小中学校 10校参加、出品数 280点

・工作・絵画部門

○茅野市長賞 神戸広大 (玉川小学校3年) みどりの多い玉川

○教育委員会賞 原 阜月 (湖東小学校4年) 赤 岳

○博物館長賞 種市祐人 (米沢小学校6年) 牛乳ビンのフタの家

○審査員特別賞 守屋彩那 (宮川小学校5年) 小さな机といす

田中瞭馬 (玉川小学校2年) 牛とのふれ合い

早坂 匠 (湖東小学校1年) ぼくのもり

・研究部門

○茅野市長賞 篠原大地 (北部中学校3年) 環境の違いによる光合成の割合の変化

○教育委員会賞 樋口諒亮 (金沢小学校4年) プラスチックによる空気のよごれ

○博物館長賞 科学部 (長峰中学校) EMせっけんづくり

○審査員特別賞 森下智也 (永明小学校5年) 水生昆虫とパックテストによる水質検査

※研究部門の今後への発展を期し、館長・学芸員・浜篤により6人へ事後指導 2/18～

3. 文芸館企画展

- (1) 「矢崎虎夫・原天明展～水墨画と俳句がおりなす世界」 平成18年1月9日(月)～19年1月20日(土)
茅野市出身の高名な彫刻家矢崎虎夫と、NHK学園俳句講座講師で俳人の原天明の作品を加えた二人展を企画し、二人の寄せ書きの他、条幅、額、色紙、彫刻を、初公開となる作品を含めることにより多数展示しました。この展示においては、親交30数年に及ぶ二人の作品群の中から、矢崎の水墨画と原の俳句を中核に据えた心象画像世界を気軽に観て頂ける企画展となる様心がけました。

出品内容 条幅 60点 額 10点 色紙 20枚 彫刻 6点

第一期 展示	18年1月9日(月)～4月2日(日)	展示解説	1月22日(日) 参加者 58人
第二期 展示	4月8日(土)～7月2日(日)	展示解説	4月16日(日) 参加者 23人
第三期 展示	7月8日(土)～10月1日(日)	展示解説	7月16日(日) 参加者 27人
第四期 展示	10月8日(日)～平成19年1月20日(土)	展示解説	10月15日(日) 参加者 12人
・講演会	「矢崎虎夫のすべてを語る」 平成19年1月14日(日)		
講演者	原 天明 有賀敬子(矢崎虎夫次女であり、「羽化～連翔」文部大臣賞受賞作品を当博物館へ寄贈いただいた彫刻家)		

4. ふるさと講座

(1)「寒天の日」制定記念講座 毎日寒天!

- ①おやつ編 第1組 4月16日(日) 講師:食生活改善推進員 参加者 45人
- ①おやつ編 第2組 6月17日(土) 講師:食生活改善推進員 参加者 37人
- ②スタミナ料理編 第1組 7月15日(土) 講師:食生活改善推進員 参加者 37人
- ②スタミナ料理編 第2組 7月22日(土) 講師:食生活改善推進員 参加者 34人
- ③おもてなし料理編 第1組 10月15日(日) 講師:小平晴勇・食生活改善推進員 参加者 40人
- ③おもてなし料理編 第2組 10月22日(日) 講師:小平晴勇・食生活改善推進員 参加者 36人
- ④寒天工場見学とテングサから寒天を作ろう
第1組 1月21日(日) 講師:食生活改善推進員 参加者 28人
- ④寒天工場見学とテングサから寒天を作ろう
第2組 1月28日(日) 講師:食生活改善推進員 参加者 32人

(2) 中央構造線を訪ねて

- ・地形と断層の学習 6月10日(土) 講師:小池春夫(前館長) 参加者 50人
- ・現地見学 6月11日(日) 講師:小池春夫(前館長) 参加者 44人

(3) 坂本養川のせぎを訪ねて 8月27日(日) 講師:小池春夫(前館長) 参加者 20人

(4) 水環境を川虫で探る

- ・水環境と川虫(講義) 6月10日(土) 講師:茅野靖夫(館長) 参加者 8人
- ・柳川現地調査 美濃戸、下古田 6月11日(日) 講師:茅野靖夫(館長) 参加者 8人
- ・滝の湯川現地調査 城の平、湯川公民館 8月6日(日) 講師:茅野靖夫(館長) 参加者 7人

(5) 凍み大根づくり 1月14日(日) 講師:矢崎とみえ 参加者 40人



坂本養川のせぎを訪ねて



水環境を川虫で探る

5. 博物館活用指定学級

参加者 17学級 474人

9月21日	宮川小学校4年	56人『古民家と道具(古いもの調べ)』講師:茅野靖夫
9月22日	宮川小学校4年	56人『古民家と道具(古いもの調べ)』講師:大谷勝己
9月26日	泉野小学校6年	27人『縄文土器作り』講師:尖石考古館職員
9月26日	玉川小学校3年	28人『寒天博士になろう』講師:茅野靖夫
10月12日	宮川小学校4年	56人『坂本養川について』講師:茅野靖夫
10月13日	宮川小学校4年	56人『坂本養川について』講師:大谷勝己
11月9日	金沢小学校3年	25人『寒天作り』講師:長田ひろ子
11月17日	北山小学校4年	26人『博物館見学と大河原せぎ見学』講師:大谷勝己
1月23日	豊平小学校3年	36人『地域の産業～寒天作り』講師:長田ひろ子
2月23日	玉川小学校4年	108人『坂本養川について、昔の家や古い道具』講師:茅野靖夫

6. 古文書解読事業

講師:細田貴助(博物館専門委員)

- ・古文書相談会 4月22日～10月21日 参加者 6回のべ12人
- ・古文書解読講座 11月18日～12月10日 参加者 8回のべ210人

7. ミュージアムコンサート 11月23日(木)勤労感謝の日 参加者 472人

演奏者 浜まゆみ・張 愛始 楽器 マリンバ 語り 飯田美智子(読りーむi nちの)



8. 天体観測室の公開事業

- (1) 星空観望会 講師:大谷勝己
北部生涯学習センターで15回実施(天候により中止15回) 参加者 のべ155人
- (2) 天文講演会 「オーロラ舞う極北の魅力」 8月19日(土)
講師 畑 英利(飯綱町立牟礼西小学校教頭) 参加者 21人

9. ロビー体験コーナー 参加者 767人(活動発表展を除く)

4月から翌年3月まで毎月第2土・日曜日計24回 はたおり 指導:博物館ボランティア会員

4月23日(日)	押し絵こいのぼり作り	指導:博物館ボランティア会員
5月28日(日)	竹細工 ～花かご～	指導:竹松安治(茅野市宮川)
6月24日(土)	組木で干支作り	指導:中村くすみ(茅野市宮川)
7月30日(日)	七宝焼き	指導:堀米伸子(松本市)

夏休み楽しい工作週間

8/ 8	自由に木工	指導:中村くすみ(茅野市宮川)
8/ 9	まゆ人形でカブトムシ! 金魚!	指導:博物館職員
8/10	布ぞうり作り	指導:富田栄治・平沢忠由(茅野市泉野)
8/11	ネイチャークラフト	指導:岡野勇二(茅野市北山)
8/12	ミニ風力発電機	指導:美サイクル茅野(環境学習部会員)
8/13	ペットボトルロケット	指導:博物館職員
8/12～15	はたおり	指導:博物館ボランティア会員

- | | | |
|--|-----------------|---------------------|
| 9月30日(土) | 竹細工～大きなびく～ | 指導:竹松安治(茅野市宮川) |
| 10月29日(日) | つる細工～リーフ形トレ～ | 指導:両角源美(前教育長) |
| 11月19日(日) | 花炭作り | 指導:岡野勇二(茅野市北山) |
| 12月17日(日) | しめ飾り作り | 指導:富田桑治・平沢和重(茅野市泉野) |
| 1月28日(日) | ひな人形作り | 指導:博物館ボランティア会員 |
| 2月24日(土)・25日(日) | 植物や昆虫を点描で描いてみよう | 指導:茅野靖夫(博物館館長) |
| 3月3日(土) | | |
| ～4月8日(日) 博物館活動発表展 (3/25 イベントデーの入館者 189人) | | |



布ぞうり作り



ペットボトルロケット

10. 博物館ボランティア

- (1)「山浦の語りべ」 登録数 9人
地元のお年寄りから昔体験や地場産業、郷土食などを取材して、話し言葉のまま編集し冊子にするワークショップを行ってもらっている。
 - (2)「ねじばな」 登録数 33人
はたおりボランティア。糸整経から織りまでを学びあったり、博物館の体験講座ではたおりを指導する活動を行うワークショップ。
 - (3)「自然観察友の会」 登録数 33人
身近かな自然を知るというテーマで、里山を中心に自然観察会を行うワークショップ。
 - (4)「天文友の会」 登録数 7人
北部生涯学習センター(北部中学校併設)の天文観測室にある40cm大型反射望遠鏡の操作方法を勉強しながら、星雲・星団の観察などを行っている。
 - (5)「文芸ボランティア」 登録数 7人
拓本収集、文学碑探索、学習会など文芸に関する調査・研究を行っている。
 - (6)「郷土の食文化と伝統行事・昔話を楽しむ会」 登録数 6人
郷土に伝わる食や伝統行事の掘り起こしをし、気軽に食事をしながら山浦の語り部が収集した昔話を聞く会。一般にも呼びかけ参加してもらっている。
- ・くさもち 5月27日(土) 21人 ・のたもち 8月26日(土) 17人
・そば打ち体験 11月18日(土) 24人 ・赤そば打ち 12月3日(日) 23人

11. その他

- (1)協議会委員研修視察 9月21日(木)～22日(金)
視察場所 群馬県立歴史博物館・トリックアート美術館 参加委員 7人
- (2)空調機器等改修工事 9月7日(木)～11月15日(水)
冷温水発生機及び自動制御機器の交換 請負代金額 15,508,500円

博物館協議会委員名簿

<平成17・18年度>

委員長	篠原敬博	副委員長	飯田美智子
委員	丸茂伊一	委員	津久井英喜
委員	湯田坂正一	委員	両角英晴
委員	佐藤礼子	委員	五味雪子
委員	松田和正	委員	古林修
委員	仙石喜一		

八ヶ岳総合博物館専門委員名簿

<平成17・18年度>

自然(動物)	下山良平	自然(天文)	今井文明
自然(植物)	岩波均	自然(陸水)	浜篤
人文(歴史)	細田貴助	人文(民俗)	牛山市弥
人文(民俗)	牛山圭吾	人文(文芸)	篠原圓平
人文(文芸)	原充		

八ヶ岳総合博物館職員名簿

館長	茅野靖夫
係長	宮坂和登
主査(学芸員)	大谷勝己
主任	宮下りよ
臨時職員	吉田一雄
臨時職員	平尾静代
臨時職員	長田ひろ子



(堀越宏一氏提供 町田市立自由民権資料館協力)

北村透谷

明治元年(一八六八)十一月に、神奈川県小田原市に生まれ

る。本名は、門太郎。明治十六年(一八八三)東京専門学校(現早稲田大学)政治科に入学し、自由民権運動に身を投ずるが、離脱する。明治二十一年(一八八八)には、大恋愛の末石坂美那と結婚した。

藤村は、藤村の出身校でもある泰明小学校出身の透谷と明治二十五年(一八九二)に初めて明治女学校校長の巖本善治の家で会ってから、藤村は透谷に兄事した。

「恋愛は人世の秘鑰なり、恋愛ありて後人世あり」ではじまる透谷の「厭世詩家と女性」(『女学雑誌』明治二十五年(一八九二)二月六日発行 三〇三号、二月二〇日発行 三〇五号)は、「まさに大砲をぶちこまれた

藤村著『春』 (当館蔵)

明治41年刊
藤村最初の自伝的小説。この小説に登場する青木のモデルが北村透谷と言われる。



様なものであった(「福沢諭吉と北村透谷」思想上の二大恩人)「明治文学研究」一
号所載 昭和九年(一九三三)一月一日)に
尚江が語ったように藤村も大きな衝撃を受
けた。恋愛を神聖なものと言いつつ得なか
ったキリスト教的青年であった藤村や尚江に
与えた影響ははかり知れないものであった。
そして、明治二十七年(一八九四)五月十

六日の親友透谷の自殺は、藤村に衝撃を与
えた。透谷の死そのものが、藤村を文筆活動
に向かわせる出発点となったともいわれる。
藤村は、後に「文章世界」(大正元年(一九一
二)十月)に「北村透谷の短き一生」を寄せて
いる。



「女学雑誌 303号」(臨川書店復刻 国立国会図書館蔵) 明治25年発行



(株式会社中村屋提供)

相馬黒光

明治九年(一八七六)九月十二日、宮城県仙台市生まれ。本名は良(り)やう。仙台神学校で、日曜学校を開いていた鳥貫兵太夫と出会い、受洗した。当時から「アンビジャスガール」と呼ばれた。明治二十四年(一八九一)に入学した宮城女学校(現宮城学院高等学校)を退学したあと、横浜のフェリス和英女学校(現フェリス学院高等学校)に入学した。すぐに、明治二十八年(一八九五)明治女学校に再び転校して明治三十年(一八九七)に卒業した。

「黒光」のペンネームは、横溢する才気を黒で包むようにと明治女学校校長の巖本善治の命名と伝えられる。

黒光著『黙移』 (山田貞光氏蔵)

昭和11年刊
「鳥崎先生の講義ぶり」の章では、「……けれど先生は深く悶えて一時学校を退き、ところ定めぬ漂泊の旅に出たり、また頭をそり落として円覚寺山

内のお寺で法衣を着て東海道を歩いて行ったりなさったあとのことで、再びお兄様のお家の事情から教壇に立たれたのでしたから、私はそれまで友達からさいりして期待していた先生の講義に失望すると共に、「ああもう先生は燃え殻なのだもの、仕方がない」と思いました。友達もみんな鳥崎先生といえば「石炭がら」で不平を洩らしておりました。……」

黒光著『穂高高原』 (個人蔵)

昭和19年刊
「木下氏の心境」において「……殊に私などは年甲斐もなくお叱りを蒙ることがたびたびで、罵倒されることも珍しくありませんが、『あなたのような女性は手におえない、相馬君はよくこんな驕馬を馴らしてきたものだ』



こうげけけ言われることは不思議に腹の立たないものです。むしろ膿をもった腫物にプスリとメスを刺されたような激しい痛みを感じると共に、何ともいぬ痛快味をおぼえます。痛いところにはなるべくさわらないのが定石ですけど、私のようなもの場合には、時にこの荒療治が必要であります……」

明治三十年(一八九七)に尚江の学友相馬愛蔵と結婚し、長野に移り住んだ。長野で愛蔵から最初に紹介された人物が当時松本に事務所のあった代言人の尚江であった。
四年後の明治三十四年(一九〇一)夫とともに病氣療養を理由に上京し、ミルクホールを東京大学正門前に開業した。クリームパンの製造販売に成功し、新宿に本店を置く株式会社中村屋に至る。中村屋には、「中村屋サロン」と呼ばれる芸術家たちの交流の場があり、当時東京に移っていた尚江をはじめとして、荻原守衛(碌山)などが集った。黒光は、昭和三十年(一九五五)三月二日、七十九歳で亡くなった。
尚江は「病中吟」の「相馬君夫妻」のなかで、黒光女史もと詩性の女自ら求めて 田園の婦となる 観察鋭利 批評深刻 運筆を過ぎて 孫一人 然かも深所に 處女の風吹く と詠っている。

二人の社会改革

滝乃川学園

明治二十四年（一八九一）日本初の知的障害者福祉施設「滝乃川学園」が日本聖公会（キリスト教）の信徒、石井亮一によって創立された。石井亮一、筆子夫妻が打ち込んだこの学園は、幾多苦難を経て、現在国立市谷保に在る。

亮一は、慶応三年（一八六七）、佐賀水ヶ江（現佐賀県佐賀市）に生まれる。明治十七年（一八八四）立教大学入学、明治二十年（一八八七）芝聖アンデレ教会で受洗する。一方、筆子は、文久元年（一八一六）肥前大村岩船（現長崎県大村市）に生まれる。明治三十六年（一九〇三）に亮一と再婚し、両人は一緒に知的障害児教育に一生を捧げた。筆子は、昭和十二年（一九三七）六月十四日亮一が亡くなった後、戦時下の学園の運営にあたり、昭和十九年（一

九四四）召天。

亮一は、明治二十四年（一八九一）の濃尾大震災後の十二月、被災地からの孤児の受け入れのため、滝乃川学園の前身にあたる「孤女学院」を借家の仮園舎で開設する。翌年滝野川村（現東京都北区）に施設が完成し、移転する。濃尾大地震の時に預かった孤児の中に知的障害をもった女児がいたことを契機に、知的障害児教育に特に関心を寄せることに

なる。昭和九年（一九三四）には、日本精神薄弱児愛護協会が結成され、初代会長に亮一が就任する。当時厳本善治の経営する明治女学校の教師となった二十代の若き藤村が、学園に教え子とともに訪れ、勤労奉仕に汗を流し、寄付も行っていた。まぎれもないボランティア

明治三十二年三月廿四

●滝乃川孤女学園を訪ふ（下）
木下生
去廿一日春分祭の休日なるを幸に余は一友を伴て玉村に赴けり散り遊る所が吾に名残惜しきほどに非ずまじき咲き匂ふ櫻やあらんぞあこがれるに非ず吾等が目的は滝乃川なる孤女学園を訪はんと爲めにぞありける
飛鳥の山を越へ黒川の流を渡り平野の間を行くとどる所にして其處にさやかなる一掃へを見出しぬ小ききに滝乃川学園と記せるに其れぞ知りて門を入れば年何若きか一人の婦人が水汲み上げて物洗ひつゝあり彼方の垣、此方の所に麗かなる目影をたよりて掛けられたる小いさきき物戸の内なる欄に並べたる小いさきき下駄何れか先づ人の心を打たざらん一老女に導かれて主人の室に至らんぞすれば幼き子等の庭に散して居かつゝ遊ぶもあれば後に群れて掃箒を圓みつゝ何やら舞踊するあり

毎日新聞 尚江記事「滝乃川孤女学園を訪ふ（上）」

（国立国会図書館提供）

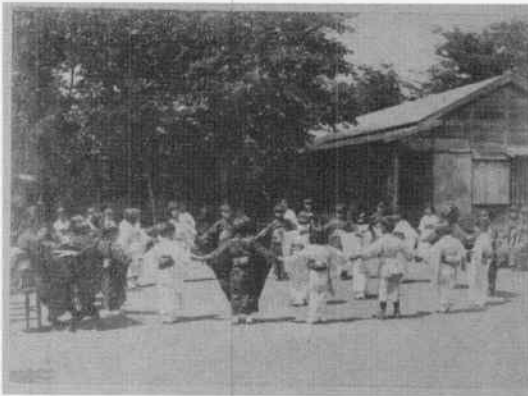
明治32年3月24日 翌25日に（下）が掲載される。



石井筆子
（滝乃川学園 石井記念文庫提供）



石井亮一
（滝乃川学園 石井記念文庫提供）



滝野川村時代の学園（室外遊戯）
（滝乃川学園 石井記念文庫提供）

明治31年ころ

活動のはしりを示す事例であり、明治三十五年（一八九二）の事であった。一方、尚江は明治三十二年（一八九九）三月二十四日から二日続きで、「毎日新聞」の記事「滝乃川孤女学園を訪ふ」木下生を載せた。（前略）年はまだ三十をいくつも越えないと思われる園主石井亮一氏の孤児院の設置目的を記す。（中略）開設の頃、濃尾地方に大地震が発生、初めて学園に来た孤女は十五人、その翌月には二十一人となり、以来入園孤児は増え続け、現在（明治三十二、三、三十四）在園するもの五十八人、この内四名は白痴者なり、（後略）近代化でも最も遅れていた至難の社会事業分野であったが、尚江は亮一の事業に対する関心を喚起、啓蒙し社会改革しようとした。

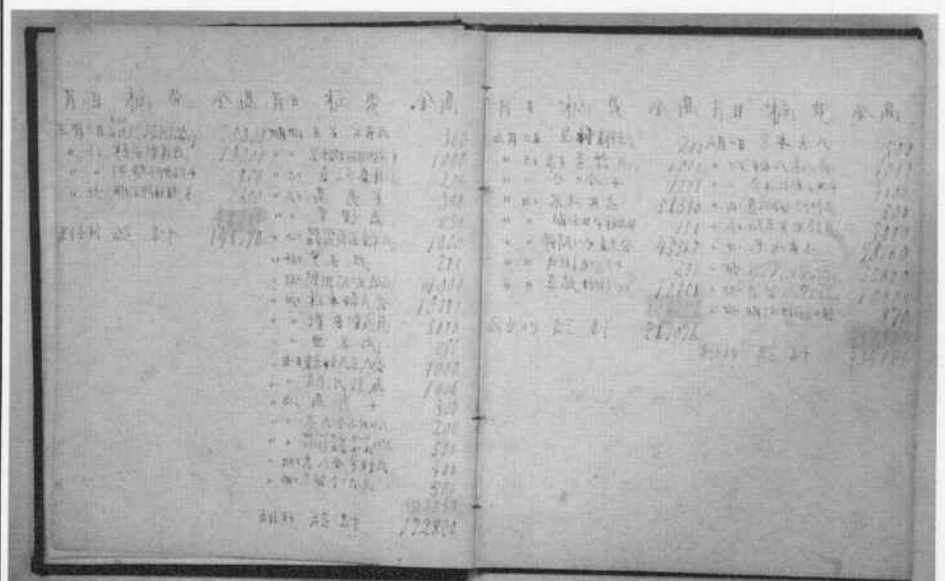


「濃尾大震災写真帖」中の高富町破壊状況

岐阜県歴史資料館提供

明治24年10月28日、美濃尾張中心に激震がおそった。マグニチュードは8.0、世界でも最大級の内陸直下型地震であった。地震は西は九州全土に、東は東北地方にまで達し、死者は全国で7,273人、全壊・焼失家屋142,000戸という大きな被害をこうむった。

各地にできた新聞社は競って震災情報を伝え、全国民の目を震災地に向けた。被害の大きさを知った国民は、医療ボランティアとして駆けつけたり、援助物資を寄せるなど、災害への連帯の輪が大きく広がった地震でもあった。



「有志寄附簿」

（滝乃川学園 石井記念文庫提供）

明治25年～31年。孤女学院への寄附者および寄附金額を石井亮一が学院創立当時から記した帳簿。島崎春樹（藤村）の名前が見える。

破戒 普通選挙運動・廃娼運動



『破戒』刊行の年 神津家の庭にて
(馬籠藤村記念館提供)

明治39年11月。右より、藤村、神津猛、田山花袋、
鮫島晋、神津てう(猛の妻)、中沢べん(てうの姪)。



藤村著『破戒』のロシア語版
(馬籠藤村記念館提供)

昭和6年刊



藤村著『破戒』
(当館蔵)
明治39年3月刊

尚江は弁舌さわやかに、普通選挙運動、禁酒・廃娼運動、非戦論、足尾鉾毒問題にと向かう姿勢は、同志とともに、常に庶民の側に立ち、鋭く激しかった。演説会の多くは、政府の監視の下で行われた。

普通選挙運動では、尚江は、明治三十年(一八九七)七月に普通選挙運動を中村太八郎らとともに松本で普通選挙期成同盟会を結成し、尚江が執筆した「普通選挙ヲ請願スルノ趣意」が頒布された。太八郎と尚江の選挙により普通選挙運動は一旦頓挫するが、明治三十二年(一八九九)に東京で普通選挙期成同盟会が再び結成される。

社会的偏見に藤村がいだいた内奥の苦悩を投影した『破戒』の出版は大きな反響を呼んだ。この作品の出現は、わが国自然主義文学の出発点となり、同時に藤村は詩人から本格的な散文作家へと転身した。

平民新聞の第三十八号明治三十七年(一九〇四)七月三十一日付で、尚江は、「詩人島崎藤村君亦ここに坐して常に詩神に接す、藤村君令室を携へて北海道に赴いて在らず、余独り之を遺憾となす、聞く君の腹中既に一個小説の長篇結構成れりと、篇中新平民の境遇に満腔の同情を寄するものあり、数々新平民を歴訪して実地の研究を試みしと云ふ、其の粹成りて市に上るの日は、必ず我が文界に一新異彩を放つならん」と「小諸より」と言う題で『破戒』の予告をしている。



島田三郎・木下尚江著『廃娼之急務』
(山田貞光氏蔵)
明治33年刊
共著だが、本文は全て尚江の執筆といわれる。



尚江自筆原稿
「自由党の『存娼』運動(一)」
(木下家蔵)
明治33年7月14日
毎日新聞所載とある。



「石川半山・木下尚江他」
(木下家提供)

上段右が半山、下段右が尚江。半山は、明治27年長野松本の「新府日報」の主筆を勤め、島田三郎の毎日新聞などの記者も勤める。

〇「破戒」

島崎藤村君の小説『破戒』出でぬ。彼は日本の民心を内部より噛み破りつつある人種的僻見「穢多」に向て其彩筆を揮ひたり。彼は之を市に出だす迄に二年を費やしぬ、吾人は著者の着眼と用意と著作其物と總て真摯健實なることを感謝すると同時に、其の民心に反響する効果の大ならんことを祈らざるべからず。

尚江著 新紀元第7号『破戒』の評
(山田貞光氏蔵)

明治39年5月10日発行

島田三郎



(国立国会図書館のホームページ画面から転載)

嘉永五年(一五八二)江戸に生まれる。昌平坂学問所、沼津兵学校、大学南校、大蔵省附属英学校で学び、明治七年(一八七四)横浜毎日新聞に入社し、後に主宰する。

明治十四年(一八八一)東京横浜毎日新聞社に入社。明治二十三年(一八九〇)第一回総選挙で衆議院議員に当選、以後連続十四回当選する。自由民権論を主張し、立憲改進黨創設に参加した。大正四年(一九一五)衆議院議長。毎日新聞社長として、廃娼運動、足尾鉾毒事件を取り上げるなどジャーナリストとしても知られている。大正十二年(一九二三)に没した。

キリスト教社会改革者として尚江の理解者であり同志でもあったが、立場を異にする場面も多かった。明治三十三年(一九〇〇)の選挙法改正の際、島田三郎は普通選挙時期尚早としていたが、尚江は雑誌や演説会で普通選挙を民主主義の「兵器」と位置づけ盛んに主張した。日露戦争に絶対非戦論を唱える尚江に対し、島田は自衛を理由に善戦論に変わった。

火の柱 良人の自白



尚江著 『Pillar of Fire』
(松本市歴史の里蔵)
昭和47年刊「火の柱」の英語版



尚江著 『良人の自白』
(松本市歴史の里蔵)
明治37年刊



尚江著 『火の柱』
(松本市歴史の里蔵)
明治37年刊

日井吉見
安曇野
第一部

日井吉見著
『安曇野』
(個人蔵)

第1部昭和40年刊 昭和39年から10年かけて「中央公論」や「展望」に連載された明治後期から昭和にかけての近代日本を安曇野を舞台に描いた大河小説。木下尚江や相馬愛蔵・黒光夫妻、萩原守衛などが登場する。尚江が、萩原守衛に「藤村に負けたのかなんとか…」と聞かれ、『うたたね』を読んで「どうてい藤村にやかなわないと観念したよ」と答えるシーンがある。

『火の柱』は、当時の非戦論の代表的作品である。短編を、日露戦争のさなか明治三十七年（一九〇四）一月一日から三月二十日までの間で、毎日新聞に連載した。

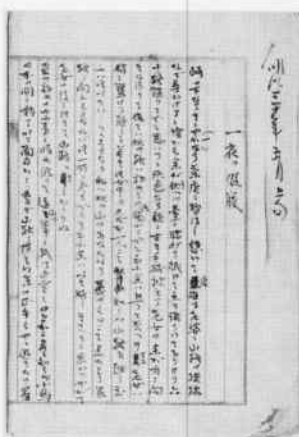
キリスト教社会主義の新聞記者が主人公。題名の『火の柱』は、旧約聖書 出エジプト記十三章十七・二十二の「主は彼らに先立つて進み、昼は雲の柱をもつて導き、夜は火の柱をもつて彼らを照らされたので、彼らは昼も夜も行進することができた。昼は雲の柱が、夜は火の柱が、民の先頭を離れることはなかった」からとったと考えられる。

『良人の自白』は、上編 下編 続編とある。非戦論の第二弾とも言えるべき作品。いずれも毎日新聞に掲載された。続編は「新曙光」という原題で掲載された。フランス文学者吉江喬松（孤雁）の父と生家がモデルとなっている。

明治四十三年（一九一〇）九月三日、『火の柱』『良人の自白』とも発売禁止となった。

藤村の処女小説『うたたね』は、明治三十年（一八九七）十一月五日の作品。言文一致体を用いた。森鷗外に酷評された作品で世間に反響をよばなかったが、文体から小山内薫は新鮮なものをうけたという。厭戦的な内容の短編小説である。

『うたたね』と『一夜の仮寝』



尚江自筆原稿
『一夜の仮寝』
(早稲田大学文学学術院提供)
明治30年5月上旬



藤村著
『うたたね』新小説第2年第12巻
(馬籠藤村記念館蔵)
明治34年11月刊

尚江の短編小説『一夜の仮寝』は、明治三十年（一八九七）五月執筆の未発表作品。柳田泉によって発掘される。尚江が普選運動の準備中のさびといえる（昭和三十年（一九五五）七月、岩波書店「文学」、柳田泉）。戦争に生活をうちひしがれた民衆のなげきを描いた作品。

藤村の処女小説『うたたね』は、明治三十年（一八九七）十一月五日の作品。言文一致体を用いた。森鷗外に酷評された作品で世間に反響をよばなかったが、文体から小山内薫は新鮮なものをうけたという。厭戦的な内容の短編小説である。

『うたたね』は島崎藤村の小説に於ける初作なるが、通篇一種の異形を放てるが如きの観ありて、描き出された人物の性格、それぞれ見るべきあり。新体詩に於ける藤村、今やまた小説に於いて妙手腕を振はんとする。吾人は君によりて、今の寂寥なる小説界をにぎはし、ここに一霊光を映じ来るあらんことを望むものなり。」

幸徳秋水と木下尚江



幸徳秋水
(四万十市立図書館提供)

明治四年(一八七二)九月二十三日、高知県幡多郡中村町(現四万十市)に生まれる。九歳にして漢文を習得し、自由民権を論じていたといわれる。中学校中退の後、上京、林有造の書生となり自由民権運動に参加した。中江兆民に師事し、「自由新聞」などで、豊富な漢籍の知識を持った文章力で記者としてその地位を確立していった。中江兆民からの影響を受けた自由・平

等・博愛の精神に則って、明治官僚国家を痛烈に批判し、日露戦争には内村鑑三、堺利彦らとともに「非戦論」の立場を貫き、秋水は「万朝報」を退社し、堺利彦や尚江たちと「平民新聞」で活躍した。

明治三十八年(一九〇五)年の渡米後は、ロシア第一革命の影響を受け、議會主義の立場を離れ、無政府主義の「直接行動」を唱えた。明治三十四年(一九〇一)に発行された秋水の著作「廿世紀之怪物帝國主義」には、反帝國主義・非戦論がまとめられる。明治四十三年(一九一〇)六月一日「大逆事件」に連座して捕られた秋水は、明治四十四年(一九一〇)一月二十四日、処刑される。また、それまでキリスト教の影響が強かった日本の社会主義運動に対し、『基督抹殺論』を執筆した。秋水の刑死の後に発行されたこの書は、科学的・戦闘的社會主義の確立を唱えたキリスト教批判の書である。

尚江は、明治三十三年(一九〇〇)に石川半山宅で始めて秋水に会う。その後、秋水、安部磯雄などと明治三十四(一九〇一)年五月十八日に「社会民主党」を結成するが、二十日には結社禁止命令が出された。二人は、「幸徳の筆、尚江の舌」と称されるほどであった。尚江は、晩年の昭和八年(一九三三)に「幸徳秋水と僕」を発表し、翌年「神・人間・自由」に収録した。この中で尚江は、「基督抹殺論を読む」が尚江人生最後の演説だったことを告白している。また、秋水から尚江は、「木下。君、どうぞ神を捨てて呉れ。君が神を捨ててさへ呉れば、僕は甘んじて君の靴のひもを解く。」と言われたことを『神の解放』(昭和八年(一九三三))に述べている。

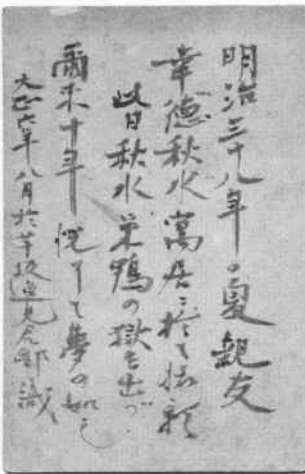
非軍備論

魏鶴生

△平和を主張するの概
昔し帝國主義にして天下の大勢なり、若し戰事にして實今の必要あらば、平和も亦た萬民の要求なり、開戦を主張して意氣既に滿洲を蹂躪は諸君の自由なり、故に諸君は又た吾人の非戰論を妨害する權利を有せず、由來戰爭主義は愛國主義と提携す、吾人は一毫も愛國者の聲譽を要求するものに非ざるなり、然れども世には往々政權を以て平和主義を標榜せんとする武斷者流なきに非ず、軍備撤去のとは言ふに及ばず、軍備縮小の論をさへ、治安妨害の故を以て之を鎮壓せざるもの現に在り、此の如き秋風邪解の思を以て他に轉じ、世に危殆ならずや、而して我日本國民は即ち是れなり、

毎日新聞 尚江記事「非軍備論」
(国立国会図書館蔵)

明治36年5月19日



木下尚江 写真
(木下家蔵)
明治38年7月28日 幸徳の出獄を迎えた。左は、裏書き。



「社会民主党の創立発起人」の写真
(法政大学大原社会問題研究所蔵)

明治34年5月 前列左から安部磯雄、幸徳秋水、片山潜、後列左から河上清、尚江、西川光二郎



「新紀元 創刊号」
(国立国会図書館蔵)

明治38年11月10日 新紀元が刊行される。尚江は、巻頭で「日本国民の使命」と「目前の二大急務」の2本の論文を掲載した。二大急務は、「万国平和會議の提唱」と「普通選挙の実施」であった。全13号。

田中正造と足尾鉾毒事件



毎日新聞 尚江記事「足尾鉾毒問題 (2)」 (国立国会図書館提供)
明治33年3月7日



田中正造と尚江 (木下家提供)
明治43年 中央が尚江。その右が田中正造。



田中正造 (木下家提供)



田中正造が尚江に贈った扇面 (木下家蔵)

明治42年7月
「妻を叱るものは
即ち其妻に叱らるる人ならん」



田中正造 自筆額 (木下家蔵)
「至誠」

天保十二年(一八四一)十一月三日
に栃木県小中村(現佐野市)で、旗本六
角家の名主の家に生まれる。名主の正造
は、明治十二年(一八七九)には、「栃木
新聞」の編集長となる。明治十三年(一
八八〇)に補欠選挙で栃木県議会に当
選し、議員として、自由民権運動を進め
た。

明治二十三年(一八九〇)の第一回総
選挙で衆議院議員に当選すると、渡良
瀬川沿いの人々の農作物や魚類に大きな
被害を与えていた足尾銅山の鉾毒問題
を繰り返し国会でとりあげた。しかし、
国の政策は変わらず、国会議員を辞職
し、明治三十四年(一九〇一)十二月十
日、天皇に直訴した。この直訴文の執筆
は幸徳秋水が行い、正造が加筆修正し
た。

その後正造は、谷中村の土地買収と遊
水地化を止めようと、谷中村に住み、残
留した農民とともに強制破壊された村
の再建に取り組んだが、大正二年(一九
一三)九月四日に七十一歳で亡くなっ
た。遺品の信玄袋には、河川視察記の草
稿と新約全書、鼻紙数枚、集めた川海
苔、小石三個、日記三冊、帝国憲法とマ
タイ伝の合本が入っていた。

尚江は、明治三十三年(一九〇〇)三
月に正造と毎日新聞社で面会し、すぐ
に足尾に特派員として現地取材を行い、
毎日新聞に「足尾鉾毒問題」などの関連
記事を二十日間にあたり多数発表し
た。尚江は看護した田中正造の死を看
取るまで、鉾毒問題に関する演説、執筆
から正造の秘書的な活動にいたるまで終
始正造を援護した。尚江の正造について
の著書には、大正十年(一九二一)刊の
『田中正造翁』、昭和三年(一九二八)刊
の『田中正造の生涯』がある。後書では正
造の絶筆に筆を入れ、「悪魔を退くる力
なきは、其身も亦悪魔なれば也。己に業
に其身悪魔にして、悪魔を退けんは難
し。茲に於て懺悔洗禮を要す。」と記し
た。

キリスト教文学

藤村と尚江が並んだ近代日
本キリスト教文学全集(教文
館)の帯(三好行雄著)には、
思想であり、いわば(近代)の
明治初頭に、日本で東西両
異質文明が出会ったことに注
目し、「キリスト教はその実質
としての魂にかかわる課題を
熱く駆け抜けていった。」



尚江著『荒野』
(山田貞光氏蔵)
明治42年刊



尚江著『懺悔』
(松本市歴史の里
蔵)
明治39年刊



藤村著『桜の海の
熱する時』
(馬籠藤村記念館
蔵)
大正8年刊 藤村の明
治学院での学生生活
が生々描かれている。

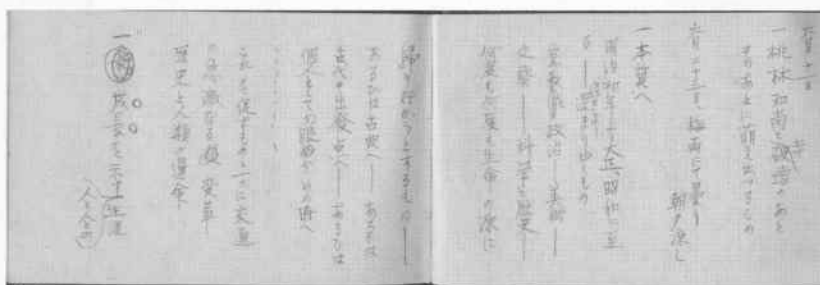
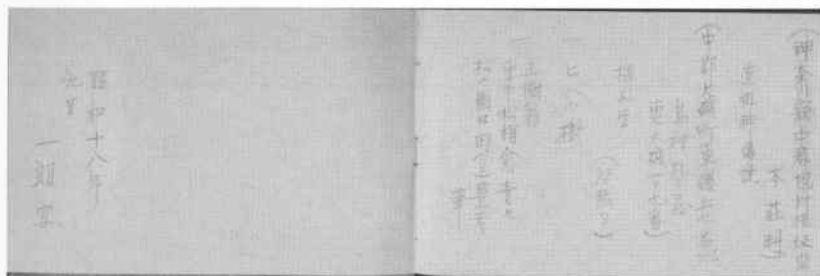


近代日本キリス
ト教文学全集
3巻 (個人蔵)
昭和50年刊 木下
尚江『火の柱』
島崎藤村『桜の海
の熱する時』の2作
が収録されている。

夜明け前・東方の門



藤村著『夜明け前』
(当館蔵)
昭和7年第一部刊



「雑記帳」

(当館蔵)

藤村の晩年の創作ノート2冊を昭和18年に藤村の甥の一郎が写したものを。

(上) 最後のページに「一郎写」とある。

(下) 「一本質へ…」と東方の門の創作メモが写されている

「木曾路はすべて山の中である」で始まる『夜明け前』は昭和四年(一九二九)から昭和十年(一九三五)まで「中央公論」に足かけ七年に連載された。激動の江戸後期の嘉永六年(一八五三)から明治中期までの歴史と木曾の自然、そして馬籠に生きる人々を描いた。藤村の父正樹をモデルにした主人公青山半蔵の復古的精神は新時代の動きに合わず、半蔵は苦悩のはてに狂死する。

藤田一士は『夜明け前』小編(藤村全集月報)昭和四十一年(一九六六)九月)の中で「この長大な小説は、藤村文学のなかに屹立する傑作であるばかりでなく、近代日本文学全体のなかでも五指に数うべき重要な傑作である」と記している。

また、吉田精一の『夜明け前』(国文学解釈と鑑賞)昭和三十三年(一九五八)三月号によれば『夜明け前』のめざすところは藤村の視点で日本の近代史批判を書くこと。もう一つは藤村という一人の作家の実父の生涯に共感をこめた回想を書くことであつた」とされる。

藤村は、昭和十八年(一九四三)に『東方の門』の連載を始め、第二章までが中央公論より発表された。絶筆。

島崎正樹

藤村の父。教部省考証課御雇の後、水無神社宮司をした。明治十九年(一八八六)没。藤村に「千字文」など自作の手習帳で教えた。藤村は、父正樹をモデルにその生涯を描く構成で『夜明け前』を書いた。宮地正人氏は、「明治維新の平



「島崎正樹」
(馬籠藤村記念館提供)

明治10年頃
右が正樹

田国学『夜明け前』の世界の平田国学の中で島崎正樹の書簡類を紹介しながら「南信・東濃地域は幕末期では平田国学の最大の拠点となっていた。青山半蔵が「草莽の国学」の典型となるのは、歴史的にもまったく正しいことなのである。」と書いている。



「島崎家訓」
(馬籠藤村記念館蔵)

明治18年
正樹自筆

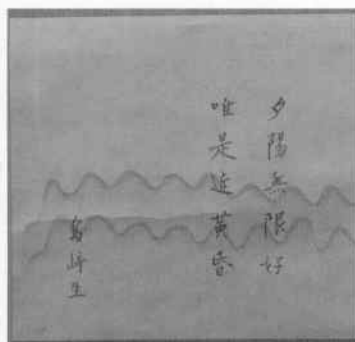
処女地と島崎静子

「処女地」は、藤村の後援した婦人雑誌。「わたしたちの周囲にある空気は重い。窓を放て。自由な空気をそそぎ入れよ。」ロマン・ローランの言葉を巻頭に掲げた、女性により女性中心の教養誌。その中心になった一人に昭和三年(一九二八)に藤村夫人となった加藤静子もいた。

「処女地」 第一号

(当館蔵)

大正11年創刊
翌年10号で終
巻した。



藤村 自筆掛物(当館蔵)
「夕陽無限好 唯是追黄昏」

右の「明月」とともに、藤村と静子夫人が結婚時に交わした言葉を書いたものと伝えられる。



島崎静子 自筆掛物
(当館蔵)

「明月」

岡田虎二郎と静坐

明治五年（一八七二）に愛知県渥美郡田原町に生まれる。幼少期は虚弱体質で、最終学歴は、第二高等小学校補習科卒業。青年期は、「ひたすら見つめ観察する」という独特の方法で農業に打ち込み、その後人間教育へと視点が移っていく。

明治三十四年（一九〇一）單身渡米し、語学を学ぶ。ヨーロッパ経由で明治三十八年（一九〇五）帰国。翌年三月の長女誕生数日後に離婚する。物質的に生きる商家の山本家と霊的に生きる虎二郎とのギャップによるともいわれる。明治三十九年（一九〇六）、山梨県の内藤分



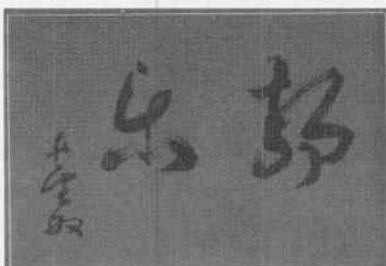
岡田虎二郎
(木下家提供)

者となつてゐる。明治四十四年（一九一）に、尚江は「岡田さんの静坐は、つまり此の混濁迷乱の世に「道」を自知させる善巧方便だ」と「実業之日本」に書いている。

次郎宅に寄宿し、山中で黙坐し、さらに、東京の兄藤十郎宅また上野の松井宅にてひたすら静坐日々を送る。

明治四十年（一九〇七）ころ、難病の青年や発狂した青年を治したこと、静坐会場には、多くの人が押しかけるようになった。明治四十三年（一九一〇）に田原正坐会が発足。尚江や田中正造、相馬黒光など多くの知識人たちも、虎二郎の静坐会に来るようになった。尚江は虎二郎を「これこそ我が師」と仰いだ。また、正造は「岡田式神呼吸」と評し、虎二郎を聖人化している。

明治四十五年（一九一二）に『岡田式静坐法』が出版されたが、大正九年（一九二〇）十月十四日、四十九歳で急死した。尚江は、虎二郎没後、静坐会の後継者となつてゐる。明治四十四



岡田虎二郎 額
(木下家蔵)
「静坐」と印刷してある。



『岡田式静坐法』
(山田貞光氏蔵)
明治45年刊 尚江の「余が思想の一大転化は静坐の賜り也」が掲載されている。

日蓮論

明治四十三年（一九一〇）仏教に傾倒した尚江は、宗教改革者として日蓮を描こうとした。そして、『日蓮論』に続き、尚江は『宗教改革論』を予告したが、発行されることはなかった。明治四十四年（一九一）に『法然と親鸞』が刊行される。



尚江著『日蓮論』
(山田貞光氏蔵)
明治43年刊

『藤村いろは歌留多』（復刻版） (当館蔵)

昭和2年刊
岡本一平画
「いろはかるた 版權解放の阻止 この金は貧者へ」と近代文学館所蔵の「夜明け前」ノートにメモが残る。



共通する宗教観

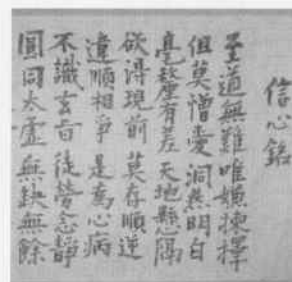
二十歳代でキリスト教プロテスタントの洗礼を受けた二人であったが、壮年期以降に仏教の奥義に近づいた。

伊東博士は晩年「藤村が晩年、『しづかにもえる』という『静思』に込めた信仰は、キリスト教、仏教のような特定の宗教、既存の宗教を超えた大いなる存在。即ち『霊』に行きついた」と語っていた。

尚江は、晩年に写経にうちこみ、正坐にはげみ、『日蓮論』『法然と親鸞』など執筆し

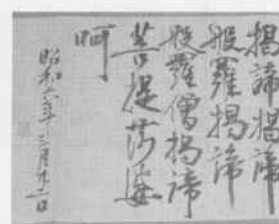
た。尚江の信仰については、全集第八巻の解説中で鈴木範久氏が「仏教とかキリスト教とか正坐とかの相異を超え、いかなる此世の束縛から解放された自由な世界こそ、尚江の求めた心の王国であったのではないか。」と述べている。この世界も『霊的』と言い換えることができるかもしれない。

藤村も尚江も近代化を急ぐ日本のなかで、苦悩し「明治の覚り」とも言うべき宗教観を自ら得たのだろうか。



尚江 「写経」
(当館蔵)

昭和7年「信心銘」が写経されている。



尚江 「写経」
(木下家蔵)

昭和6年「般若波羅蜜多心經」が写経されている。

二人の晩節



木下尚江 (木下家提供)
昭和11年12月9日 西ヶ原の自宅にて。



尚江著 『神・人間・自由』
(松本市歴史の里蔵)

昭和9年刊「神の解放」「幸徳秋水と僕」「政治の破産者 田中正造」「自由の使徒 島田三郎」「文学の未だ無かった早稲田」など12編からなる。



尚江 自筆掛物 (木下家蔵)
昭和12年元旦「上善如水」と揮毫されている。



島崎藤村 (馬籠藤村記念館提供)
昭和7年 麻布飯倉片町の自宅にて。

ペンクラブと戦陣訓

六十三歳の藤村は、昭和十年(一九三五)に日本ペンクラブの会長に就任した。

その後、藤村は、昭和十六年(一九四一)に発行される「戦陣訓」の校閲に関わることになる。また、昭和十七年(一九四二)十一月三日に開催された「大東亜文学者大会」にて「聖寿万歳」を壇上にて三唱している。

これは、結成間もない日本ペンクラブの存続を図るため会長の立場で、苦渋の選択をしたと考えられる。また、昭和四年(一九二九)には、藤村の三男藤助が日本プロレタリア美術家同盟の地方移動展に参加し、盛岡署に留置されたことなども影響があったと考えられる。

息子正造への葉書

尚江は、晩年の昭和十二年(一九三七)早稲田大学を卒業し働く正造へ毎日葉書を出した。
左上は、三月二十五日のもの。
右下は五月十四日の早稲田大学から卒業証書が届いたときのもの。左下は、六月十五日のもので、帽子をつけた男の絵が添えられている。



(木下家蔵)



『勅語勅諭集』
(個人蔵)

昭和18年2月20日刊



『国民歌謡選集』
(個人蔵)

昭和12年6月10日刊
全16曲中に藤村作詞「椰子の実」「朝」の2曲が入っている。その他「日本よい国」「祖国の柱」などが収録されている。

●協力者一覧(敬称略・50音順)

本書作成及び特別展開催にあたり、下記の関係者ならびに関係機関の皆様のご協力ご指導を賜った。

(個人)

伊東くに・井出孫六・木下雅雄・腰原哲朗・増田かな・堀越宏一・山田貞光

(機関)

財団法人岐阜県教育文化財団歴史資料館・国立国会図書館・四万十市立図書館・信越放送株式会社・社会福祉法人滝乃川学園・東洋大学・株式会社中村屋・法政大学大原社会問題研究所・財団法人馬籠藤村記念館・町田市立自由民権資料館・日本基督教団松本教会・松本市立博物館・松本市歴史の里・株式会社臨川書店・早稲田大学中央図書館・早稲田大学文学学術院

信望愛

●主な引用参考文献

筑摩書房「新装版 藤村全集」全巻 昭和48年
教文館「木下尚江全集」全巻 平成2年

文学 第23巻第7号 昭和30年

国文学 解釈と鑑賞 島崎藤村 昭和33年

信濃教育 第887号 特集木下尚江 昭和35年

山極圭司「評伝 木下尚江」昭和52年

研究社 現代英語教育 第19巻第3号 昭和57年

信州白樺 56号 木下尚江特集 昭和58年

伊東一夫・青木正美「島崎藤村コレクション」平成10年

馬籠藤村記念館「図録 島崎藤村」平成12年

栃木県立博物館・佐野郷土博物館

「田中正造とその時代」平成13年

大村市・石井筆子顕彰事業実行委員会

「石井筆子の生涯」平成14年

清水靖久「野生の信徒 木下尚江」平成14年

村瀬裕也「東洋の平和思想」平成15年

国立歴史民俗博物館「明治維新と平田国学」平成16年



大正3年 右より、みさ子、正造、尚江、純枝

(木下家提供)



大正5年7月 フランスより帰国して 東京芝二本榎の島崎広助(次兄)宅にて。右より、藤村、鶏二、楠雄、島崎やよ(広助の義母)、重樹(広助の長男)、権藤誠子(藤村の弟子)、島崎こま子(広助の次女)

(馬籠藤村記念館提供)

例言

◇本書は、茅野市ハヶ嶽麓文芸館が主催した平成18年度文芸特別展「島崎藤村と木下尚江 ―伊東一夫博士からの伝言―」の展示会図録である。

◇本書中の年齢は、満年齢を採用した。

◇本文の執筆は、吉田一雄(茅野市ハヶ嶽麓文芸館)が行い、キャプションなどに大谷勝己(茅野市ハヶ嶽総合博物館)の協力を得た。

◇本書の編集は、吉田一雄と大谷勝己が共同で行った。

平成18年度 文芸特別展

島崎藤村と木下尚江

―伊東一夫博士からの伝言―

■期間 平成19年3月27日(火)～6月24日(日)

■会場 茅野市ハヶ嶽麓文芸館
(茅野市ハヶ嶽総合博物館に併設)

■講演会「島崎藤村と木下尚江」
日時 平成19年5月4日(金)午後1時30分～
講師 井出孫六・腰原哲朗・山田貞光
(敬称略・50音順)

■展示解説
日時 平成19年4月15日(日)・6月17日(日)
午前10時～と午後2時～の2回

■発行日 平成19年3月27日

■編集／発行 茅野市ハヶ嶽麓文芸館
茅野市ハヶ嶽総合博物館
長野県茅野市豊平6983番地
電話 0266-73-0300

■印刷 永明社印刷所

参考文献（追加）

27	『瀧乃川学園 矢川だより 第83号』				平成19年刊
26	『石井亮一と瀧乃川学園』	石井亮一没後五十周年			昭和61年刊
25	『福祉に生きる 石井亮一』	津曲裕次著	大空社		平成14年刊
24	『福祉に生きる 石井筆子』	津曲裕次著	大空社		平成18年刊
23	『無名の人 石井筆子』	一番ヶ瀬康子著・津曲裕次・河尾豊司編	ドメス出版		平成17年刊
22	『穂高原』	相馬黒光著	栗田書店		昭和19年刊
21	『黙移』	相馬黒光著	栗田書店		昭和11年刊
20	『新紀元 第7号』				明治39年刊
19	『木下尚江顕彰碑建立記念誌』	木下尚江顕彰会			昭和53年刊
18	『信州の東京』	長野県人会連合会			平成17年刊
17	『生誕120周年記念 木下尚江資料展示目録』				平成元年刊
16	『深志人物誌』	松本深志高校同窓会			昭和62年刊
15	『女学雑誌 第303号』	女学雑誌社			明治25年刊
14	『信州白樺 23号』特集 藤村				昭和51年刊
13	『島崎藤村と佐久』	佐久教育会藤村研究委員会			昭和53年刊
12	『ひとすじのみち―島崎藤村とともに―』	島崎静子著	明治書院		昭和44年刊
11	『藤村記念館文庫目録』	藤村記念郷 島崎緑二			昭和57年刊
10	『藤村文学への新しい視座』	東栄蔵著	信州白樺		昭和59年刊
9	『東方の門』	藤一也著	沖積舎		平成11年刊
8	『藤村の生涯 作品と芸術』	足立勇著	星文社		昭和29年刊
7	『島崎藤村論』	鈴木昭一著	桜楓社		昭和54年刊
6	『島崎藤村論』	三好行雄著	筑摩書房		昭和59年刊
5	『島崎藤村 詩と美術』	腰原哲朗著	木苑書館		昭和52年刊
4	『藤村記念館五十年史』	財団法人藤村記念郷			平成9年刊
3	『近代日本キリスト教文学全集 3』 「木下尚江―火の柱」 「島崎藤村―桜の実の熟する時」		教文館		昭和50年刊
2	『島崎藤村』全3巻	田中富次郎著	桜楓社		昭和52年刊
1	『安曇野』第1部	白井吉見著	筑摩書房著		昭和49年刊

展 示 目 録

29	馬籠と恵那山	藤村は、明治5年に木曾の馬籠に生まれた。（現中津川市）		馬籠藤村記念館提供
28	判決正本の送達状	上諏訪町 木下尚江宛	明治30年3月13日付	松本市歴史の里蔵
27	『玉川学校教育百年の歩み』	茅野市立玉川小学校「玉川学校教育百年の歩み」編集委員会編	昭和48年11月8日	当館蔵
26	藤村講演引受けの返事		大正6年10月15日	個人蔵
25	当時の代言人の服装			松本市歴史の里蔵
24	写真 尚江代言人時代			木下家
23	写真 藤村記念講演	諏訪郡玉川村（現茅野市）の玉川小学校の講堂で講演会が開催された。聴衆は200人、演題は「学問の精神」であった。木曾福島の代官山村藤門の事績を主に、1時間半ほど講演した。写真は馬上左から藤村、鶏二、楠雄	大正6年10月23日	馬籠藤村記念館提供
22	尚江愛用品 新約聖書	昭和11年に尚江の妻みさ子が亡くなった際に尚江が配布したもの。		松本市歴史の里蔵
21	尚江愛用品 筆			木下家蔵
20	尚江愛用品 硯			木下家蔵
19	尚江愛用品 眼鏡			木下家蔵
18	年賀状	藤村筆	大正13年1月元日	個人蔵
17	藤村愛用品 筆			馬籠藤村記念館蔵
16	藤村愛用品 新約聖書			馬籠藤村記念館蔵
15	写真 藤村自筆掛物			馬籠藤村記念館写真提供
14	写真 木下尚江			木下家提供
13	写真 島崎藤村			馬籠藤村記念館提供
12	色紙	長谷川（島崎）こま子筆		当館蔵
11	写真 数珠	藤村がこま子に贈った数珠		当館蔵
10	『島崎藤村コレクション 第4巻 肉筆原稿で読む島崎藤村』	伊東一夫・青木正美編 国書刊行会発行	平成10年12月10日	当館蔵
9	『島崎藤村コレクション 第1巻 写真と書簡による藤村伝』	伊東一夫・青木正美著 国書刊行会発行	平成10年8月22日	当館蔵
8	『島崎藤村コレクション 第3巻 藤村をめぐる女性たち』	伊東一夫著 国書刊行会発行	平成10年11月8日	当館蔵
7	故伊東一夫博士原稿	『島崎藤村コレクション 第3巻 藤村をめぐる女性たち』のもの		当館蔵
6	故伊東一夫博士愛用品 旧約全書			当館蔵
5	故伊東一夫博士愛用品 時計			当館蔵
4	故伊東一夫博士愛用品 眼鏡			当館蔵
3	島崎藤村書簡	伊東章雄宛 島崎藤村 大正14年1月28日付の朝日新聞に掲載の「春を待ちつつ」からの抜粋が書かれている。	昭和6年1月6日	当館蔵
2	島崎藤村書簡	伊東が旧制諏訪中学校生のとき、藤村に弟子入りを願う書簡を送った。書簡とともに藤村からの返信に励まされ、伊東は藤村研究に生涯を捧げることになった。	昭和6年 伊東一夫宛	当館蔵
1	写真 故伊東一夫文学博士			当館蔵

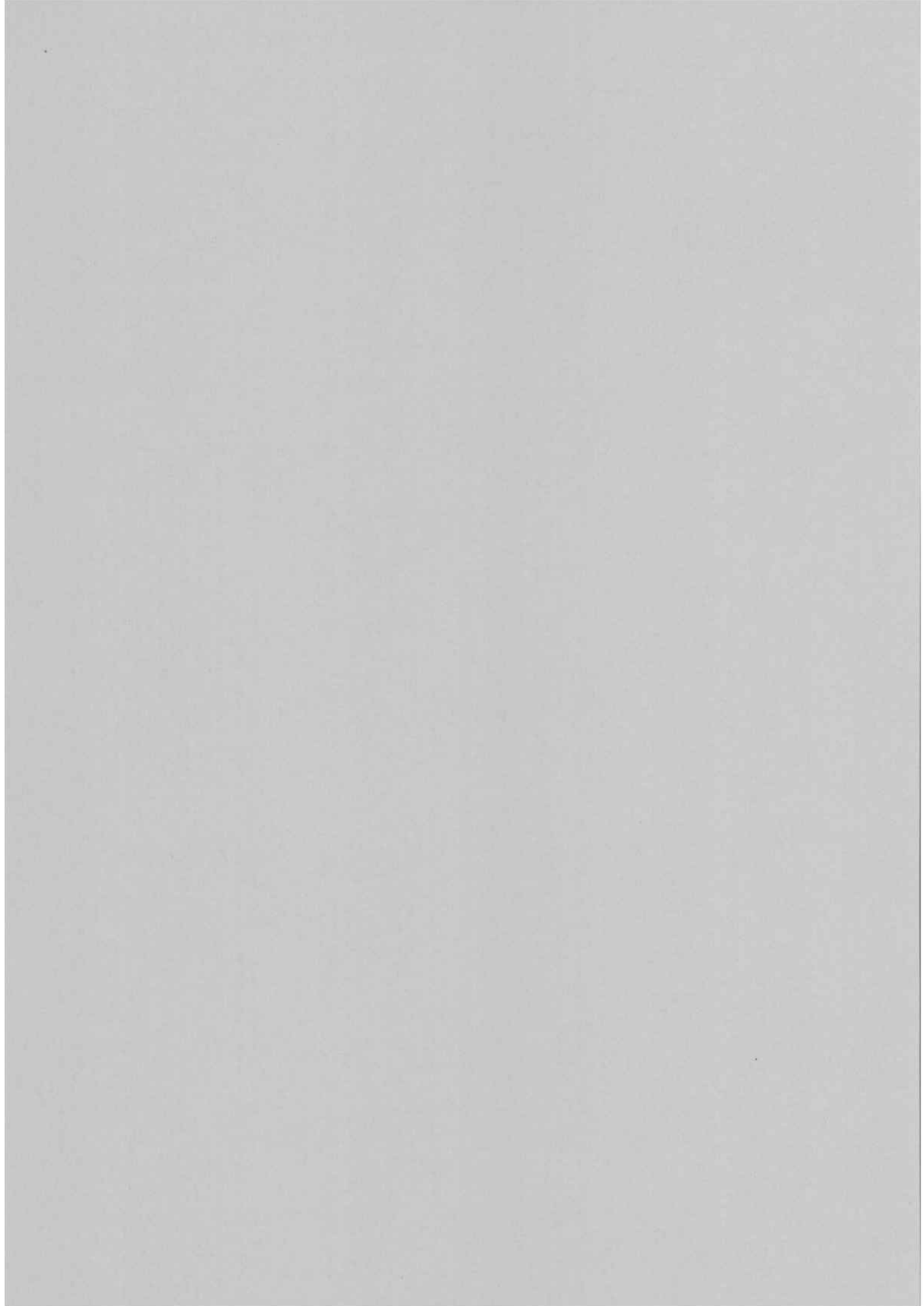
30	写真 新茶屋の碑「是より北木曾路 藤村老人」	昭和32年ふるさと友の会により建立。	藤村自筆昭和15年揮毫	馬籠藤村記念館提供
31	写真 馬籠藤村記念館前にある看板	血につながるふるさと心につながるふるさと言葉につながるふるさと		馬籠藤村記念館提供
32	尚江の父 秀勝		木下家提供	
33	尚江の家族	左より、妻みさ子、尚江、母汲	木下家提供	
34	「ふるさと」	島崎藤村著 実業之日本社	大正9年刊	当館蔵
35	複製 楠雄宛書簡	ふるさと馬籠に帰農した長男楠雄に宛てた藤村の書簡	大正15年2月4日	馬籠藤村記念館蔵
36	木下尚江遺稿 「病中吟」	尚江が口述した、信州から東京へ出る祭の保福寺峠を越える歌も掲載されている。	昭和12年	当館蔵
37	写真 開智学校		明治9年ころ	松本市歴史の里蔵
38	写真 開智学校	尚江は、明治2年信濃国松本に生まれ、明治9年に開智学校に入学した。		当館蔵
39	「卒業証書」	尚江の長野県中学校松本支校（現長野県松本深志高等学校）の卒業証書	明治19年2月13日	木下家蔵
40	「成績優秀賞」	尚江が東京専門学校（現早稲田大学）卒業の際に送られた。	明治21年7月20日	木下家蔵
41	「得業証書」	尚江の東京専門学校（現早稲田大学）卒業証書	明治21年7月20日	木下家蔵
42	写真 藤村上京時の記念写真	明治14年。前列右より、島崎友弥（三兄）、高瀬慎夫（姉園の長男）、藤村（9歳）、大脇吉次郎（馬籠大黒屋の次男）、後列右より、島崎広助（次兄）、島崎秀雄（長兄）	明治14年	馬籠藤村記念館提供
43	写真 島崎藤村	明治学院入学の翌年 15歳	明治21年1月	馬籠藤村記念館提供
44	写真 「学友達と」	下段左端が藤村16歳この年6月17日、木村熊二から洗礼を受け、高輪台町教会に属す。学院の同級生に戸川秋骨、馬場孤蝶らがいた。	明治21年	馬籠藤村記念館提供
45	写真 「明治女学校卒業記念」	明治女学校卒業記念。前列左端が藤村。藤村は13年の教師生活で「若菜集」「一葉舟」など詩集を次々に発行するとともに、「女学雑誌」「文学界」その他に、30数編もの翻訳や作品の紹介をした。		馬籠藤村記念館提供
46	「松本美以教会会員簿」	尚江は、中田久吉牧師から洗礼を受ける。	明治26年10月22日	日本基督教団松本教会提供
47	複写 「余ハ如何ニして基督教を信するニ至りしか」	木下尚江自筆原稿	明治24年6月8日	早稲田大学文学学術院提供
48	複写 「女学雑誌」288号 （3部）	明治25年藤村が翻訳をしたものが、初めて掲載された。		臨川書店復刻国会図書館蔵
49	写真 島崎藤村	25歳	明治30年11月	馬籠藤村記念館提供
50	「若菜集」	島崎藤村著 この処女詩集で連作の一つ「おつた」に登場する「世に孤児の吾身」とは、孤女学院に引き取られた震災孤女「おつた」がモデルである。	明治30年刊	当館蔵
51	「一葉舟」	島崎藤村著	明治31年刊	当館蔵
52	「夏草」	島崎藤村著	明治31年刊	当館蔵
53	「落梅集」	島崎藤村著 藤村最後の詩集	明治34年刊	当館蔵
54	藤村自筆掛物	「落梅集」の「小諸なる古城のほとり」が揮毫されている。		個人蔵
55	写真 「明治学院校歌」	島崎藤村作詞 前田久八作曲	明治39年	馬籠藤村記念館提供
56	写真 小諸の女子学舎 卒業写真	後列左端が藤村	明治36年撮影	当館蔵
57	写真 小諸義塾の卒業記念	後列左端が藤村		当館蔵
58	藤村自筆掛物	「落梅集」の「寂寥」の一部が揮毫されている。		個人蔵

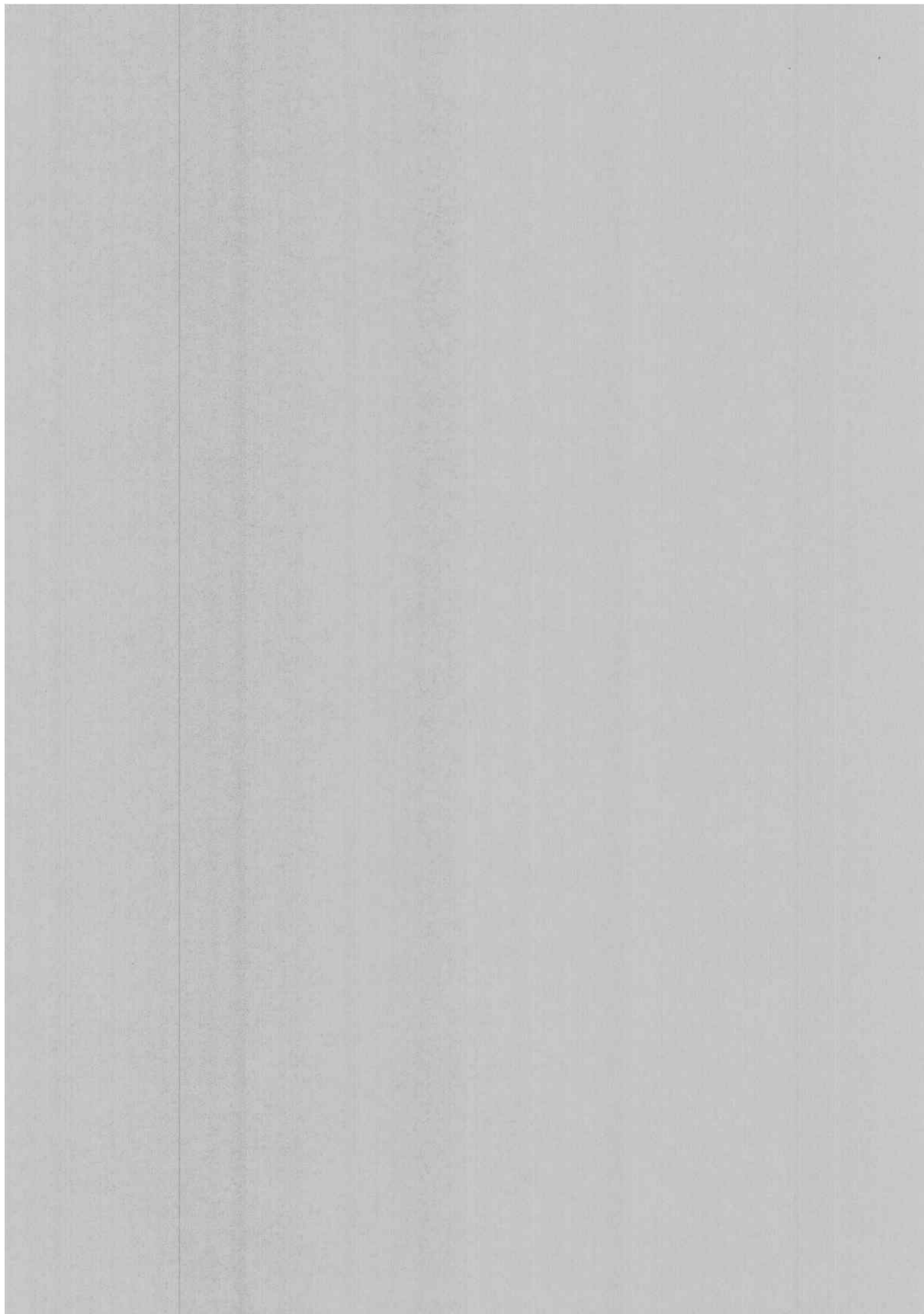
59	「破戒」	島崎藤村著	明治39年3月刊	当館蔵
60	新紀元第7号「破壊」の評	木下尚江著	明治39年5月10日発行	山田貞光氏蔵
61	写真「「破戒」刊行の年神津家の庭にて」	右より、藤村、神津猛、田山花袋、鮫島晋、神津てう（猛の妻）、中沢べん（てうの姪）。ロシア語版	明治39年11月	馬籠藤村記念館提供
62	写真「破戒」	島崎藤村著	昭和6年刊	馬籠藤村記念館提供
63	「家」上巻	家族制度の下に生きる血族を描いた、自然主義文学の傑作。	明治44年刊	当館蔵
64	「家」下巻	前列右より秦カツ（妻冬子の妹）、冬子、楠雄、葛子（長兄秀雄の次女）、一人おいて高瀬操（甥鎮夫の妻）、抱かれているのは鶏二、後列右より、島崎こま子（次兄広助の次女）、ひさ（広助の長女）、いさ子（秀雄の長女）	明治41年夏	当館蔵
65	写真「明治41年夏、西国川開きの日、浅草新片町の写真館で」	島崎藤村著	明治41年刊	堀越宏一氏提供・町田市立自由民権資料館協力
66	写真 北村透谷	藤村最初の自伝的小説。この小説に登場する青木のモデルが北村透谷と言われ	明治25年発行	臨川書店復刻 国立国会図書館蔵
67	「春」	「厭世詩家と女性」が掲載された。	明治41年刊	臨川書店復刻 国立国会図書館蔵
68	複写「女学雑誌」303号		明治25年発行	株式会社社中村屋提供
69	写真 相馬黒光	相馬黒光著	昭和19年刊	個人蔵
70	「穂高高原」	相馬黒光著	昭和11年刊	山田貞光氏蔵
71	「黙移」	相馬愛蔵・黒光夫妻はインド独立運動の志士ビバリ・ボースを官憲から保護した。夫妻の長女俊子はボースと結婚した。		木下家蔵
72	写真「ビバリ・ボース夫妻 「木下尚江様 ラッシュ・ビバリ・ボースより心から敬意をこめて 1920年8月2日」			木下家蔵
73	写真 石井亮一			滝乃川学園石井記念文庫提供
74	写真 石井筆子			滝乃川学園石井記念文庫提供
75	写真 滝野川村時代の学園（室外遊戯）	明治31年ころ		滝乃川学園石井記念文庫提供
76	写真「濃尾大震災写真帖」中の高富町破壊状況	明治24年10月28日 美濃尾張中心に激震がおそった。マグネチュードは8.0、世界でも最大級の内陸直下型地震であった。地震は西は九州全土に、東は東北地方まで達し、死者は全国で7273人、全壊・焼失家屋142000戸という大きな被害をこうむった。		岐阜県歴史資料館提供
77	「有志寄附簿」	孤女学院への寄附者および寄附金額を石井亮一が学院創立当時から記した帳簿。	明治25年〜31年	滝乃川学園石井記念文庫提供
78	複写「滝野川孤女学園を訪ふ（上）」	毎日新聞 木下尚江記事	明治32年3月24日	国立国会図書館蔵
79	複写「滝野川孤女学園を訪ふ（下）」	毎日新聞 木下尚江記事	明治32年3月25日	国立国会図書館蔵
80	「石井筆子の生涯」	大村市・石井筆子顕彰事業実行委員会	明治30年7月	当館蔵
81	複写「普通選挙ヲ請願スルノ趣意」			山田貞光氏蔵
82	写真 石川半山・木下尚江 他	上段右が半山、下段右が尚江。半山は、明治27年長野松本の「新府日報」の主筆を勤め、島田三郎の毎日新聞などの記者も勤める。	明治24年長野にて執筆	木下家提供
83	複写「信濃富国論」原稿	木下尚江自筆原稿		早稲田大学文学学術院提供
84	複写 島田三郎			国立国会図書館のホームページ ジ画面から転載

114	近代日本キリスト教文学全集 3巻	木下尚江「火の柱」、島崎藤村「桜の実の熟する時」の2作が収録されている。	昭和50年刊	個人蔵
113	「田中正造翁」	木下尚江著	大正10年刊	山田貞光氏蔵
112	複写 「田中正造翁の入獄を送る」	毎日新聞 木下尚江記事	明治35年6月16日	国立国会図書館提供
111	複写 「足尾鉾毒問題(2)」	毎日新聞 木下尚江記事	明治33年3月7日	国立国会図書館提供
110	「足尾鉾毒問題」	毎日新聞の尚江の記事を編集したもの。	明治33年刊	山田貞光氏蔵
109	田中翁の歌	木下尚江筆	明治42年7月	木下家蔵
108	田中正造が尚江に贈った扇面	「妻を叱るものは即ち其妻に叱られる人ならん」	明治42年7月	木下家蔵
107	田中正造自筆額	「至誠」	明治43年	木下家蔵
106	写真 田中正造と尚江	中央が尚江。その右が田中正造	明治43年	木下家提供
105	写真 田中正造		明治43年	木下家提供
104	「安曇野」第一部第五部	白井吉見著 筑摩書房刊行	第1部は昭和40年刊	個人蔵
103	複写 「一夜の仮寝」	尚江自筆原稿	明治30年5月上旬	早稲田大学文学部提供
102	「うたたね」 新小説第2年 第12巻	島崎藤村著	明治34年11月刊	馬籠藤村記念館蔵
101	複写 「新紀元創刊号」	明治38年11月10日新紀元が刊行される。尚江は、巻頭で「日本国民の使命」と「目前の二大急務」の2本の論文を掲載した。二大急務は、「万国平和会議の提唱」と「普通選挙の実施」であった。全13号。	明治38年11月10日	国立国会図書館蔵
100	複写 「同志の面影 △木下尚江君」	平民新聞 幸徳秋水らが尚江を紹介した。	明治36年12月20日	国立国会図書館蔵
99	複写 「非軍備論」	毎日新聞 木下尚江記事	明治36年5月19日	国立国会図書館蔵
98	複写 「咄々怪事社会民主党禁止せらる」	毎日新聞 木下尚江記事	明治34年5月21日	国立国会図書館蔵
97	複写 「世界平和に対する日本国民の責任(上)」	毎日新聞 木下尚江記事	明治32年3月17日	国立国会図書館蔵
96	複写 「軍国時代の言論」	毎日新聞 木下尚江記事	明治37年2月25日	国立国会図書館蔵
95	複写 「戦争の影」	毎日新聞 木下尚江記事	明治37年2月28日	国立国会図書館蔵
94	写真 「社会民主党の創立発起人」	前列左から安部磯雄、幸徳秋水、片山潜、後列左から河上清、尚江、西川光二郎	明治34年5月	法政大学大原社会問題研究所蔵
93	写真 幸徳秋水		明治34年5月	四万十市立図書館提供
92	写真 木下尚江	明治38年7月28日幸徳の出獄を迎えた。	明治38年7月28日	木下家蔵
91	写真 日刊平民の筆禍に係る石川、山口、式兄の下獄記念		明治40年5月	木下家蔵
90	「良人の自白」 上・中・下続編	木下尚江著	明治37年 上刊	松本市歴史の里蔵
89	「Pillar of Fire」	「火の柱」の英語版	昭和47年刊	松本市歴史の里蔵
88	「火の柱」	木下尚江著	明治37年刊	松本市歴史の里蔵
87	複写 「少女我社に来る汚れし社会を厭ひ吉原遊郭を逃れて」	木下尚江記事 毎日新聞	明治33年3月7日	国立国会図書館蔵
86	「自由党の『存娼』運動(一)」	木下尚江自筆原稿 毎日新聞所載とある。	明治33年7月14日	木下家蔵
85	「娼娼之急務」	島田三郎・木下尚江著 共著だが、本文は全て尚江の執筆といわれる。	明治33年刊	山田貞光氏蔵

115	複写 『桜の実の熟する時』 原稿	島崎藤村著 藤村の明治学院での学生々々が生々と描かれている。	大正8年刊	馬籠藤村記念館蔵
116	『桜の実の熟する時』			
117	『懺悔』	木下尚江著	明治39年刊	松本市歴史の里蔵
118	『荒野』	木下尚江著	明治42年刊	山田貞光氏蔵
119	『霊か肉か』 上	木下尚江著	明治40年刊	山田貞光氏蔵
120	『霊か肉か』 下	木下尚江著	明治41年刊	山田貞光氏蔵
121	藤村愛用品 単衣	昭和3年藤村と加藤静子の結婚の際に加藤家から記念に贈られた芭蕉布でできた単衣。		当館蔵
122	藤村自筆掛物	左の「明月」とともに、藤村と静子夫人が婚約時に交わした言葉を書にしたもの。と伝えられる。 「夕陽無限好唯是追黄昏」	昭和3年	当館蔵
123	島崎静子 自筆掛物	島崎静子 「明月」	昭和3年	当館蔵
124	写真 島崎正樹	右が正樹	明治10年頃	馬籠藤村記念館提供
125	『島崎家訓』	正樹自筆	明治18年	馬籠藤村記念館蔵
126	『夜明け前』	島崎藤村著	昭和7年 第一部刊	当館蔵
127	『千字文』	正樹自筆	天保9年	馬籠藤村記念館蔵
128	島崎静子 自筆原稿	島崎静子 「あとがき」 「処女地」 発行の感想が書かれている。 翌年10号で終巻した。	大正11年創刊	当館蔵
129	『処女地』 第一号			当館蔵
130	『藤村 妻への手紙』			当館蔵
131	島崎静子書簡	伊藤一夫宛 藤村愛用の単衣について書かれている。 「静楽」と印刷してある。		当館蔵
132	岡田虎二郎 額			木下家蔵
133	写真 岡田虎二郎			木下家蔵
134	写真 伊香保にて	右から深沢利重、一人おいてみさ子、尚江（しゃがんでいる）	明治39年	木下家蔵
135	静座水曜会			松本市歴史の里蔵
136	木下尚江の写真		大正2年7月30日	木下家蔵
137	定期券	駒込―日暮里間	大正12年3月14日 発行	木下家蔵
138	『岡田式静坐法』	尚江の「余が思想の一大転化は静坐の賜り也」が掲載されている。	明治45年刊	山田貞光氏蔵
139	尚江 自筆掛物			当館蔵
140	尚江書簡	林廣吉宛 当時林廣吉は、新聞記者。尚江から指導を受けていた。 「般若波羅蜜多心経」が写経されている。	昭和8年1月30日 付	木下家蔵
141	尚江 「写経」		昭和6年	木下家蔵
142	尚江 「写経」	「信心銘」が写経されている。	昭和7年	当館蔵
143	写真 「新約聖書」	尚江愛用品 見返しに「父なる神」と揮毫されている	昭和4年10月11日	木下家蔵

144	『法然と親鸞』	木下尚江著	明治44年刊	山田貞光氏蔵
145	『日蓮論』	木下尚江著	明治43年刊	山田貞光氏蔵
146	尚江 自筆書画 (5枚)			当館蔵
147	尚江愛用品 数珠			木下家蔵
148	写真 島崎藤村	麻布飯倉片町の自宅にて。	昭和7年	馬籠藤村記念館提供
149	『浄土宗聖典』	藤村愛用品 望月信道編 無我山房発行	大正11年11月10日 発行	馬籠藤村記念館蔵
150	『藤村いろは歌留多』(復刻版)	岡本一平画 「いろはかるた 版權解放の阻止 この金は貧者へ」と近代文学館所蔵の「夜明け前」ノートにメモが残る。	昭和2年刊	当館蔵
151	『島崎藤村コレクション 第2巻 知られざる晩年の島崎藤村』	青木正美著 国書刊行会発行	平成10年9月22日 昭和12年6月10日 刊	当館蔵
152	『国民歌謡選集』	全16曲中に藤村作詞「椰子の実」「朝」の2曲が入っている。その他「日本よい国」「祖国の柱」などが収録されている。	昭和18年2月20日 刊	個人蔵
153	『勅語勅諭集』			個人蔵
154	『雑記帳』	藤村の晩年の創作ノート2冊を昭和18年に藤村の甥の一郎が写したものの。 (上) 最後のページに「一郎写」とある。 (下) 「本質へ・・・」と東方の門の創作メモが写されている		当館蔵
155	尚江 自筆掛物	「上善如水」と揮毫されている	昭和12年元旦	木下家蔵
156	尚江 自画像	「如露如電」	昭和12年10月30日	木下家蔵
157	尚江 辞世の句	「何一つもたて行くこそ故きとの無為の国へのみやげなるらし」 「無為の国」とは、岡田虎二郎の「静坐無為国」(治めずして治まる国)	昭和12年10月29日	木下家蔵
158	河上肇書簡	木下正造宛 尚江の昇天のあと、息子の正造に宛てられた書簡。尚江の講演の思い出などが書かれている。河上肇はマルクス経済学者。元京都大学教授。	昭和12年12月18日 付	木下家蔵
159	息子正造への葉書 (5枚)	尚江は、晩年の昭和12年(1937)早稲田大学を卒業し働く正造へ毎日葉書を出した。	昭和12年3月〜6月	木下家蔵
160	写真 木下尚江	西ヶ原の自宅にて。	昭和11年12月9日	木下家蔵
161	尚江著 『神・人間・自由』	「神の解放」「幸徳秋水と僕」「政治の破産者 田中正造」「自由の使徒 島田三郎」「文学の未だ無かった早稲田」など12編からなる。	昭和9年刊	松本市歴史の里蔵
162	複製 『桜の実の熟する時』の原稿	島崎藤村著		馬籠藤村記念館蔵
163	写真	右より、みさ子、正造、尚江、純枝	大正3年	木下家提供
164	写真	フランスより帰国して東京芝二本榎の島崎広助(次兄)宅にて、右より藤村、鶏二、楠雄、島崎やよ(広助の義母)、重樹(広助の長男)、権藤誠子(藤村の弟子)、島崎こま子(広助の次女)		馬籠藤村記念館提供





島崎藤村
(馬籠藤村記念館提供)
明治30年11月
25歳



藤村著『夏草』
(当館蔵)
明治31年刊



藤村著『若菜集』
(当館蔵)
明治30年刊 この処女詩集で連作の一つ「おつた」に登場する「世に孤児の吾身」とは、孤女学院に引き取られた震災孤女「おつた」がモデルである。

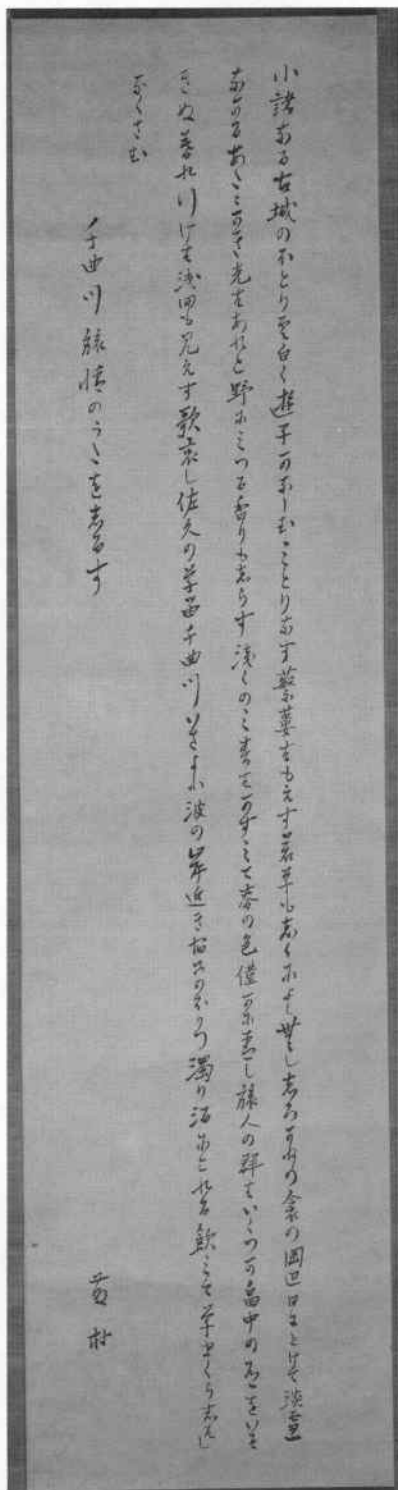


藤村著『落梅集』
(当館蔵)
明治34年刊 藤村最後の詩集



藤村著『一葉舟』
(当館蔵)
明治31年刊

藤村作詞「明治学院校歌」
(馬籠藤村記念館提供)
明治39年
前田久作曲

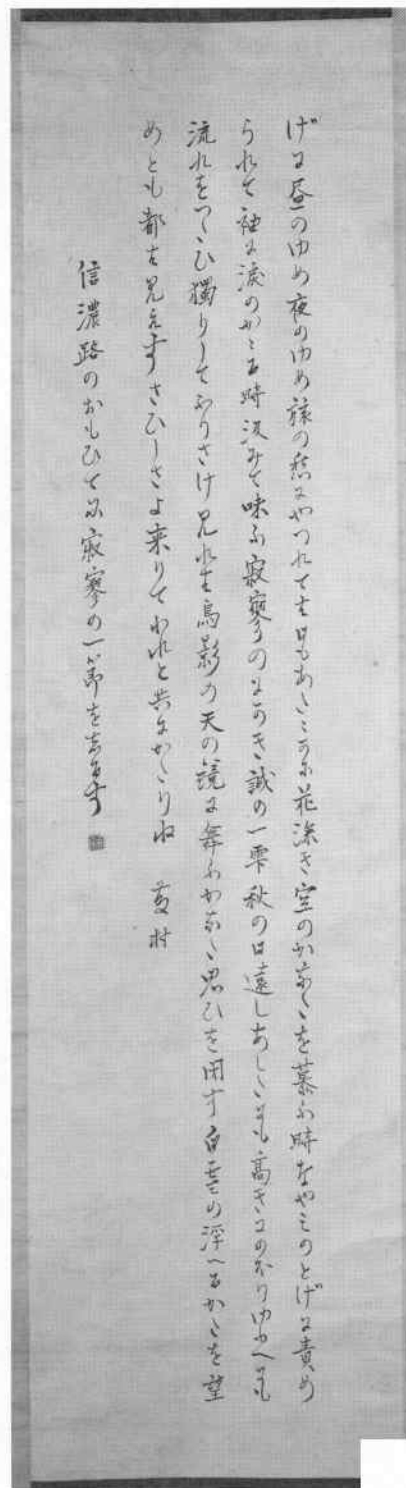


藤村 自筆掛物

(個人蔵)

『落梅集』の「小諸なる古城のほとり」が揮毫されている。

「小諸なる古城のほとり」
雲白く遊子悲しむ
緑なすはこべは萌えず
若草も藉ぐによなし
しろがねの衾の岡邊
日に溶けて淡雪流る...



藤村 自筆掛物

(個人蔵)

『落梅集』の「寂寥」の一節が揮毫されている。

「けに昼の夢夜の夢
旅の愁にやつては
日も暖に花深き...

二人の青年時代

藤村は、明治十四年（一八八一）に上京し、東京市立泰明小学校に通い、卒業後は、三田英学校（現錦城学園高等学校）から尋常中学共立学校（現開成高等学校）を経て、明治二十年（一八八七）に明治学院普通部本科（現明治学院大学）に入學した。当時の学院は、教授陣の三分の二が米国人教師であった。毎週英語演説会や討論会があった。藤村は、二年生のころまで定期テストが九十五点平均の秀才といわれた。後半はシェイクスピア、ワーズワース、バイロン等を耽読、次第に文筆活動を始め、新府日報などの新聞記者を勤めながら、明治二十五年（一八九二）に明治女学校の教職につき、英語、国語を教えた。

尚江は、明治十九年（一八八六）に長野県中学校松本支校（現長野県松本深志高等学校）を卒業すると、少年時代に読んだ『万国史』に

登場するクロムウェルの革命精神を学ぶため、同年三月に上京し、英国法の授業のあった英吉利法律学校（現中央大学）に入學するものの、同年四月「英国憲法の講義のある東京専門学校（現早稲田大学）へ中途入學した。東京専門学校では、法律のほか、坪内逍遙などを



「学友達と」
（馬籠藤村記念館提供）

明治21年 下段左端が藤村16歳 この年6月17日、木村熊二から洗礼を受け、高輪台町教会に属す。学院の同級生に戸川秋骨、馬場孤蝶らがいた。



「女学雑誌 298号」
（臨川書店復刻 国立国会図書館蔵）
明治25年 藤村が翻訳をしたものが、初めて掲載された。



「明治女学校卒業記念」
（馬籠藤村記念館提供）

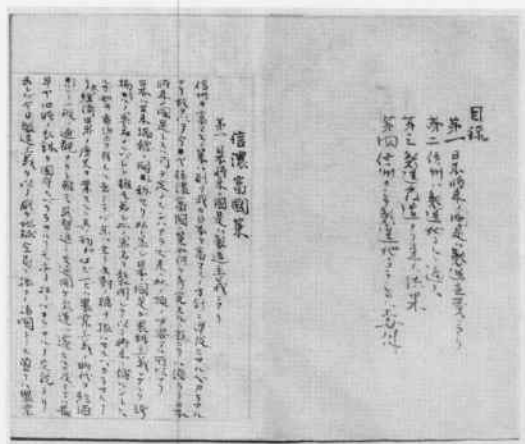
明治女学校卒業記念 前列左端が藤村。藤村は13年の教師生活で『若菜集』『一葉舟』など詩集を次々に発行するとともに、「女学雑誌」「文学界」その他に、30数篇もの翻訳や作品の紹介をした。西欧文学とその思想を紹介するかたわら、詩人からやがて小説家に変貌をとげるうえで教師体験は大きな基盤となっていた。



「成績優秀賞」 （木下家蔵）
明治21年7月20日 尚江が東京専門学校（現早稲田大学）卒業の際に送られた。



「得業証書」 （木下家蔵）
明治21年7月20日 尚江の東京専門学校（現早稲田大）卒業証書



尚江自筆原稿 『信濃富国論』
（早稲田大学文学学術院提供）
明治24年 長野にて執筆した。



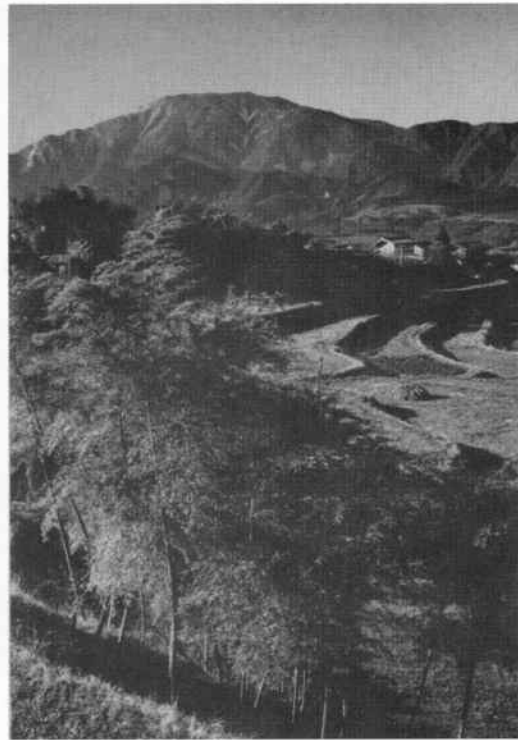
「松本美以教会員簿」
（日本基督教団松本教会提供）
明治26年10月22日 尚江は、中田久吉牧師から洗礼を受ける。

二人のふるさと



開智学校（現松本市）

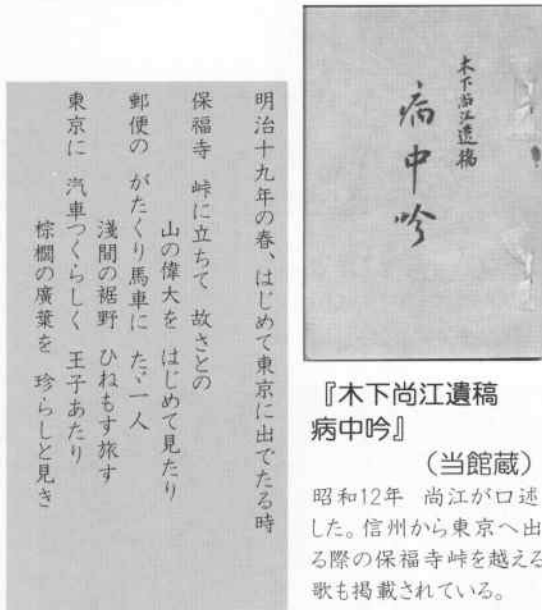
尚江は、明治2年信濃国松本に生まれ、明治9年に開智学校に入学した。



馬籠と恵那山（現中津川市）

（馬籠藤村記念館提供）

藤村は、明治5年に木曾の馬籠に生まれた。



『木下尚江遺稿
病中吟』

（当館蔵）

昭和12年 尚江が口述した。信州から東京へ出る際の保福寺峠を越える歌も掲載されている。



藤村著『ふるさと』
（当館蔵）

大正9年刊
実業之日本社



新茶屋の碑「是より北 木曾路 藤村老人」

（馬籠藤村記念館提供）

藤村自筆 昭和15年揮毫 昭和32年ふるさと友の会により建立。



尚江の家族 （木下家提供）

左より、妻みさ子、尚江、母汲



尚江の父 秀勝

（木下家提供）



「藤村上京時の記念写真」

（馬籠藤村記念館提供）

明治14年。前列右より、島崎友弥（三兄）、高瀬慎夫（姉園の長男）、藤村（9歳）、大脇吉次郎（馬籠大黒屋の次男）、後列右より、島崎広助（次兄）、島崎秀雄（長兄）

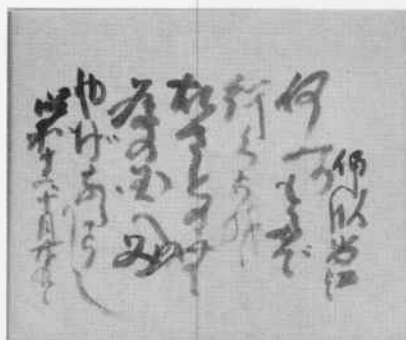
島崎藤村と木下尚江



木下尚江（木下家提供）



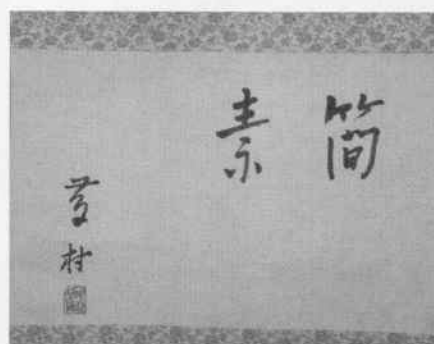
島崎藤村（馬籠藤村記念館写真提供）



尚江 辞世の句（木下家蔵）
「何一つもたで行くそ故さとの無為の国
へのみやげなるらし」
昭和12年10月29日

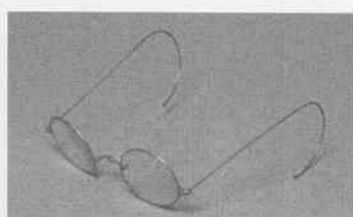
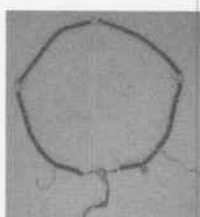


尚江 自画像
（木下家蔵）
「如露如電」
昭和12年10月30日



藤村 自筆掛物
（馬籠藤村記念館写真提供）
「簡素」

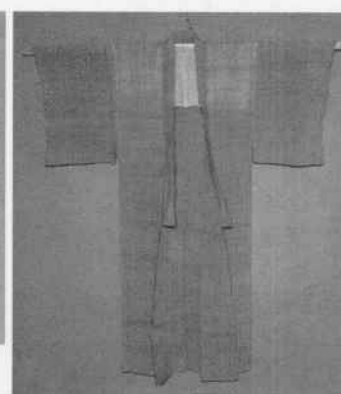
「無為の国」とは、岡田虎二郎の「静坐
無為国」（治めずして治まる国）



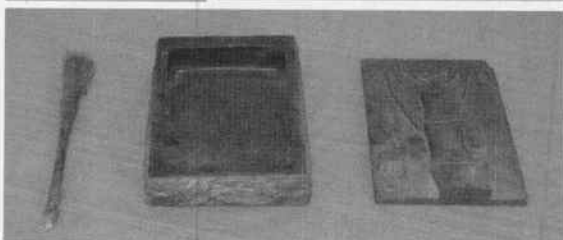
新約聖書
（松本市歴
史の里蔵）
昭和11年に尚
江の妻みさ子
が亡くなった際
に尚江が配布
した。



数珠
（写真当館蔵）
藤村が島崎こま子に
贈った数珠



藤村愛用品 浴衣
（当館蔵）
昭和3年藤村と加藤静子の結婚
の際に加藤家から記念に贈られ
た芭蕉布でできた浴衣。



尚江愛用品 数珠 眼鏡 硯と筆
（木下家蔵）



藤村愛用品 筆
（馬籠藤村記念
館蔵）

開催の趣旨

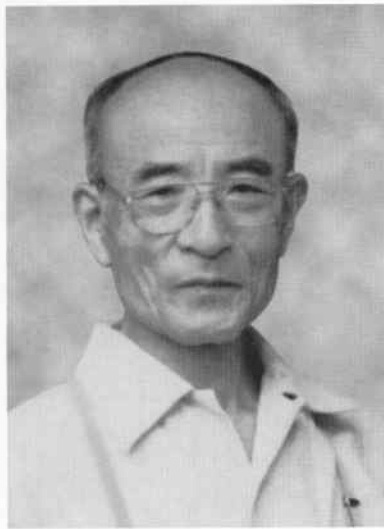
平成十六年（二〇〇四）七月、島崎藤村の研究者である東洋大学名誉教授の故伊東一夫文学博士が来館され、木下尚江の直筆未公開書画数十点を当館に寄贈された。

その折、諏訪地方にゆかりが多く、新聞記者、弁護士として全国的に知られた木下尚江と青年の求めに応じて当地方を度々訪れた島崎藤村について、当館の博物館専門委員でもある伊東博士から提言がなされた。

「二人は青年時代にキリスト教の洗礼を受け、文筆を通じて社会改革をめざした。藤村は穩健（コンサーバティブ）に、尚江は急進的（ラディカル）に実践した」、また「晩年にはともに仏教に近づいた」など、その思想活動の源泉にして、意外に知られざる二人の共通点に光をあてた展示会開催の示唆をいただいた。その一ヵ月後、伊東博士は急逝されたのであった。

この度の文芸特別展は、敬虔なクリスチャンの故伊東一夫博士のご遺志を継ぎ、開催することになった。

茅野市ハヶ岳麓文芸館
茅野市ハヶ岳総合博物館



伊東一夫博士



島崎藤村書簡（当館蔵）
昭和6年 伊東一夫宛

「簡素に」

伊東が旧制諏訪中学校生のとき、藤村に弟子入りを願う書簡を送った。右の書簡とともに藤村からの返信に励まされ、伊東は藤村研究に生涯を捧げるようになった。

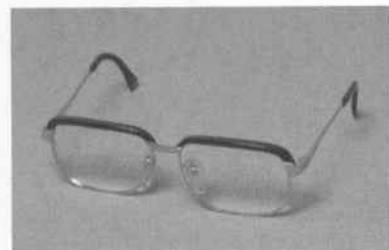


島崎藤村書簡（当館蔵）

昭和6年1月6日 伊東一夫宛

「誰でもが太陽であり得る、わたしたちの急務は、たゞ目の前の太陽を追ひかけることではなくて、自分等の内に高く太陽をかけることだ」

島崎藤村 大正14年1月28日付の朝日新聞に掲載の「春を待ちつ」からの抜粋が書かれている。



伊東一夫博士愛用の眼鏡（当館蔵）

伊東一夫博士 略年譜（藤村研究を中心に）
大正三年（一九一四）十一月三日 長野県諏訪郡下諏訪町に誕生。
昭和八年（一九三三）十八歳 旧制長野県立諏訪中学校（現長野県諏訪清陵高等学校）卒業。上京。
昭和十五年（一九四〇）二十五歳 私立東洋大学文学部卒業。同大研究科副手。近代文学思想史専攻。
昭和十六年（一九四一）二十六歳 帰郷。長野県立松本高等学校（現長野県松本城崎高等学校）に赴任、国語教諭（一九四四）。旧制諏訪中学校（現長野県諏訪清陵高等学校）教諭（一九四五～一九五八）。
「藤村は小説家、私一夫は研究者としてわが師藤村を追求しよう」と決意する（江戸川大学新井正彦先生による）。
昭和三十一年（一九五六）四十一歳 東洋大学文学部国文学科非常勤講師に就任。翌年から青山学院大学講師を兼務。
昭和三十四年（一九五八）四十四歳 上京。東洋大学助教。藤村研究の完成を期す。

昭和三十七年（一九六二）四十七歳 「島崎藤村研究」により文学博士を授与される。博士論文は『島崎藤村研究』として出版。
昭和三十八年（一九六九）四十八歳 藤村没後二十年を機に、藤村研究誌「風雪」を創刊。
昭和四十四年（一九六九）五十四歳 東洋大学教授に就任（一九八五まで）。
昭和四十七年（一九七二）五十七歳 『島崎藤村事典』を編集出版。
昭和四十九年（一九七五）五十九歳 島崎藤村研究会（後の島崎藤村学会）創設。初代会長に就任。
昭和六十年（一九八五）七十歳 東洋大学教授退職。新設の江戸川女子短期大学（現江戸川大学）教授に就任（一九九五）。同年四月一日東洋大学名誉教授。
昭和六十二年（一九八七）七十二歳 『文芸の構造』刊行。東洋大学での講義「文芸概論」を集大成した。見返しに『夜明け前』の原稿を掲載。
平成十年（一九九八）八十三歳 『島崎藤村コレクション』（全四巻）（伊東一夫・青木正美編著）を刊行。
平成十六年（二〇〇四）九月十七日召天。
八十九歳。二十一日、日本基督教団境南教会にて葬儀。平松良夫牧師が司式。

文芸特別展

島崎藤村と木下尚江

― 伊東一夫博士からの伝言 ―

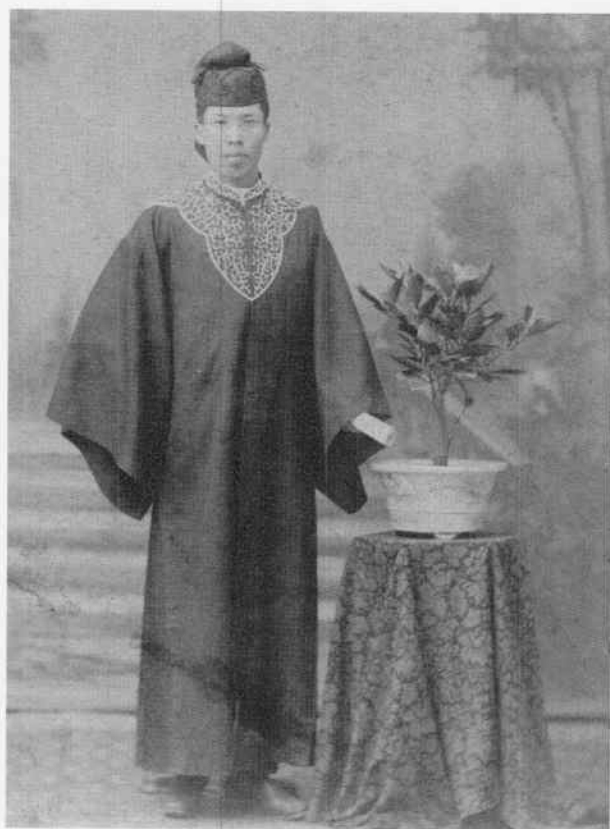


「島崎藤村 講演記念」

(馬籠藤村記念館提供)

大正6年10月23日 諏訪郡玉川村(現茅野市)の玉川小学校の講堂で講演会が開催された。聴衆は200名、演題は、「学問の精神」であった。木曾福島の代官山村素門公の事績を主に、1時間半ほど講演した。

上の写真は、馬上左から藤村、鶏二、楠雄。



「木下尚江 代言人時代」

(木下家提供)

明治26年に、尚江は代言人(現在の弁護士)試験に合格した。

明治28年、諏訪郡上諏訪町(現諏訪市)に木下法律事務所諏訪出張所を開いた。右の資料は、明治30年3月13日付の上諏訪町木下尚江宛の判決正本の送達状(松本市歴史の里蔵)。右下に尚江の署名がある。



目次

文芸部門

・文芸特別展 島崎藤村と木下尚江 ―伊東一夫博士からの伝言―

……………吉田一雄・大谷勝己(二)

・文芸特別展 島崎藤村と木下尚江 展示目録……………吉田一雄・大谷勝己(十八)

年報

・平成18年度事業報告……………25

寄贈図書目録……………宮下りよ 15

I 茅野市柳川の水温・伝導度・pHは季節によって……………茅野靖夫 1

どのように変化しているのでしょうか

II 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか……………茅野靖夫 5

〽柳川に棲息する水生昆虫群集〽

III 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか……………茅野靖夫 9

〽滝の湯川に棲息する水生昆虫群集〽

IV 茅野市を流れる河川にはどんな水生昆虫が棲んでいるのでしょうか……………茅野靖夫 12

〽音無川に棲息する水生昆虫群集〽

紀 要 第15号 2007年3月31日

編集発行 茅野市八ヶ岳総合博物館
〒391-0213 長野県茅野市豊平6983番地
TEL 0266(73)0300
FAX 0266(72)6119

紀

要

第十五号
〈平成十八年度〉

茅野市八ヶ岳総合博物館